ゴッドマザーに捧げる頌歌（しょうか）

ラニ スッブラマニアム女史がバガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも 1950 年のことでした。バガヴァンは彼女のことを「ラニ マー」と親しみを込めて呼ばれ、彼女の人生は、熱心な帰依者たちに分かち合ってくださった、数々の光きらめく体験の宝石箱でした。彼女は“A Pilgrimage to the Realm of Peace”『平安の王国への巡礼』（仮題）の著者です。ラジオ サイのラニ マー・シリーズと、ハート 2 ハートの特集記事である“Mesmerizing Moments With Divine Master”『神聖なる師に魅了される瞬間』（仮題）は、リスナーや読者の間で極めて人気が高く、数か国語に翻訳されています。

彼女は 2012 年 12 月 1 日に他界するまでの数年間、プラシャシャーンティ ニラヤムで暮らし、身体が衰えていたにも関わらず、最期まで帰依者たちを導き、高め続けてくださいました。

荼毘にふす炎の光輝は、槇の山を覆い尽くし、彼女の亡骸を永遠に消滅させました。未知の宇宙の領域に彼女が還っていくその背景には、岩の丘がずっしりと構え、川は枯渇し、放牧された山羊が生草を食べ、風が炎で生じた煙を吹き飛ばし、太陽が輝いていました。

私たちはラニ マーを失ったことを悲しんでいましたが、それは彼女が解放された瞬間でもあり、あとに残された者にとっては、一時代の終わりでした。

霊性の道

ラニ マーがスワミのもとを訪れるようになったのは、かなり昔の 1950 年のことでしたが、多くの帰依者と同様に、彼女は唯一の目的である霊性の道を懸命に目指していました。そのような帰依者にとって、人生の他の道は決してあり得なかったのです。

彼女は不完全であるがゆえに、内なる完全に向って毎瞬努力を惜しみませんでした。困難が降りかかろうとも、勇敢な魂によってそれらに立ち向かいました。ひるむことも

ありましたが、英知を結集して困難に向かって突き進みました。彼女はひとりの人間でしたが、常に神の神聖火花になるという目標を貫き通しました。このすべてと、更に多くのことが、彼女を、親愛なるスワミの霊感を与える素晴らしい帰依者にしています。

スワミがご逝去されてから、落ち込んで完全に自分を見失うと、私が隠れて安らぎを得ていた場所がありました。ラニ マーを訪問すること―　それは私に霊的な強さをもたらし、同じように彼女にも大きな安らぎを与えていました。それは私の記憶に深く刻み込まれました。彼女は最期の自由を切望していました。彼女と過ごす時間は、滅びゆく身体と不滅の魂という生命の循環、とりわけ霊性の道にすべてを捧げた人生の偉大さを示す、実践体験の授業でした。

完璧な手本

ゴッドマザーは、魂がゴール（神）に向かう旅の準備ができたときに到達します。彼女は川岸から幼い子亀を見守り、子どもたちを育てるお母さん亀のように、私たちを育んでくださいました。

ラニ マーほどの器量を持つ人には、滅多に出会うことはないでしょう。彼女はパティヴラター〔夫にすべてを捧げた貞淑な妻〕であり、彼女の子どもたちや、彼女の姉妹の子どもたちにとっては偉大な母であり、シュリ アーナンダ モィーマー（1896-1982 インドの聖女）の敬虔な信者であり、私たちの親愛なるバガヴァンの帰依者の宝石でした。

ラニ マーと共に過ごした多くの時間、数えきれないほどのスワミとの体験、霊性の師たちとの交流、そして彼女から教わったことを人生の中でチャレンジし、更に霊的な道を成就するのに必要なものを、彼女は愛情を込めて熱心に分かち合ってくださいました。私が一番心を打たれたこととは、彼女の目の前にいると、世俗的な思いや心配事から私の心が離れて、どれほど安らぎを感じたかということです。

ラニ マーは毎回、会うたびにスワミのお話をしてくださり、スワミに帰依するとはどういうことかを話してくださいました。彼女がおっしゃるには、彼女が私たちに話してくださることで、スワミとの輝かしい時間を彼女に甦らせるという奉仕を、私たちが行っているということでした。

スワミの御言葉に従うラニ マーの従順さは、最も感銘を与えるものでした。彼女はスワミが言われた通りに従いましたが、彼女が従った最も大切な御教えとは、常に約束を守るということでした。あなたが何か約束をするなら、それを大切にし、それに従わなければなりません。そして、ラニ マーは完璧にそれを実践しました。

彼女は、内なるスワミのご指示に常に従っていました。大変な困難にも関わらず、常に微笑みを実践し、こん睡状態の最期の瞬間でさえも、優しく微笑んでいたのです！ スワミが彼女に話されたことを、常に私たちに繰り返し思い出させてくださいました。それは、この人生は単なる夢であり、何が起ころうとも、私たちは照覧者になるべきだということです。

（ラニ マーは右から三人目の女性）

スワミは彼女に、昇進や救済などよりも、マナス シャーンティ（精神的な平安）のために祈るように、ずいぶん昔に助言されました。ですから彼女は私たちにも、マナス シャーンティ（心の平安）、グリハ シャーンティ（家庭の平安）、ヴィシュワ シャーンティ（世界の平安）のために祈るように導いてくださいました。

ラニ マーと共に過ごしたサットサング〔善き交わり〕は、彼女のお話を聞く者と彼女との両者にとって、特別な楽しみとなりました。スワミは彼女に小グループだけで話すことを望んでおられ、常に彼女は真摯にスワミのご命令に従いました。

あなたと私の間には何の違いもありません

私たちは愛することによってのみ、愛を学ぶことができます。２００１年、私は友人を介してラニマーと彼女の妹、サルジュ マーに出会い、その際に、サイの道を生きるとは何を意味するのかを理解しました。両姉妹は非常に簡素で模範的な生活をされていました。彼女たちに最初に出会ったときから、共に過ごした数えきれないほどの時間に、私はどれほど愛され、元気づけられたことでしょう。そのことを、私は常に大切に心にしまっています。

唯一の真理とは、神への信仰の道のみであり、その道を快活に生きなければならないということです！　この道が真実になるためには、それが苦にならず、自然に習慣が身についていなければなりません。喜んでこの道を選び、断固として従い、決して振り返ってはなりません。

彼女がスワミのもとを訪れた５０年代から６０年代にかけてのある時期は、日が暮れるとただバジャンが歌われて終了していました。マンディールを去る際、スワミが彼女を呼ばれ、おっしゃいました。

「ラニ マー、私がなぜこの人間の姿をとって降臨したかわかりますか？ 私はあなたと私の間には何の違いもないことを、あなた方に悟らせるためだけに来たのです。私とあなたは一体であり、同じなのです」

彼女は臨終のときまで絶え間なく、この真実を実現することに努めました。

―ラジオ サイ チーム―

出典：http://media.radiosai.org/journals/vol_11/01MAR13/ranimaa.htm

神聖なる師に魅了される瞬間

60 年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミル ナードゥ州出身のラニ スッブラマニアム女史がバガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも 1950 年のことでした。現在 85 歳で（2008 年 4 月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれています。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってくださっています。

ラニ マー女史へのインタビューより

第一部

最初の神の呼び出し･･･

私が最初に神の呼び出しを受けたのは 1950 年のことでした。当時、私は南部地方ではなく、ナーグプル（インド中部、マディヤ プラデーシュ州）に住んでいましたので、スワミのことを耳にする幸運な機会はありませんでした。私にとって実の姉のような献身的な婦人、カマラ サーラティ女史が、初めて私にスワミについて話してくれました。

彼女はデリーにいた際に、彼女に音楽を教えていた人を通じてスワミのことを聞いたのです。この人物は古典音楽の歌手で、プッタパルティでもよく歌っていました。その彼が、カマラ女史に、彼女はババ様に会いに行かなければならないと告げました。

このようにして、カマラ サーラティ女史は初めてスワミのもとに来ました。そして彼女は、スワミの存在に大変強い感銘を受けて帰って行きました。プッタパルティでのすべてのことに大変心を動かされ、彼女は私に手紙を書いてきました。「次回、私が行くときには、あなたも行かなければなりません。なぜなら、あなたは何か大切なことを逃しているからです！　彼はとても偉大な魂です！　彼はバガヴァン（至高神）だと思うのです」　当時、私たちにはスワミが神であるという確信がありませんでした。

あぁ！　忘れ得ぬ旅路

彼女が２回目にスワミのもとを訪れる際に同行すると話していたにも関わらず、私は家事のために止むを得ず、行くことができませんでした。最終的には、1950 年に彼女の３回目の訪問のときに同行しました。この旅に、私は２人の幼い我が子である息子と娘を連れて行きました。列車は小さなペヌコンダ駅に２分足らずしか停車しませんでした。文字通り、私は自分の旅行カバンを素早く列車から放り投げて降ろさなければなりませんでした。そして、バスの停留所まで行くために、牛車ではなく馬車を見つけました。その日はブッカパトナム（当時、プッタパルティに一番近い村）まで行くためのバスが故障していて、修理中でした。バスの運転手は言いました。

「アンマー（お母さん）、修理中です。修理が終わるまで動けません。だから何時に出発できるか、我々にもわかりません」

そのため私たちは数時間待ち、遂にそのバスに乗り込みました。そこにはカマラ サーラティ女史、彼女の二人の音楽の師、私の姉妹の子どもたちなど、10 人～12 人ほどがいました。ブッカパトナムに到着したころには、まもなく夜の 11 時になろうとしていました。そこからプッタパルティまで牛車に乗らなければなりません。当時はこれが唯一の交通手段でしたが、実際には、牛車には旅行カバンと幼い子どもたちだけを乗せて、私たちは歩かなければなりませんでした。御者たちは言いました。
「大人はできるだけ歩いていただければ、私たちが幼い子どもたちを乗せて行きます。子どもたちは２時間も歩くことはできないでしょうから」　既に深夜でしたので、他の牛車もありませんでした。ですから、私たちがプッタパルティに到着したころには、真夜中の１時になっていました。

絶え間なく皆を導く光

真っ暗闇でした！ 道路もありませんでした。あるのはただ、森のように荷車が通れる幅の道だけで、石ころだらけの地面の上を、牛車は上下に飛び跳ねながら進みました。私はそれまでこのような場所に行ったことがなかったので、かなり大変な経験になりました。あまりにも真っ暗で、何も見ることができませんでした。

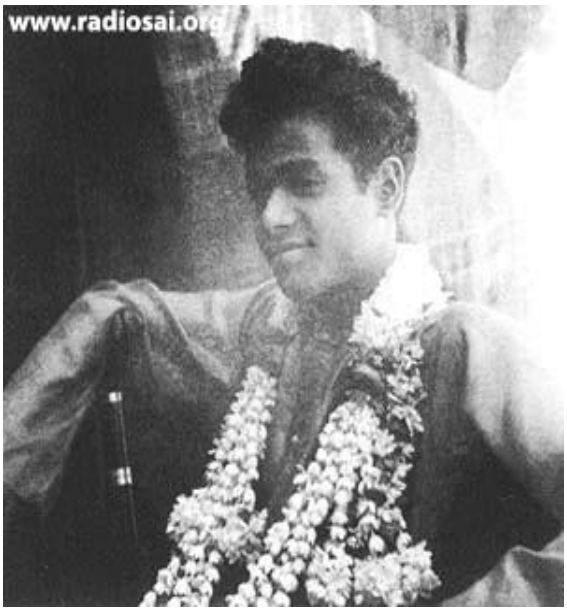
そのとき、音楽の師であるチダンバライア氏（かつてスワミのバジャンのためにヴァイオリンを弾いていた人）が言いました。
「心配してはなりません！ スワミが私たちと一緒にいてくださいます」すると突然、私たちは空に光のボールを見たのです！ それはまるで月のようでしたが、巨大でした！

彼は言いました。「あれはババ様です！　ババ様は世界に奉仕しておられるのです！ ババ様は私たちと一緒にいてくださっています！」　私たちには何のことだかわかりませんでした！ 私たちにはこのような奇跡の経験が全くありませんでしたので、山火事ではないかと思いました。彼は言いました。「あれはババ様の光です！ スワミはプラパンチャ（世界）がどのような様子か見るために、夜間に旅をされるのです」

とりあえず、私たちは元気に真夜中の１時に到着しました。正直なところ、スワミのお住まいは少しも印象的ではありませんでした。壁や門やきちんとした建造物は何もありませんでした！　整備された庭もなく、棘や蟻塚だけがそこら中にありました。

落ち着いて腰をおろした後、私は尋ねました。「私たちはどこで眠るのですか？」誰かが言いました。「あなた方はここで、空の下で眠らなければなりません！」私はてっ

きり誰かが中に入れてくださると思っていたのですが、彼らは言いました。
「いいえ、あなた方はここで眠らなければなりません」



そこには、帰依者たちのための大きなシェッド（倉庫）がありました。そのシェッドの奥にはスワミの聖堂がありました。そこはスワミの玉座が置かれている祭壇でした。そのシェッド内にはスワミのための別のお部屋はなく、中央にカーテンが掛けられ、仕切られていました。同じシェッドにスワミの祭壇があり、そこにスワミがバジャンのために来られ、座られていたのです。

バジャンの最後にはカーテンが引かれたものでしたが、私たちは皆、その同じシェッドの中にいました。そして、小さく囲いをされたスワミご自身の本当のお部屋は、井戸のある中庭にありました。

神の歓迎

その夜、暗闇の中で、突然、私たちは誰かの姿を目にしました。ババ様でした！　どうして私たちが到着したことをご存知だったのでしょう？ ババ様は大きな長い松明を手にかざして、そのシェッドから出て来られたのです！ そして、その松明を私たちに向けて照らされました。そこには木製ではない大きな鉄製の扉があり、スワミがその扉を開けて、誰が来たのかを見るために明かりを照らされたのです。

次に、スワミは私の姉、カマラ サーラティに近づいて来られ、お尋ねになりました。
「もう何か食べましたか？　私が何か食物を持ってくることはできますが、平らにした米とチャナ豆（ひよこ豆）があるだけです。それ以上のものは何もありません。もし水が飲みたいのであれば、水はあります。何が欲しいですか？ 」
姉は言いました。
「スワミ、ご心配なさらないでください。すべてありますので大丈夫です」
スワミはおっしゃいました。
「あなた方が大丈夫なら、今はもう眠りなさい。朝に会いましょう」
そして、スワミは去って行かれました。翌朝、私たちはシェッドの中に入り、休んでいました。すると、スワミが私たちのところに来られました。当時、スワミは何度もシェッドに出入りされていました。スワミはいつでも、9 回、10 回、12 回、2 回、他数回、来られては気さくに止むことなく、皆に話をして回られました。決まった規則は何もあ

りませんでした。何かを尋ねたい時は、いつでも何でもスワミに尋ねることができました。スワミはいつでも応じてくださったのです！

そして、スワミは朝の 8 時か 8 時半頃に来られ、おっしゃいました。
「皆、すっかり落ち着きましたね」
スワミはまた、待合室があるので、その中の狭いスペースに私たちのベッドやトランクを置くことができる、と言ってくださいました。そこには 20 人～30 人もいなかったので、まったく混み合うことはありませんでした。

謎に包まれた内在者

スワミは朝に来られ、私の両姉妹に話しかけられました。それから私をご覧になり、向きをかえて、何も話しかけることなく行ってしまわれました。次の日もスワミは来られましたが、前日と同じように姉妹たちに話しかけ、私をご覧になり、私にはまったく言葉をかけてくださいませんでした。そして、三日目だったと思いますが、姉が私のことを哀れに思って言いました。
「スワミは私たち二人には話されるけれど、あなたには話されないわね。私たちはそのことを悲しく感じているの。今日、スワミにどうしてなのか尋ねるつもりよ！ 」

そして、スワミが来られたので、姉は尋ねました。
「スワミ、どうしてもう一人の妹を無視されるのですか？ あなたは彼女が誰なのかさえ尋ねてくださいません！ どうしてこのようなことをなさるのですか？ 」
スワミはおっしゃいました。
「私には理由があります。私には彼女が何を感じ、何を考えているのかわかっているのです。彼女はここの環境が快適ではなく、私の姿に違和感を抱いています。彼女は『スワミの髪、スワミのローブ！ 私はこのような人を他に見たことがないわ！ 』と思っているのです！ 彼女は少々私のことを奇妙に感じています。ですから私は彼女に時間を与えているのです。無視しているのではありません。彼女自身の気持ちが落ち着き、慣れるように時間を与えているのです。何もかもが彼女にはとても奇妙に感じられ、理解できず、非常に混乱しています。ですからこの段階では、私は彼女に何も話すことができないのです」

私はスワミがクリパー（恩寵）を与えてくださったのだと感じました。スワミのオーラが私を落ち着かせてくれました！ なぜなら、スワミは私たちの内側や外側のどこにおられようとも、私たちの心を落ち着かせるために、このような善い波動を皆に与えることができるからです。それができるのはスワミのみです！ そして、スワミは戻って行かれ、数日後、私にインタビューに来るように言われました。スワミは私ひとりだけを呼び、別の部屋に連れていかれました。当時、インタビュールームはありませんでしたが、

この部屋の隣にもうひとつ別の部屋があり、その部屋も聖堂のようでした。

雨が降ると、シェッドの中にまで水が入ってきました！ 窓もありませんでしたし、隙間からも水が入り込み、私たちの所持品はすべて濡れてしまいました！ 部屋を変えなければなりませんでした！ 今度はどこに行き、どこに落ち着くことができるのでしょう？ さほど広くはありませんが、もうひとつ別のホールがあり、そこには帰依者たちが皆、ぎゅうぎゅう詰めに座っていました。横になるスペースがまったくなかったからです！ その場所も聖堂のようでした。いくつかスワミのコップや物が置かれていましたが、スワミがバジャンのためにそこにお座りになったことはありません。スワミがお座りになっていたのはシェッドのみでした！ それゆえ、時折、スワミは個人インタビューのために、人々をその場所へ連れて行かれたものでした。

一度グルの元に来たなら、あなたがしたいように行うことはできません ― ラニ マー

そのとき、スワミは、どこから来たか等、他にも詳しく私に尋ねられ、最後に「あなたの予定はどうなっていますか？ 」とお尋ねになりました。私は言いました。「スワミ、私は 10 日間しかここでの滞在を許可されていません。私の姻戚（義理の両親）は 10 日間の許可を与えてくれました。彼らは私がどこにいるのか、誰に会っているのかさえ知らないので、10 日後には帰宅しなければなりません！ 彼らは私のことをとても心配するでしょう。ですから滞在を延長するわけにはいかないのです」

すると、スワミはおっしゃいました。

「いいえ！ あなたは行けません！ 私は 10 日後にあなたを行かせません！ 」

私は少々困惑して言いました。

「スワミ、私が義理の両親に背くと彼らはすごく怒るでしょう。この状況を私が対処するのは大変なことです」 スワミは言われました。

「私は気にしません。私はあなたを行かせません！ 少なくとも 1 か月か、それ以上あなたはここに滞在しなければなりません！ あなたがいつ出発するかは私が告げます！ 」

私は言いました。

「でもスワミ、彼らに（滞在延長を）知らせなければなりません。私はどうすればよいのか何もわからないのです！ どのようにして彼らに知らせればよいのですか？ 」

スワミは言われました。

「電報を打つよう私が手配しましょう。住所をください。何も心配してはなりません。あなたのために私が電報を打ちましょう」 そして、私は言いました。

「わかりました。スワミ」

ここで私がお伝えようとしているのは、当時、私は霊的な人生に心を開いていなかったので、このことをまったく理解していなかったということです。霊的な人生とは、私たち

がいる俗世間とは異なります。同様に、霊的な行いと俗世間の行いもまったく正反対です。一度グル〔霊性の師〕のもとに来たなら、あなたがしたいように行うことはできません！　これは、スワミがこのできごとを通して私たちに伝えようとされていたことです。

スワミは私たちがそれを受け入れる段階になるために準備されていました。私たちはすぐにそのメッセージを受け取りました。
「あなたが私に従いたいならば、私があなたに従ってもらいたいやり方で、私に従わなければなりません。『スワミ、私は 10 日間しか滞在しません！』 などと言うことはできません！ あなたが自分で結論を出すことはできないのです！」
スワミはそのことを非常にはっきりと示してくださいました。そして、何度かこのような体験があり、いったんスワミに従い始めると、それは非常に困難な道になるということを確信させられました。自分の意思とは反対の、逆のことがあるからです。しかしながら、スワミに従いたいのであれば、このことすべてにおいて、心づもりをしておかなければなりません。

人々は皆、多少なりとも言い分があるかもしれませんが、スワミのことを愛しているならば、スワミに服従する用意がなければなりません。スワミは従いやすいグルではないという思いが私たちの心に浮かびましたが、スワミに従いたいなら、この道を承諾しなければなりません。スワミが妥協されることはありません。スワミは何を望んでいるかをはっきりと私たちに話されます。従おうが、従わないでいようが、私たち次第であり、それに応じて報いを受け取るのです。服従して祝福を受け取るか、服従しないのであれば、祝福はありません。ですから私はご命令を受け入れました。その後、スワミは私に話し始められ、万事うまくいきました。

苦悩のない進歩はない

当時、私たちは朝の沐浴のために、坂を幾つも越えて行かなければなりませんでした。それは非常に困難な時代でした。スワミは私たちにこれらの困難を味わわせ、この神の道に対する帰依心をテストされていたのです！　すべてを捧げることができるなら、不平を言うことなく、苦難や不便さにも耐えることができるのです。

蚊には噛まれますし、扇風機もありません。このようなあらゆる困難がたくさん起こりました。例えば、雨で持ち物が全部濡れてしまっても、穏やかでいなければなりません。もし不平を言うなら、何もメリット（利点･長所）はなく、デメリット（短所）のみです。受け入れることがメリットです！ このことが非常にはっきりとわかりました。

またスワミは難しい師ではありますが、非常に偉大な師であることも悟りました。そ

れは、スワミがおっしゃることに何でも喜んで従う人々が、非常に少数だということを意味しています！ そして、スワミのことを理解しようとしてはいけないともスワミは言われます。私自身の場合は、謙虚であればスワミへの理解がもたらされるということがわかりました。私たちの知識は不要であり、馬鹿げたことです！ どうしてバガヴァンを理解できるというのでしょうか？

神を理解するには、スワミからの恩寵がなければなりません！ その恩寵は、スワミの導きに従って人生を生き、実践することによってもたらされます。何であれスワミがおっしゃることに従うのであれば、本を読む必要はないとスワミは言われます。プラシャーンティ ニラヤムで、スワミは一度、私たちの部屋に来られました。当時、スワミは私たちの部屋によく出入りされ、座って食事をされ、一緒に遊ばれました。それは非常に親密な関係でした。

「霊性とは内なる旅です」— ババ

そしてある日、スワミはおっしゃいました。
「あなた方はたくさんの本を読んでいますね！ 」
私たちは尋ねました。
「ではスワミ、どんな本を読むべきでしょうか？ 私たちは霊的な人生について多くを知りませんので、自分で教養を身につけたいのです」
私たちは読んでいた本のすべてが役立つと思っていたのです。すると、スワミはおっしゃいました。
「聖者の人生の本を読むとメッセージを受け取るでしょう。その他の本すべては役に立ちません！ それらはあなたの頭を重く（頭でっかちに）するだけです。聖者の本からは英知に関するすべてのことがわかるでしょう。それはアドワイタ（不二一元）の英知で満たされています。他のすべての本は必要ありません！ 聖者の人生だけを読みなさい。彼らは霊性の道を辿り、そこから恩恵を受けて悟りました。すべての巡礼は自分の内側にあり、外側にそれを探し求めることはできません。外側ではまったく得られないのです。外のことは忘れなさい！ 霊性とは内なる旅なのです」

そして、スワミは更なる指針を与えてくださり、おっしゃいました。
「疑いが出てきたなら、静かに座り『スワミ、私にはわかりません。どうか意味を明らかにしてください。今どうすればよいか教えてください』と、スワミに祈りなさい。助けを求め、座って祈りを通じて私に接しなさい」
そしてスワミは言われました。
「ラニ マー、今後あなたに問題が起こったなら、祈らなければなりません。ただし誠

実に祈りなさい。表面的に祈るのではなく、ただ一心に祈りなさい。気持ちを落ち着かせて座り、深くあなたの内に入り、祈りなさい。私の遍在をあなたに見せましょう」

一度、スワミはプラシャーンティ ニラヤムの私の部屋に来られました。当時はスワミが私たちの部屋に来て話をしてくださっていたのです！　私たちの方がインタビュールームに行く必要はありませんでした。私たちは好きなときにスワミのお部屋に行くことが許されていました。限られた帰依者たちには、上階のスワミのお部屋に行くことが許されていたのです。私たちもその限られた帰依者たちの一員でした。

私にはこの特権がありましたが、この貴重な機会を必要以上に欲して、疑問が起こるたびにスワミのお部屋に駆け上がりたいとは思いませんでした。スワミも私たちの部屋に来てくださり、尋ねることができたからです。

神を探求していたため、結婚していない独身の妹がもうひとりいました。彼女は四番目の妹です。その妹と私は同じ部屋に滞在していて、その部屋にスワミが入って来られました。スワミは私たちをご覧になり、言われました。
「私が神だということを、あなた方はまだ確信していませんね？ 私の神性を疑っていますね？　そうでしょう？ 」スワミは単刀直入に尋ねられました。

プラシャーンティ ニラヤムは、当時まだ建設されていませんでした。私たちは黙りこくって、ただスワミを見つめていました。それは、「そうです！ 」という意味でした。スワミに直接答えることなどできなかったからです。スワミは何でもご存知なのに、どうして私たちが答えなければならないのでしょう？ するとスワミはおっしゃいました。
「それ（疑問を持つこと）は自然なことです！ 何も不自然なことではありません。誰かがあなたのもとに来て、『私が神です！』と単に話しただけで、どうして信じることができるでしょう！？ 何も悪いことではありません。それはとても自然なことです」

「あなた方は私の遍在をテストしなければなりません！」　ババ

スワミは私たちが疑いを持つことを好んでおられないと思っていましたが、「それは自然なことです！ 」と言ってくださいました。ですからある意味で、私たちは自分たちの疑いが許されたことを嬉しく思いました。するとスワミはおっしゃいました。
「しかしながら、ひとつあなた方が行わなければなければならないことがあります。疑念を取り除くことです。常に疑いを持って生きることはできないので、努力しなさい！ 私が神であるなら、私は遍在を示さなければなりません。他には誰も遍在であることはできません。神のみがそれを示すことができます！ 」

普通のグルは、ババ様が私たちにしてくださっているやり方で導くことはできません。

スワミは言われました。
「あなた方は私の遍在をテストしなければなりません！ 」
　そして、スワミは強く主張されました。
「あなた方はそうしなければなりません！ 他に方法はありません！ そうして初めて、あなた方の疑いは晴れるのです」
　プッタパルティで、どのように神の遍在がテストできるのでしょうか？ 神はすでにそこにおられるのです！ スワミは言われました。
「それぞれ自宅に戻ってから、私の遍在性が有効かどうかテストしなさい！ あなた方自身のために、そのテストをしなければなりません！ 」

　その遍在性自体が、スワミが偉大なグルであることを証明しています。スワミは「私が神であると話したのに、あなた方はどうして疑いを持なければならないですか？ なぜあなた方は信じることができないのですか？ 」とは言われませんでした。スワミはこのように言われました。「それは自然なことです！ すべての人は疑いを持っています。しかし、疑いはあなた自身の人生の中で、あなた自身の努力によって取り除かれなければなりません」

（ 続く・・・）

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01APR08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第二部

　あるときスワミは私におっしゃいました。
「ラニ マー、あなたが私の恩寵を手にしたのは、そのような人生をあなたが生きてきたからで

す！ 」それ（私の人生）は完璧ではないかもしれません。わかりますか？ あなたがババ様と共に歩む道を行くとしても、それは一晩で完璧な人になるという意味ではないのです！　私たちには人間として脱却しなければならない多くの欠点や、多くの欠陥があるのです。霊的な人生は、私たちが歩んできた人生とは完全に異なるからです。人生全体を再構築し、再設定しなければならないということです。それは大仕事です。私たちの想い、言葉、行い、すべてを霊的にするということです。それは容易なことではありません。一方を考えていながら、他方のことを話すといった習慣が、単に一度の人生だけではなく幾度も生まれ変わってくる中で形成されているからです！　私たちは幾度も人間のような前世を生きてきました。そして今、突然、神聖なる生涯を歩まなければならないのです！

霊的な人生を送る意味とは何か

霊的な人生とは何でしょうか？ それはどんなときでも、源（神、真我）と共にあなた自身がつながっている神聖な人生のことです！ それは、神のレベルから考え、話し、働くことです。それが、ババ様が私たちに話されたことです。
「あなたは私の遍在をテストしなければなりません」　更にババ様は言われました。
「あなたが私の恩寵を勝ち得たのは、あなたが単に（恩寵を）獲得したからではなく、内なる真我と共に働いたからだけなのです。あなたは自分自身で英知を身に付け始めていますが、最後の非常に大変な、博士課程のテストに合格しなければなりません」
このテストを、私は何度も生まれ変わって受けるのかもしれません！ しかし、私は諦めることはできません。たとえこれまで 10 回生まれ変わってきたにせよ、少なくとも私は 1 回目から 10 回目までの人生を歩んで来たのです！ 「一歩だけを見つめなさい！ あなたがどこに行くのか、この人生であとどのくらい行けば到達するのかを、どうして知りたがるのですか？ それ（このような質問すること）はすべて誤りです」と、スワミが言われたのはこのような理由からです。スワミは個人的に私たちにお話しくださいました。
「先を見てはなりません！ ただ目の前の一歩のみを見つめなさい！ 」
例えば、自分は短気で、貪欲で、とても不愛想で、とても自分勝手であるなど、自分自身が持っているかもしれない欠点があります。各自に異なった短所があります。その欠点は何でもあり得ます。ババ様は皆さんに無私になってほしいのです。スワミはおっしゃいました。
「それ（無私になること）はあなたが優先すべきことです。あなたは常に他人を最優先すべきです。あなた自身のことを忘れなければなりません。それが究極の自己実現（悟り）です」

自己実現の最終段階とは何でしょうか？ あなた自身を忘れることです！ 私たちは常に、この肉体である自分自身のためだけに、これやあれやと欲しがります！ これは霊的な道においては禁じられています。自分自身のことは忘れなければなりません。初めに

あなた自身の内なる神を見て、あなたの内に神が内在することを確信しなければなりません。初めにあなたのグルの内に神を見て、二番目にあなた自身の内に内在者としての神を見るまで、あなたはすべての人の内に神を見ることはできないでしょう！

主なる神をテストする

そして、スワミはおっしゃいました。

「行って、私をテストしなさい」そして私はスワミをテストしました。何が起きたのでしょう。私の夫は医者ですので、家族の者が何かの病気になれば、必要なときには医者を呼ぶことができます。あるとき夫は、マディヤ プラデーシュ州（インド中央部）中を検診で回らなければなりませんでした。その最中に、息子が重い病気になり、摂氏 39.4 度～40 度の高熱が 5 日間も続きました！ ある医者が来て息子の容態を診た際は、最初、息子はマラリアにかかっているのではないかと考えていました。そしてその後、その医者は息子の病気はインフルエンザだと告げました。けれども、その医者は正確な病気の原因を見つけることはできませんでした。医者は処方し続けましたが、息子の病気はどんな薬も効きませんでした！ それから 4 日目に、その医者は私のところに来て言いました。

「私は息子さんに、マラリア、流感、デング熱、と薬を変えて処方してきましたが、私の処方に反応はなく、どれも効きません。それで、息子さんの病気は腸チフスではないかと考えられます」

腸チフスの適切な治療を受けるためには血液検査をしなければなりません。医者は言いました。「明日の夕刻、私は息子さんの血液を採取しに来ましょう。検査後に病気が腸チフスだと確定すれば、その治療を開始します」

息子は当時、まだ 5 歳か 6 歳で、熱はまったく下がりませんでした！ 彼はせん妄状態になりました！ 彼の脳は錯乱していて人を認識することができなくなり、何が起こっているのかわからなくなっていました。無意味なことをあれこれ口走っていました！ 息子は私が母だということも認識しなくなり、ただ私を見つめ、それからベッドから走り去り、赤ちゃん言葉を話していました！ 私にはどうして息子がこのような言葉を発するのか理解できませんでした！ わからなかったのです。息子の病気は脳炎か何かそれに似たものではないかと思いました！ 息子をベッドに連れ戻そうとしても、すぐに走りたがりました！ 私は心配し、いったい息子に何が起こったのだろうと思い悩みました！

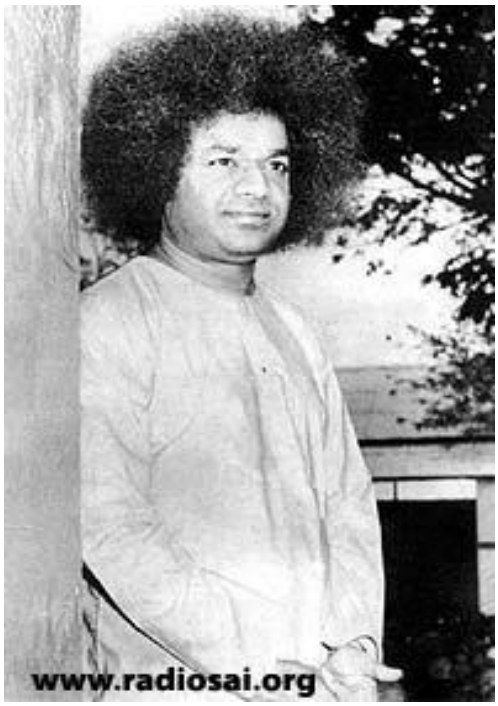
そして突然、ババ様のお考えが私の心に浮かびました。
「私の遍在をテストしなさいと言ったであろう！ 今がそのテストをするときです！ 行って、私に祈りなさい」　実際に声か何かを聞いたわけではありません。ただ、それが私自身の心の中に浮かんだのです。とりあえず私はメイドに息子の面倒をみてくれるように頼んで、ただ祈るために（礼拝室へ）行き、戻ってくるつもりでした。

そして夜 9 時に、私は自宅の祭壇のある部屋に行き、スワミに話しかけました。
「スワミ、あなたは遍在をテストするように言われました。今日、私はあなたの遍在が必要です。この子が発狂して異常な行動をとっているのです！ 私には何が起こっているのかさえわからないのです！ あなたの助けが必要です！ どうか来て何とかしてください。本当にスワミが来てくださり、息子を救ってくださるなら、条件を三つ聞き入れてください！ 一つ目は私が息子の元に戻ると彼がぐっすり眠っていて、走り出して無意味なこと口走らないようにしてください！　もし聞き入れてくださるなら、私はあなたが遍在であるとわかるでしょう」

「二つ目は、朝、私が目覚めて息子の熱を測ると平熱になり、ちょうど摂氏 36.8 度になっていること。摂氏 37.2 度（華氏 99 度）なら私は受け入れません！ 体温は通常午後に上がりますから、午後にも再度、測ります。そして夕方になってもまだ摂氏 36.8 度を保っていること！ 息子はすべての面で正常に完治しなければなりません！ そうすれば、私はスワミが息子を救ってくださったことを信じるでしょう」
スワミは神と繋がるために、ジャパをして、神の御名を唱えなければならないと言われました。神はフリダヤヴァースィー、内在者であり、私だけでなくすべての人の祈りも聞いておられます。なぜならスワミは万人に内在されているからです。それゆえ私の祈りのメッセージは神に届くのです。私にはマントラがあったので、祈りの部屋でしばらく座って、そのマントラを唱え始めました。

そして、立ち上がって寝室に戻ると、息子が熟睡しているのを見つけました！ 私はメイドに尋ねました。
「いつ眠ったのですか？ 」 彼女は言いました。
「奥様、あなたがここを離れられてから数分後に、息子さんは眠りに落ちました」
私が祈りに行ってから息子が起きることはなく、ぐっすり眠っていたのです！ そして、翌朝も息子は正常に目覚めたのです！ 赤ちゃん言葉の戯言を話す息子はそこにはいませんでした！　彼がいつもの息子に戻ったことが私にはわかりました！ そして息子の熱を午後と夕方に測りましたが、体温は摂氏 36.8 度でした！ これ以上、私は何を望めばよいのでしょうか？

神の明確な答え



その時、ちょうどスワミはヴェーンカタギリ（インド南東部）で、ヴェーンカタギリのマハーラージャ（藩王）一族と一緒におられ、夜の 9 時に彼らと話をされていました。当時、スワミはシュリ ラーマ ナヴァミー祭の間、ヴェーンカタギリの藩王とクマーラ ラージャ（王の息子）のところに滞在されたものでした。マハーラージャ はヴェーンカタギリまで車でスワミをお連れしていました。マハーラージャは偉大なラーマ神の帰依者であり、彼にとってババ様は大好きな神様だったのです。ですからその時、夜 9 時に私が祈りを捧げていた時、スワミはちょうどヴェーンカタギリのマハーラージャ（藩王）と話をされていたのですが、トランス状態に入ってしまわれました！ スワミは仰向けに倒れ、彼ら（藩王とその息子）は何が起こったのか理解できませんでした！ クマーラ ラージャは、スワミがまるで意識を失い、突然倒れてしまったかのように思いました！

スワミの意識が回復すると、二人はスワミに尋ねました。

「スワミ、いったい何が起こったのですか！？ 」

彼らはトランス状態について聞いたことはありましたが、その時まで、実際にそれを目撃した経験はありませんでした。そこで彼らはスワミに尋ねました。

「トランス状態に入られていたのですか？ どこかに行っておられたのですか？ 」

スワミはこのこと（トランス状態でどこかへ行ったこと）をお認めになりました。

そこで、彼らはスワミに尋ねました。

「いったい何が起こったのですか？ どうしてトランス状態に入らなければならなかったのですか？ 」　スワミはお答えになりました。

「私の帰依者の一人、ラニ マーが大変困難な状態にいたのです」

スワミは私の名前（ラニ マー）を口にされたのです！ スワミはおっしゃいました。

「彼女の夫は検診の出張に行っていて、自宅におらず、彼女と二人の子どもたちがいるだけでした。彼女の幼い息子は高熱のために錯乱状態になっていました。彼女はとても心配し、困り果てていました。彼女は私に祈りました。『スワミ、私のところに来てあなたの遍在を見せてください！ 』そのため、私はその少年の元に行って彼を救ってきたのです。もうその少年は大丈夫です」

ヴェーンカタギリの藩王は嬉しくなり、言いました。

「おお、良かったですね！ 」

しかし、若者のクマーラ ラージャは言いました。

「スワミ、次回そのラニ マーがいらしたら、彼女に是非、お会いしたいです。そして

あなたがお救いになった幼い少年にも会いたいです。私に彼らを見せてくださいますか？ 」マハーラージャ（藩王）は息子のようにスワミに願うことは何もありませんでした。マハーラージャはスワミを完全に受け入れていたからです。しかし、若いラージャは証拠が欲しかったのです。スワミはおっしゃいました。

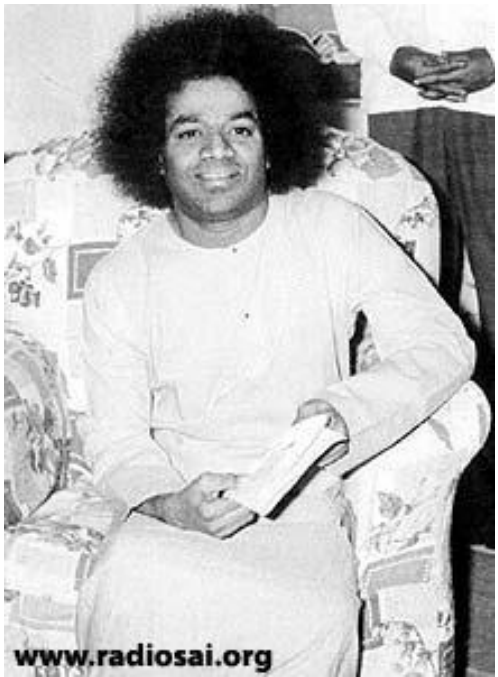
「心配いりません。彼女は半年ごとにここへ来ます」

シャーンティ（平安）を得る

私はかつて半年ごとに、時には年に三度も、プッタパルティに来ていました。当時、スワミのオーラはとてもパワフルだったことをお伝えしておかなければなりません！ スワミは非常に短期間の内に、私たちの考えのすべてを真に変革することができました！ 初めての訪問のとき、数日間で私は何もかも受け入ることができたのです！ 通常なら、私は自宅に雨が入ってくるのを受け入れることができず、（感情的に）反応してしまっていたでしょう！ けれどもそこでは何も反応しませんでした。スワミが神の力を私たちに体験させてくださったのです。

理解できない人もいるかもしれませんが、私は最初の訪問だけで理解できました。スワミに無限の力が備わっていることを理解する恩寵を授かっていたのです！ 私たちはどのようにして乗り越えることができたのでしょう？ 私たちは（そこでの不便な生活が）苦になると思っていましたが、困ることは一切ありませんでした。用を足すにも丘まで行かなければなりませんでしたが、「あぁ！ 歩かなければならないのか」とか「あぁ！ トイレがない」と悩まされることはなく、喜んで歩いて行きました。

水道水もなかったので、たくさんの衣類を洗うために、井戸の水を汲むか、そこにいた大勢の子どもたちを一緒に連れて、まるで洗濯屋のように延々とパタ マンディールからチットラーヴァティー川まで歩いて行き、また戻って来ていました。このようなことにはまったく慣れていませんでした！ にもかかわらずプッタパルティを去るときは泣いていたのです！ 信じられますか？ 私たちは自宅に帰りたくなかったのです！ スワミは何をなさったのでしょうか？ それはたった一晩の変容だったのです！ 私たちがとても祝福されていることを身に染みて感じました。



私は現在、無執着ですとは申しません。今は快適さ（便利な設備）をより意識しているかもしれません。しかし当時、スワミはただ何かを私たちに体験させたかったのです。それ（スワミのパワー）は、永続的に得られたものではありませんでした。シュリ ラーマクリシュナ〔19 世紀のベンガルの聖者〕

が、スワミ ヴィヴェーカーナンダ〔ラーマクリシュナの愛弟子〕に、ニルヴィカルパ サマーディ（至高の至福、絶対実在と融合した段階、無の境地）を少しの間だけ体験させ、そこから戻ってきてからはその体験を秘密にさせたように、ババ様も私たちに同じことをなさいました。スワミの無限の力と恩寵を体験させてくださったのです。スワミはどんなことでも、いとも簡単にできるのです！ スワミに時間は必要ありません！ この恩寵を得るために６年ものサーダナ（霊性修行）をする必要はありませんでしたし、何も必要なかったのです！ それは瞬時にして起こりました。しかし、そのちょっとした体験だけでした。サーダナ（霊性修行）を通してのみ、神のパワーは永続的に実現できるのです。

今でも自分たちだけで対処しなければなりません。なぜなら人々を動揺させる非常に多くのできごと、悲惨なできごとのような嫌なできごとが、私たちの家族にたくさん起こるからです。それは少しの間、私たちを動揺させるかもしれませんが、ずっとその混乱が続くわけではありません。私たちには、その状況を乗り越える英知があるからです。なぜ常にそのこと（悲惨で嫌なできごと）が私たちに影響を及ぼさないのでしょうか？心配しないからです。私たちの内にまだグニャーナ、英知が定着していない間は、瞬間的に動揺するでしょう。英知が定着するまでは、永続的な心の平静（平常心）は得られないでしょう。

何か喜ばしくないことが起こるような体験を通じて、スワミは私たちに示してくださいます。私たちは「どうしてこんなことが起こらなければならないのか？ 」と考えるかもしれません。それについて考え込み、あまりに多くのことを考えて（労力と時間を）費やしてしまいます。心配しないようスワミに祈ることはありません。多くの時間を、多くのことを考えることに費やすならば、それは私たちのすべきことではありません。

外見的に起きている物事に対して瞬時に反応をしないことは、私たちが修得し、成就しなければならないことです。それは、スワミが私たちに与えたいと望んでおられる成就すべきことなのですが、私たちは自分自身で（瞬時に反応しないことに）取り組まなければなりません。そして各自が自分自身の器量によって（このことを）実践するでしょう。

器量とは、プララーブタ カルマ（過去から蓄積されたカルマにより現在に持ち越されて経験していること）、つまり過去世からの傾向や長所を意味します。私が他の誰かのようにしたくても、できないのです！ なぜでしょうか？ それは私のプララーブタ カルマのためです。かつて、私たちはスワミにプララーブタ カルマは拭い去ることができるかどうか尋ねたことがあります。スワミはおっしゃいました。

「はい。あなたが自らのプララーブタ カルマを作ったのです。神はあなたのカルマには関係ありません。あなたが自分のカルマと運命を記し、ここ（現在）へたどり着いたのです。あなたは自分でそれを拭い去らなければなりません」

「試験の答案用紙のように、自分で答えなければなりません。他の誰かが来て、あなたのために答を訂正できますか？ いいえ！ 先生でさえも（代わりに）回答することはできません！ これはあなた自身が一人で立ち向かわなければならないテストです！ あなたが自分の運命を記しました。あなたはその運命を消し去ることができるのです」

どのようにしてできるのでしょうか？ スワミはかつてホワイトフィールドで、私に話してくださいました。それは「グルへの服従」に関することで、私はこのことを決して忘れることはないでしょう。他に知る必要のあることは何もありません。私たちは現在、スワミのご講話で「グルへの服従」について聞くことができます。スワミがそれを個人的に話されることはありません。現在は、何百万もの人々がスワミの元を訪れています。個別にすべての人に話すことができるでしょうか？ 無理です！ その当時は 100 人もいませんでした！ ですから当時、スワミは多くの時間を（帰依者のために）割くことができました。スワミの時間はどれだけありますか？ 24 時間あるのみです！ 時間は延長できません。スワミの時間も 24 時間だけです！ スワミは非常に多くのことをその限られた時間内に割り当てられています。現在、スワミがすべての人にインタビューを与え、すべての人と話をすることは不可能です！

スワミは何年も前に、その件についてお話しくださいました。
「あなたは大変幸運です！ このチャンスを再び得ることはできないでしょう！ 何年か後には、この幸運を得ることはないでしょう！ 」
現在、私はスワミと直接話すでしょうか？ いいえ！ 私たちはただスワミを見て、戻ってきます。かつてスワミと一緒に非常に多くの楽しい時間を過ごしたことが信じられません！ あるとき、スワミは私にお話しくださいました。
「古い帰依者は身を引いて、後ろに行き、新しく来た人に前の場所を譲らなければなりません」 それは、古くからの帰依（献身的な愛）に対する恩寵なのです。

何を神にお願いすべきか？

古い帰依者が来ると、前の列に座りたがり、インタビューを欲しがります。あなたは何を吸収したのでしょうか？ 何もありません！ 私の友人である一人の古い帰依者のことを、スワミは「彼女は来るたびに毎回インタビューを欲しがる」と話されていました。スワミは彼女のことも大変可愛がっておられました。その帰依者はマドラスから来ており、1 か月か 2 か月ほど滞在し、ここを発つ前に毎回インタビューをお願いしていました。スワミがインタビューを許可してくださらなくても、彼女は強くお願いしていました。するとスワミは「わかりました、行きなさい」とおっしゃったものでした。スワミは古い帰依者には「ノー」と言えなかったのです。私はスワミをテス

トしました！

私たちはスワミにお願いをします。しかし、本来はお願いすべきではないのです！ 長い年月、スワミの元を訪れる利点とは何でしょうか？ 私はここを訪れて 57 年になりますが、資格は何もありません。その答えをお話しましょう！ ここにきて 10 日間しか経っていない人が、私よりもずっと多くのことを悟ることができるのです！ なぜなら彼らは理解していて、準備ができていて、霊的に成熟しているかもしれないからです！ スワミを理解するには、霊的に成熟していなければなりません。そしてあなたの人生は、あなたのしたいように合わせるのではなく、スワミの御教えに合わせなければなりません。そうすれば、サムプールナ クリパー、十分な神の恩寵を受け取ることができ、あなたのプララーブタ（過去から持ち越したカルマ）は消え去ります。スワミは偉大な功績を望んでおられるわけではありません。ただいつもスワミのことを憶念することだけです。それはとても簡単なこと、ナーマスマラナ（神の御名の吟唱）です。「スワミ、私はあなたにすべてを委ねます！ 」と祈り、平安でいることです。何年か前、私がここを訪れて数年後、あるときスワミは私にお話しくださいました。

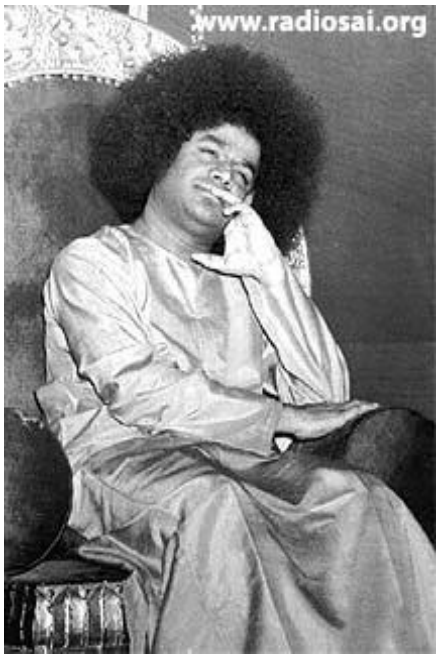
「あなたは祈り方を知らないのですね。あなたの祈りはすべて誤りです。私が祈り方を教えてあげましょう」

私には何が誤りなのかわかりませんでした。なぜならスワミはこう言われたからです。

「あなたは『私はこれが欲しい・・・あれが欲しい・・・私はこの方法で、これがしたい・・・』など、いつもあれこれとお願いしています。決してそのように祈ってはなりません。ネックレスやバングル（腕輪）や物質的なものを求めるなら、それは断片的な祈りにすぎません。それを完全な祈りにしなさい。その完全な祈りとは、**平安**を求める祈りです。パラマ シャーンティ、至高の平安、これは永遠に外部の何かによって乱されることがありません。これがあなたの求めるべきものであり、私があなたに授けるものです」

そして、スワミは付け加えられました。

「私があなたにどうやってそれを与えるかわからないでしょう！ 私はそれがあなたに届く方法を知っています。私に委ねなさい！ ただ『スワミ、私は平安が欲しいです』と言いなさい。あなたが祈るべきことはそれがすべてです。この人はこのようにあるべきだ、あの人は私を困らせる、もっとお金が欲しい、家が欲しい、などと決して祈ってはなりません。お願いしてなくても、私は与えます」



神のみが与えることのできる財産

かつて、私たちは『バガヴァッド ギーター』の「プラヴリッティ マルガ ― 二又の道」の章を読んでいました。ス

ワミはおっしゃいました。

「あなたは善い帰依者です。私に帰依し、祈り、サーダナ（霊性修行）を行っています。それゆえ、この世で欲しいものは何でも与えましょう！ でもそれを得るとあなたは私を得ることができません！ この世のものは何でも手に入れるでしょうが、神を得ることはできないでしょう！ 神は平安です！ 神は真実、正義、平安、愛です！ 私は愛であり、平安であり、慈愛なのです！ あなたがこれらを手に入れることはないでしょう！」

「しかし、お金も地位も権力も、それ以外のものはすべてこの世で手に入れるでしょう。あなたが欲しがれば、私はそれを与えましょう！ しかし、それらすべてが手に入れば入るほど、あなたはさらに平安を失うでしょう！ さらに問題が増えるでしょう。ですからそれらを求めてはなりません！ あなたが賢い人で、善い帰依者であるならば、黄金を求めなさい！ 平安が黄金です。平安があれば、それによって何でも手に入れることができます。ですから黄金の平安を求めなさい。純粋な黄金です！ この平安は純正の黄金です！ それは私があなた方全員に与えるためにやってきたもの ― 至高の平安です」

主なるクリシュナ神は『バガヴァッド ギーター』の中で、アルジュナがクリシュナ神に同じ質問をした際に、それと同じことをおっしゃっています。

「スワミ、私があなたに従えば、私に何を授けてくださいますか？ 」

クリシュナ神は言いました。

「アルジュナ、永遠に外部の何ものによっても乱されることのない、**至高の平安**を君に授けよう。利益や損失、賞賛や批判、勝利や敗北はすべて同等になるだろう。これらすべては両極の一対なのだ。君はこれらのすべてを超越するだろう」

また私たちは、暑い、寒いといった問題を感じることもないでしょう。なぜなら暑いときに「あぁ！ とても暑い！ 」と言い続けるなら、それは失格です！ 寒い時にも「あぁ！もっと暖かいといいのに！ 」と言うのなら、それは物事に反応していることを意味しています！ 些細なことは気にすべきではありません！

私たちはコメント〔批評・所感〕さえも述べるべきではありません！ そのコメントが真実であり、疑いのないものであったとしても、コメントは私たちの意識状態を作ります。本来、私たちに平安をもたらすことのできる意識状態の効力がなくなるのです。私たちにとって有益な、その意識状態（平安）を手に入れることはできないでしょう。

（第三部へ続く・・・）

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01MAY08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第三部

私たち帰依者は、宿舎が（アシュラム内に）建設されるまで、毎日パタ マンディラム（旧マンディール）からプラシャーンティ・ニラヤムまで来ていました。そして建設工事中、スワミは木々を植えたり他の雑用などの助けが必要でしたので、私たちは箒（ほうき）を使って掃除をしたり、何でも奉仕をしていました。スワミご自身が「あなたはこれをしなさい。あなたはあれをしなさい・・・」と、仕事を割り当てておられました。

そうして私たちはプッタパルティに出入りし、宿舎の用意が整うまでプラシャーンティ・ニラヤム内のホールでバジャンにも参加して、また（パタ マンディラムに）戻っていました。後にここ（プラシャーンティ・ニラヤム）の人々は入れ替わり始めました。

何人かはここに住居を移し、永住していました。彼らはここに留まることができました。他の人たちはここに来ては帰って行きました。私たちが来た時にはいつでも部屋だけが与えられました。ここに永住していなかったからです。常に滞在している人たちには永住できる場所がありました。

スワミは宿泊施設を管理しておられました。ですから私たちが到着すると、誰が来ているのかをご存知でした。スワミは銀製のドアが取り付けられたバルコニーにお立ちになり、おっしゃいました。

「おお！ 来ましたね！ よろしい！ あなた方はこの部屋に行って滞在できます」

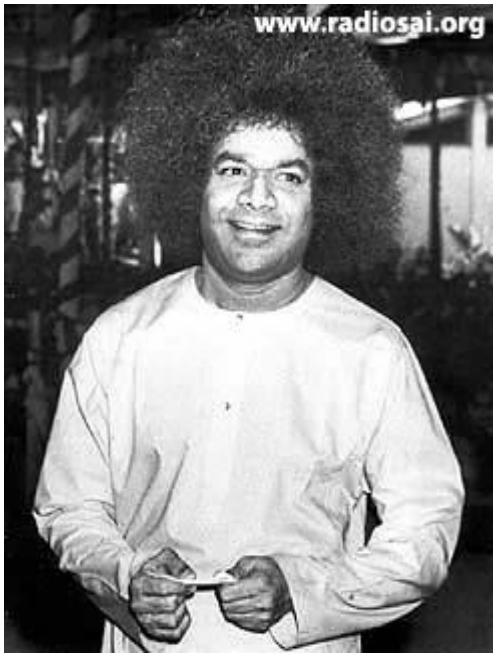
すべての人のための十分な住居はなかったので、スワミは私たちに他の家族と一緒の部屋を割り当ててくださいました。私たちは主に、カストゥーリ ママ（小父様）と滞在しました。スワミが「行ってカストゥーリ家の人々と滞在しなさい」と言われたからです。私たちには同じ食習慣があり、同じ生まれ育った環境から来ていて、同じような食事をし、何でも合致していたからです。ですから、私たちはカストゥーリ小父様とはとても親密な関係になりました。

（※ カストゥーリ博士はスワミの側近で、御講話の通訳・翻訳者であり、月刊誌『サナータナ・サーラティ』の初代編集長でもあった）

私たちがある日、プラシャーンティ・ニラヤムに来たとき、プラシャーンティの建物

はまだ準備ができていませんでした。この出来事は新しいマンディールの建物ができる以前に起こりました。私たちは様々な奉仕をしに来ていて、毎日バジャンにも参加しなければなりませんでした。そのため、私たちは常にプラシャーンティ・ニラヤムに出入りしていたのです。建物の土台は築かれていましたが、椅子などはありませんでしたので、スワミは砂の上に座っておられました。当時、私たち三人姉妹は（プラシャーンティに）来ていましたが、四番目の妹はまだ一緒に来ていませんでした。その妹はずっと後になってから来るようになりました。

バクティ（信愛）とムクティ（解脱）を授けるお方



私たちが(プラシャーンティ・ニラヤム)に来ると、スワミは「ここに来なさい！ 」と私たちを呼んでくださいました。そして、私たちをスワミと共に砂の上に座らせてくださいました！ 私たちが座ると、スワミは私の姉のカマラ サーラティをご覧になりました。姉は大変スワミに祝福されていて、スワミは彼女にこうお尋ねになりました。

「あなたは何が欲しいですか？ あなたが欲しいものは何でも私が与えましょう！ 」

すると姉は私たちのほうを見ました。突然の意外な質問だったからです！ 姉は言いました。

「スワミ、私はバクティ（信愛）とムクティ（解脱)」が欲しいです」

スワミは姉をご覧になり、お尋ねになりました。

「それらを欲しいのは確かですか？ それは困難なことですよ。あなたはそれが欲しいのですか？ バクティとムクティですか？ 」 姉は「はい」と答えました。スワミはおっしゃいました。「私があなたに（このように）尋ねているからと言って、そんな風に答えてはなりません！ 」どうして彼女が「私は美しい家が欲しいです」とか「私はもっとお金が欲しいです」とか「私は人生で善いことを行う私の子どもたちが欲しいです」などと言えるでしょう？ 私たちには多くの欲望があるのです！

スワミはおっしゃいました。

「正直になりなさい！ 私が（そのように）尋ねたからと言って、バクティとムクティを願ってはなりません。この世の物で何か欲しいものがあるのなら、正直に願いなさい！ あなたにそれを与えましょう」 すると姉は言いました。

「いいえ、スワミ。私はすべてを持っています。何か欲しいものがあるとは思いません。私はバクティとムクティが欲しいのです」 スワミはおっしゃいました。

「与えられています！ 私はもうあなたに与えています！ 」

そして、スワミはもう一人の姉妹にお尋ねになりました。
「あなたは何が欲しいですか？ 」
彼女もまた同じように答えました。そしてスワミも同じようにおっしゃいました。
「あなたは私に答える前によく考えなさい！ 正直になりなさい！ 」
そして、彼女も言いました。
「スワミ、私もバクティとムクティが欲しいです」
それから、スワミは私にもお尋ねになりました。
「あなたは何が欲しいのですか？ 」　私は言いました。
「スワミ、私も同じものが欲しいです」
なぜ、スワミが私にも繰り返し同じことをお尋ねになったのかわかりませんでした。
「ラニ マー、それは難しいことですよ！ あなたがそれを欲しいのは確かですか？ 」
私は言いました。
「はい、スワミ。私はそれ（バクティとムクティ）が欲しいです」
スワミはおっしゃいました。
「OK、ではあなたにそれを与えましょう！」

スワミは常に聖典から何かを話しくださったものですが、そのときも『ラーマーヤナ』か『バーガヴァタ』か、何か霊的な事柄について話してくださいました。スワミは決して家族やその他の事について、多くを話されることはありませんでした。その後、私たちはその場所を出ました。

試練を通じて到達する

そしてこの出来事の後、スワミは私の夢の中に出て来られ、おっしゃいました。
「ラニ マー、あなたがどのような体験を通るかわかりますか？ あなたはバクティ（信愛）とムクティ（解脱）を願ったのです！ 私はあなたを濡れタオルのように扱うことになります！ 人がタオルを洗って水を取り除く際に絞るように、私はあなたをねじり、絞るでしょう。あなたはその試練を受け止めることができますか？ 」 私は言いました。
「はい、スワミ！ 」
スワミはおっしゃいました。
「わかりました。しかし、あなたは重大なテスト（試練）に直面するでしょう！ 」

わかりますか。私はスワミが夢の中ではすべてをお話にならなかったと感じていたので、ただ自分自身で（このように）思いました。なぜスワミはそのことを私にお話しになったのだろう？　私は、良くも悪く

も特定の人々にとって、プラーラブダ カルマ（過去から蓄積されたカルマによって現在経験していること）は好ましいことなのだという結論に達していました。その人たちはおそらく、数回のテストによってそれ（解脱）に達することができます。あるいは、スワミが「それを与えましょう」と言われても、それは今世で（解脱が与えられることを）意味していないかもしれません！ スワミはそれを来世で与えられるかもしれません。なぜなら、スワミにとって死や生は重要ではないからです！ 人生は絶え間なく続いており、同じ魂が行き来しているのです。

私たちは『バガヴァッド・ギーター』を読みますが、その中でも、死が人間であることの最終目的であるとは示されていません。(魂の) 旅は (肉体の) 死後も続いています。ですから、スワミがどのような理由で私に（解脱を）授けてくださるのかは、まだ私にはわかりません！ しかし、夢の中でスワミは強く言われました。

「あなたは準備ができていますか？ 私はあなたを濡れタオルのように絞りますよ！ 今ならまだその願いを変更することができますよ！ あなたは『いいえ、私はこの世の幸せに満足しています。私はまだムクティ（解脱）が欲しいとは思いません』と、言うことができますよ」

バクティ（信愛）以上に、ムクティ（解脱）は更に難しいことです。それはマインド（思考する心）からの完全な自由です。それは世捨て人（放棄者、隠遁者）のあり方に似ています。私は言いました。「いいえ。スワミ、私はバクティとムクティの両方が欲しいのです。あなたが私を締め付けてもかまいません！ 」その時から、私は多くのテストと試練、あらゆる苦しみをすべて経験しました。私がそのように望んだからだと思いますが、どのようなテスト（試練）にも覚悟していなければなりませんでした！ テスト（試練）の最中、私は実に苦しみますが、私がその苦しみを超えるのではなく、何かが私にその苦しみに立ち向かう勇気を与えてくれるのです！ ですからその苦しみに屈することはありません。私は繰り返しスワミの御名を唱え、更に祈ります。スワミは、それ（神の御名を唱えること）は心を平常に保つ唯一の方法だと言われています。常に祈ることです。

スワミはおっしゃっています。

「問題が起きたとき、問題のことを考えてはなりません。ただ『これはすべてアニッティヤム（非真実）だ。それはこの世の次元に属していることだ。私はこれをすべて超越している』と考えなさい。そして、私の名前を唱え続けなさい。そうすれば、私はそれに立ち向かう強さをあなたに授けましょう」

夢であると断言すること

かつて、スワミはプラシャーンティ・ニラヤムで、私

を一人だけインタビューに呼ばれました。通常スワミはグループで呼ばれますが、時折一人だけで呼ばれることもあります。スワミは私にお尋ねになりました。
「ラニ マー、家庭内で問題はありますか？ 」
私は言いました。
「はい、スワミ」　スワミはお尋ねになりました。
「それらの問題を乗り越える方法を知っていますか？」　　私は言いました。
「いいえ、スワミ。わかりません。私にお話しください」スワミはお尋ねになりました。
「夢を見ているとき、あなたはいつ自分が夢を見ていることを自覚しますか？ 」　私は言いました。
「スワミ、目覚めたとき、私は自分が夢を見ていたことを自覚します」
スワミはおっしゃいました。
「目覚めるまでは、あなたは自分がその夢と一体になっていませんか？ 」
「はい（なっています)」と、私は言いました。

わかりますか。スワミが意味されていたのは、眠っているとき、私たちは自分が夢を見ていることに気づいていないということです。夢の中では、あなたは夢が現実（事実）だと感じています。もう一人の「私」がベッドの上で眠って夢を見ているとは気づかないのです！　二人の「私」は存在しません。一人だけです！　スワミはおっしゃいました。「同様に今、あなたは夢を見ているのです」

「これらの問題はすべて夢の領域に分類されます。ですから、あなたが自分自身に言い聞かせなければならないことが何であるか、わかりますか？
『スワミ、それはすべて白昼夢です！』です」あなたがそのように言えば、その問題はあなたに何ら影響を及ぼしません！　しかし、起こっていることが何であれ、あなた自身が（夢と現実を）同一視すれば、あなたは苦しむことになります。それゆえ、あなたは（自分に与えられた）役柄を、ただ演じなければならないのです」

私たちが（夢と現実を）同一視していて、私たち自身で（夢と現実を）どのように分離すべきかについて、スワミは説いてくださったのです。スワミはおっしゃいました。
「あなた方は皆、役柄を演じているだけです！　役柄とはジーヴァ（一個人の存在)、魂のようなものです。『私はだれそれ、何々だ！ 』というのはエゴです。誤った識別（同一視）です。それは本当のあなたではありません。あなたは自分自身に言い聞かせねばなりません。『私は（自分の）役柄を演じていますが、私の本質はアートマ（真我）です。スワミ、私はこのすべてを超越します』と。あなたは絶え間なくこの想いを瞑想していなければなりません！ そうしなければ、あなたは問題に屈することになります。苦しみます。不安になります。心配します。そうではなく、解毒剤のように、あなたは自分自身を救わなければなりません。ですから、「これはすべて夢です、スワミ」と言い続けなさい。もしそう言っても気づきが与えられなければ、そのときは私に願いなさい。『スワミ、どうか私に気づきをお与えください』と。私は常にあなたが望むものは何であろう

と与える用意があります！ しかし、あなたは願わなければなりません！ 私が勝手に、あなたにそれを授けることはできないのです！ 」

スワミはおっしゃいました。

「あなたが正しいことを願っているのであれば、私は必ずあなたを助けます。あなたが世俗的なものを望んだとしても、それもあなたに与えますが、再度あなたはマーヤー（妄想）、迷妄に巻き込まれるでしょう。しかし、あなたが望むのであれば、私はすべてが夢である（と自覚できる）経験をあなたに与えましょう。そして、それ（迷妄）があなたに影響を及ぼすことはないでしょう」 このように、スワミは最初のころから、私たちに霊的指針のみを与えてくださっていたのです。

速い進歩

かつて、何年もの歳月が過ぎた後、スワミは私の妹と私をインタビューに呼ばれました。スワミはおっしゃいました。「あなた方は多くのサーダナ（霊性修行）を行ってきました！ あなた方は行ってきたすべてのサーダナにより、大変高い段階にまで到達していなければなりません！ あなた方の日課は、吟唱、バジャン、読書、と霊的な活動がぎっしり詰め込まれています。しかしこれらすべての霊性修行にもかかわらず、あなた方はまだ到達すべき段階に到達していません。なぜでしょう？ わかりますか？ 」 私たちは答えました。「いいえ、スワミ。（私たちの行っている）霊性修行が、私たちをその段階に連れて行ってくれると思っていました」

スワミはおっしゃいました。

「サーダナ（霊性修行）そのものがあなた方をその段階に連れて行くことはできません。それは自己分析（自己内観）とサーダナ（霊性修行）の両方によって成就すべきものです。霊性修行は自己分析と結びつかなければなりません。なぜなら自己分析のみが、あなたが人間としてどこで道を誤ったかを指摘してくれるからです」

私たちはアートマ（真我・魂）のレベルから行動していません。私は今、この世で人間として行動しており、だれかの母親であり、妻であり、姉妹等々です。

スワミはおっしゃいました。

「自己分析（自己内観）はあなたの過ちを指摘し、霊的にどこが欠けているかを指摘する手助けになります。自己分析をしないのなら、進歩することはできないでしょう。今、あなたは霊性修行を 4 分の 1 に減らし、（残りの）4 分の 3 は自己分析しなければな

りません。そうすればあなたは急速に進歩するでしょう！ 」

「あなたがどのように話し、何を聞き、何を行うか、何を食べるか、人生のすべての歩みを細かく分析（注意して検討）しなければなりません！ 私は正しいことをしているだろうか？ それは霊的に大丈夫だろうか？ 私は正しく考えているだろうか？ 正しく話しているだろうか？ 正しいことを行っているだろうか？ 」

所有物（財産）に関してさえも、スワミは私と姉妹にお話になりました。
「質素でいることは、この（霊性の）道に必須です！ あなたの旅行カバンを軽くして、（人生の）旅を心地よいものにしなさい！ 多すぎる所有物は必要ありません。最小限にしなさい。あなたの人生に更に、更に（所有物を）加えてはなりません。あなたの霊性の道にはそれ（多すぎる所有物）は障害になるからです。最小限に保ちなさい。そうすれば、あなたは心を様々なものに明け渡すことはないでしょう」

そこで、その後、私たちは更に自己分析（自己内観）を始めました。なぜなら、以前は多くのなすべきことがあり、ジャパ、瞑想、バジャン等々に多くの時間を費やしていたからです。

正しい優先順位を見つけること

そして、大変興味深いもうひとつの出来事が、ここプラシャーンティ・ニラヤム滞在中に起こりました。ある日、スワミは朝 7 時に使いを送って来られました。当時、私の妹はスワミの個人的な奉仕を任されていました。彼女はブラフマチャーリニー（禁欲主義の女性）で結婚していませんでした。スワミはその妹を通じて伝言を送って来られました。「行って、ラニ マーを連れてきなさい」　妹は階下へ来て言いました。
「スワミが上がってくるようにおっしゃっています」私は上階に上がって行きました。スワミはとても親切に歓迎してくださいました。
「座ってください！　」と、スワミはおっしゃいました。私はなぜスワミが私をお呼びになったのかを思い巡らし、緊張していました。おそらく私が何か間違いを犯して、スワミは私を厳しく罰して、正そうとされているのではないかと思いました。

スワミはおっしゃいました。
「ラニ マー、あなたにあるビジネスマンについての話をしなければなりません」
なぜスワミが、私にあるビジネスマンの話をしなければならないのか不思議に思いました！　しかし、私は何も尋ねませんでした。スワミはおっしゃいました。
「あるビジネスマンが私のところに来たので、彼にインタビューを与えました。そしてそのインタビューで、彼は多くの問題を抱えていて、それらの仕事上の問題のために多大な緊張とストレスを感じていると話してくれました。私はそのビジネスマンに実行

すべきいくつかの霊性修行を与え、しばらくしてからまた私に会いにくるように告げました」

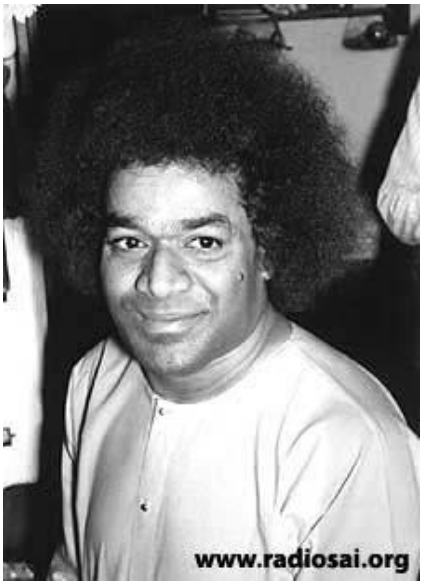
「彼はその後、私のところに戻ってきたので、再度インタビューに呼びました。そして、仕事上の問題はどうなったかを尋ねました。

『問題は減少したことでしょうね？』 彼は言いました。

『いいえ、スワミ！ 同じままです！』 私は彼に尋ねました。

『どうして同じままであることなどできるでしょう？ いいえ！ そんなことはあり得ません！ 私があなたに実行するように言ったことを実行しましたか？』

私は彼にいくつかの指針を与えていました・・・これを朝に行い、夕方にはこれを行うように等々・・・ 彼は言いました。



『スワミ！私は何を申し上げることができましょう！ 私はとても多忙で、自分の問題で身動きがとれない状態です。あなたが助言してくださった霊性修行を行う時間を見つけることなどほとんどできませんでした』 するとスワミは彼に質問されました。

『わかりました。あなたは大変忙しく、霊性修行を行う時間がなかったのですね。しかし同時に、あなたはそれほど多忙な状況の中で、朝のコーヒーを飲むのを止めましたか？』 彼は言いました。

『いいえ、やめませんでした』

『では、朝食はどうですか？ やめましたか？ 適切な時間に霊性修行の時間が取れなくても、後で時間を取ることはできましたね？ そうではありませんか？』 彼は言いました。

『はい、スワミ。私は朝食を抜きませんでした』

『昼食は抜きましたか？』 彼は言いました。

『いいえ』

『お茶の時間は？』

『いいえ』

『夕食の時間はどうですか？』 彼は言いました。

『いいえ』

それから、スワミはその人におっしゃいました。

「あなたはデーハ（身体）のために、シャリーラ アハーラ（身体のための食物）であるコーヒータイム、朝食、昼食、お茶の時間、夕食に、どれほどの時間を費やしているのですか！ 5回の食事の時間を身体のために費やしているのです！ いつなりと捨て去らなくてはならない身体のために！ しかしあなたの本質であるアートマ（真我、魂）はあなたに真の祝福をもたらし、あなたに平安と幸せをもたらすことができます。アートマ（真我）レベルだけが、あなたにそれをもたらすことができ、シャリーラ（身体）レベルでは、それを与えることはできません。しかし、あなたはそのために一度も（霊

性修行に座る）時間を取らなかったのですね？ それなのに私の恩寵が欲しいのですか？ どうしてあなたに恩寵を授けることができるでしょう？ 」

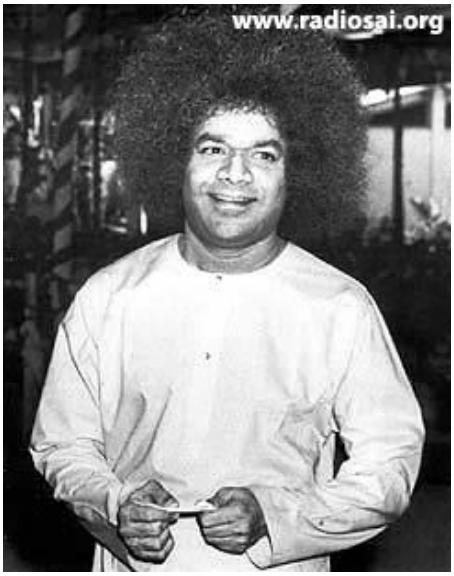
スワミは私にお話しになりました。

「いいですか、人々は私の恩寵を欲してはいても、私の指示には従わないのです」

スワミはその人におっしゃいました。

「アートマ アハーラ（魂の食事）はシャリーラ アハーラ（身体の食事）よりも大切です」スワミが何をするよう彼に言われたかはわかりませんが、仮にスワミが一時間ガーヤトリー（マントラ）を唱えるように言われたなら、その人はそれを最優先すべきです。これが、スワミが私にお話しになったことです。

「皆さんは自分のしたいことではなく、私の指示を最優先しなければなりません」



スワミはおっしゃいました。

「シャリーラ アハーラ（身体の食事）をあきらめても、アートマ アハーラ（真我の食事）を止めてはなりません。アートマ（真我、魂）に食事を与えないなら、あなたが目覚めることはないでしょう。それ（アートマ）はバガヴァン（神）が宿るあなたの魂であり、あなたが常にシャリーラ（身体）に食事を与えてばかりいるなら、アートマ（真我）は飢えているので、あなたは（神の祝福を）手に入れることはできないでしょう！ 」スワミはそのビジネスマンにおっしゃいました。

「スワミの指示に従わないのであれば、あなたのアートマは飢えるでしょう。**あなたは自分の身体への食事を優先し、魂についてはまったく重視しませんでした。それでどうして私があなたを助けられますか？ 私の助けがほしいなら、私があなたに告げたことを行わなければなりません。それをあなたの最優先事項にすべきです」**

よろしいですか。ある意味でそれは一般的なことだったのでしょうが、スワミは私にもそのことを自覚してほしかったのです。私を呼んで、直接あれこれのことを規則正しく行うよう伝える代わりに、スワミはその紳士を例に出して話してくださったのです。それが全容です。これは私たち全員にとっての教訓であると、私は妹に話しました。

グル（霊性の師）があなたに『バガヴァッド・ギーター』を読むように、あるいはジャパ（神の御名を繰り返すこと）をするように、瞑想をするように言われるとします。もしあなたが、「今日、私はするべき仕事がたくさんあり過ぎて、『バガヴァッド・ギーター』を読めない」と言えばどうでしょう？ 仮に朝、『バガヴァッド・ギーター』を読む時間がないのであれば、夕方に読みなさい！ 神は「この時間にそれをしなさい！ 」とは言われません！ それがあなたを高めることなら、なぜ読まないのでしょうか？ そ

れはあなたの助けになります。他の人々があなたを助けてくれるのですか？ 買い物に行ったり、ここそこへ誰かに会いに行ったりしても、それはあなたの助けになりません！ 私たちが霊性の道を歩んでいるなら、間違ったことを優先しても、神の恩寵は常にそこにあります。なぜなら、私たちは皆、神の子どもたちだからです。それは私たちの（日常の）実践のパーセンテージ（割合）によります。あなたは学生のようなもので、あなたの日頃の実践に応じて、40 点、80 点、あるいは 100 点と得点するように、バガヴァンもそれと同様なのです！

（第四部へ続く・・・）

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01JUN08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第四部

神聖なる個人的なご指示

スワミはおっしゃいました。
「私の指示に従う者を、私は祝福します」
しかし、スワミは私たち各自に異なったご指示を出されます。例えば、私はジャパマラ（神の御名を唱える際に使用する数珠）を使ってナーマスマラナ（神の御名を繰り返し唱えること）を行いたかったのですが、スワミはおっしゃいました。
「いいえ！ あなたにはジャパマラは必要ありません。呼吸のみで行いなさい」しかし、私の妹は言いました。「スワミ、私はジャパマラが欲しいです」スワミはおっしゃいました。
「はい、あなたはそれ（ジャパマラを使って神の御名を唱えること）をしなさい」
その後、私はある活動に参加したいと考えていましたが、スワミはおっしゃいました。
「いいえ！ （活動に参加する）必要はありません！ あなたは瞑想を行いなさい！ 」

その当時は、ダシャラー祭の期間中、料理人がいませんでしたので、帰依者たちはほとんどの時間、たくさんの料理を作らなければなりませんでした。お祭りの期間中、ス

ワミは何百人もの貧しい人たちに食事を供給されていたので、マドラス（現在のチェンナイ）やバンガロール（現在のベンガルール）からも帰依者たちが料理の手伝いに来ていました。整った台所の設備がなかったので、このような状況に精通している年長の婦人たちが、アシュラム内に溝のような大きな穴を掘り、そこで槇を燃やして調理していました。

バンガロールから来た帰依者たちは巨大な容器を持ってきていました。何百人分もの食事を用意するために、非常に大きな容器が必要だったからです。そして、このようなやり方で帰依者全員が参加して、各自が自分の器量に応じてできる奉仕を行っていました。50 歳から 60 歳までの年齢グループは、実際に調理する担当になり、その他の人々は野菜などを切ったり、香辛料を調達したりする活動をして手伝いました。そこには屋根がなかったので、この活動はすべて照りつける太陽の下で行われました！

このような行事の際には、当然のごとく私はアシュラムに来ていました。私の妹はすでに来ていて、スワミは彼女を「リリー」と呼んでいらっしゃいました！　スワミは妹のところに来ておっしゃいました。

「さぁ、リリー！ サーヴィトリー アンマーを手伝いに行きなさい。彼女は貧しい人々に与える食べ物を料理しています。行って彼女の手伝いをしなさい」

私もそこで妹の隣に立っていました。すると妹はスワミの方を見て尋ねました。

「スワミ、彼女はどうでしょうか？　彼女も私と一緒に来て手伝うことはできますか？ 」スワミはおっしゃいました。

「いいえ、ラニ マーはここにいるだけでよろしい」　そこで妹は尋ねました。

「スワミ！ あなたはいつも私を仕事に送られますが、なぜラニ マーは送られないのですか？ スワミ、どうかラニ マーも行かせてください」

これ（妹の質問）に対して、スワミは返答されました。

「いいえ！私は彼女を行かせません！」 スワミの返答に頭を悩ませた妹は尋ねました。

「なぜですか？ 」 スワミはお答えになりました。

「あなたはブラフマチャーリニー（独身女性）です。あなたは働く必要があります。ラニ マーはグリハスタ（主婦）です。彼女はすでに家庭で多くの仕事をしています！ 彼女は子どもたちや夫の面倒をみて、そのような家事を全部行ってきました！　彼女は霊性修行のためにここに来ました。なぜなら、家庭の中では多くのこと（霊性修行）ができないからです。彼女はここで瞑想をして、霊的に進化したいのです。彼女はプッタパルティから、私から、それを求めています。ですからラニ マーは自分の部屋にいて瞑想するのです」

スワミは私のために結論を出され、「私は彼女を行かせません！」と妹におっしゃいました。

私がいかなる活動に参加したくとも、それ（スワミのお答）は同じでした。私がどんな活動についてお話ししても、なぜだかわかりませんが、スワミはいつも、

「いいえ、あなたは行かなくてよろしい」とおっしゃいました。

今ここで私がお伝えしたいことは、スワミはとても個人的なグル（導師）だということです！ スワミは「私を常に礼拝しなさい！ 」とはおっしゃいません。家庭内でどのような仕事に従事していようとも、神に奉仕しているように行うのです。これは主婦に対してスワミがおっしゃったことです。

「夫を神と見なしなさい。子どもたちに怒鳴ってはなりません。怒ってはなりません。優しく話しなさい。彼らが何を言おうとも、彼らが神であるという意識で接しなさい」

それは、スワミが私たちに課されたサーダナ（霊性修行）なのです。

家庭内で声に出して明言すること

しかし、かつてスワミは非常に困難なことをおっしゃいました。私がプッタパルティに来る際には、夫が何を言おうとも私は耐え忍んでいました。私の夫はババ様のことに反対はしていませんでしたが、私が頻繁にババ様の元を訪れていることが理解できなかったのです。ある日、私がプッタパルティに来る際、夫が私を駅まで送ってくれたとき、夫は私に尋ねました。「いつ戻ってくるのかね？ 」「わかりません」と私が言うと、夫は言いました。「わからないとはどういう意味だ！ では誰にわかるのだ？ 自分の予定は自分でわかっているべきではないのか！ 」　私は言いました。「残念ながら、プッタパルティをいつ出発するか、私たちにはどんな予定も立てることはできないのです。それはスワミがお決めになることだからです」

当時はこのような会話が、常にお決まりのパターンでした！　事前にチケットを購入することはできなかったのです。例えば、仮に 24 日のチケットを買っていたとしても、スワミが「来月の 1 日に発ちなさい」とおっしゃるかもしれません。いったい誰が来てそのチケットをキャンセルしてくれるというのでしょう？ そこで私は夫に話しました。

「私はどんな予定も立てることができません。それはスワミの決断に従うことが前提だからです！ ですから私が発つべきときが来れば、スワミが私に告げられるのです」

夫は言いました。

「なぜそんなことをすべきなのか私には理解できない！ 」

私は言いました。

「スワミは私たちのグルなのです！ 私はスワミに従わなければなりません！ 」

この（夫とのやりとりの）後で、私がプッタパルティに到着するとスワミは私をお呼び

になりました。私は上階へ行きました。次に起こったことは、もう一つのスワミの遍在を示す証拠でもあります。スワミはおっしゃいました。

「スッブラマニアム（ラニ マーの夫の名前）は車の中で・・・・と言っていましたね。そしてあなたは・・・・と答えました」　そうしてスワミは私たち夫婦の会話をそっくりそのまま繰り返されたのです！ スワミはおっしゃいました。

「いいですか！ あなたはあまりにも沈黙し過ぎです！ スッブラマニアムに霊的な人生において正しいこと、ダルマ（正義）とは何かを話し始めても良い頃です！ あなたは話さなければなりません！ なぜ黙っているのですか？ 」

私は言いました。

「スワミ、私はどんな口論もしたくありません。あえて言い争いをしたくないのです」

スワミはおっしゃいました。

「いいえ！　あなたはダルマ ユッダ（正義の戦い）をしなければなりません！ あなたは何も自分勝手な理由で戦うわけではありません。これはあなたのグルのためです、あなたのグルへの服従です！ あなたは夫に話して彼を教育しなければなりません。彼は知らないからです。あなたの夫にはグルがいないからです。ですから沈黙し続けていてはなりません！　ダルマ（正義）が関係している時には話しなさい。黙っていることは、ある意味であなたが自分勝手（利己的）でいるということです。自分が口論したくないからです。あなたはいかなる犠牲を払っても、自分の平安が欲しいのです！ それは間違いです。なぜ『ギーター』は説かれたのでしょうか？ それはダルマ ユッダ（正義の戦い）のためです！ あなたは夫に説いていませんが、彼があなたを責める時は、何がダルマであるかを話さなければなりません！ 説教をする必要はありません！ しかし、あなたが非難された時は、夫に知識を与えなければなりません！ 」

何度か私の人生の中で、このようなことが起こりました。以前は義理の母親とも（同じようなことが）起こりました。それでこの（スワミからのご指示の）後すぐに、私は夫にも説明するようになりました。彼はなぜスワミが手紙を書かれるのか、なぜ私が返事をするのかわかりませんでした！ 夫は「おまえは何を書くのだ？ 」と尋ねてきました。彼にはグルと弟子の概念がまったくありませんでした！ スワミはおっしゃいました。

「あなたは彼（夫）を教育しなければなりません。それはあなたの責務です！ あなたは何も悪いことをしていません。あなたは正しいことをしているのです。あなたが悪いことをしているなら、もちろんその時は沈黙を守らなければなりません」

ホワイトフィールドでスワミのお優しい配慮を受ける

私が破傷風から回復した後、スワミがチェンナイに来られた際、私はスワミに会いに行きました。スワミは私の他のジャンマ（前世）とスワミのアーンドラ プラデーシュ州の旅について、私の夫に長い時間お話しになりました。スワミは夫に、何人かのナクサル党員（インドの反政府武装組織、毛沢東主義派）がスワミを暗殺しようとし、彼ら全員がスワミを襲うため、樹木の頂部に座っていたことを話されました。

「私が旅に出たとき、ナクサル党員がそこにいました・・・木々の上に腰をかけて・・・何も起こりませんでしたが・・・」

そうして、その件をすべて話された後、スワミは私のところに来ておっしゃいました。

「ラニ マー、あの病気の後、あなたはとても衰弱した状態です。ホワイトフィールドに来て、しばらく私と共に滞在しなさい。あなたは元気を取り戻さなければなりません！ ですからまだ帰ってはなりません。ホワイトフィールドに来て、ブリンダーヴァンのアシュラムで私と共に滞在しなさい」

そこで、私はブリンダーヴァンのアシュラムに行って滞在することを決心し、スワミにも仮の到着日程を伝えました。しかし、私がアシュラムに到着する前にスワミはボランティアの女性たちに指示されていました。

「ラニ マーという人が来ます。彼女は人混みの中で座っているでしょう。行ってこう尋ねなさい。『ここにラニ マーという方はいらっしゃいますか？ スワミが中に来るようにおっしゃっています』」

信じられますか？ スワミがこのような配慮をしてくださったのです！ 彼女たちは来て尋ねました。「ラニ マーとはどなたのことですか？ 」

しかし、そのとき私はまだそこに到着していませんでした。少し遅れて到着したのです！ とりあえず、セヴァダルたちはスワミのもとに戻り、言いました。

「スワミ、確認しましたが、ラニ マーという方はいらしていません！ 」

スワミはお答えになりました。

「いいえ！ 彼女は来ています！ 戻りなさい！ 彼女は少し遅れています。行ってもう一度尋ねてみなさい」スワミはセヴァダルたちを戻らせました。その間に、私はすでに到着していました。ですから、私がアシュラムに到着した際には、一人のセヴァダルが人混みの中で尋ねていました。

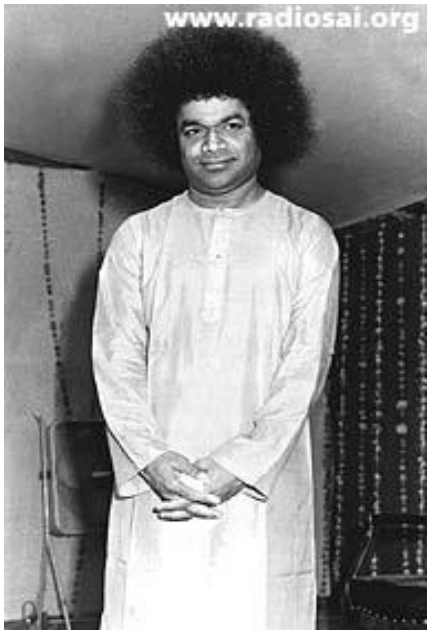
「ラニ マーという方はここにいらっしゃいますか？ 立ち上がってください。スワミがすぐ来るようにとのことです！ 」

そして私は彼女と一緒にスワミのもとに行きました。スワミは私に滞在するための部屋を与えてくださいました。しかし、娘も私と一緒に連れてきていましたので、スワミの許

可を頂きたくて尋ねました。
「スワミ、私は娘を一緒に連れてきています。娘に帰宅するように言うべきでしょうか？あるいは私と一緒に娘を滞在させるべきでしょうか？ 」 スワミはお答えになりました。
「はい。シーラ（娘）もあなたと一緒に滞在してかまいません。彼女はあなたの助けになるでしょう。あなたと一緒に彼女も連れて来てよろしい」
そうして（スワミの許可を得て）初めて、私は娘を中に連れていきました。スワミの許可なしに、誰も中に入ることはできないのです。

理想的な帰依者

そして翌日、そこで滞在中、スワミは朝の 7 時ごろに私の部屋に来られて、
「私と一緒に来なさい」とおっしゃいました。私の部屋は階下にあり、居間、バスルーム付きの寝室、そしてバルコニーがあり、それはまるでスイート（特別室）のようでした。スワミの部屋は上階にありました。スワミは降りて来られて、別室で眠っている娘をご覧になりました。スワミは娘の睡眠を邪魔したくはなかったのです。そこで、スワミは私をバルコニーに連れて行って、お尋ねになりました。



「あなたは何が欲しいのですか？ 私はあなたが望むものを与えましょう！ 」
なぜスワミが急にまたこの質問をされるのか、不思議に思いました！ 私は言いました。
「スワミ、私は理想的な帰依者になりたいのです」
スワミはおっしゃいました。
「あなたがしなければならないことは何だかわかりますか？ 」 私は答えました。
「いいえ、スワミ。私が何をしなければならないのか、どうかご教示ください」
すると、スワミはこうおっしゃいました。
「服従です。ある日、あなたが私のもとに来た時は、私はとても優しくあなたを迎えて話をするでしょう。けれども他の日に来ても、私はこう尋ねるかもしれません。『誰があなたに来るように言ったのですか？ 帰ってください！ 』 私は素っ気なく、不愛想に接するかもしれません！ あなたはその両方を平等に扱わなければなりません！ 異なった受け止め方（扱い）があってはなりません！ 両方の待遇に対して冷静でなければなりません！ 反応すべきではありません。私が優しいとあなたは幸せでしょう。そして、私が優しくなければあなたは不幸でしょう！ これは帰依者のラクシャナ（特性）ではありません」

スワミは次にこうおっしゃいました。

「かつて、あなたは誰かにバジャンを教えるために、ここホワイトフィールドに来ていましたね。そうではありませんか？ 」

「はい、スワミ」と、私は言いました。かつて、私はバンガロールにいる妹のところに滞在していたのですが、ある外国人に数曲のバジャンを教えるため、(バンガロールから）ホワイトフィールドに通っていました。この婦人は、スワミがホワイトフィールドにおられる時はスワミと一緒に建物内に滞在していました。しかし、スワミがチェンナイに行かれた後、彼女は私にバジャンを教えることができるかどうか尋ねてきました。私は喜んで承諾し、毎日彼女にバジャンを教えるためバンガロールから通っていたのです。

これは、ある日スワミがチェンナイから戻られるまで、長い間続いた毎日の日課でした。いつものように、彼女に教えるためにホワイトフィールドに行くと、彼女が言いました。

「スワミがお帰りになりました！ 今日は私の誕生日なのです。私はとてもラッキーです。スワミがチェンナイからお帰りになったのですから！ 今日はバジャンを習うことができません！ 」 これは私が帰宅しなければならないことを意味していましたが、彼女はそのことを察して言いました。

「でも、どうしてあなたを送り返すことなどできるでしょう？ 私は中に行って、あなたも入れるかどうかスワミに尋ねてみます」

何びとも、スワミの許可がなければ中に入ることはできません。そして、彼女は中に入ってスワミに尋ねてくれました。

「スワミ、ラニ マーが来ています。彼女は私にバジャンを教えるために、毎日来てくれています。しかし、今日は習いたくありません。私はあなたと一緒にいたいのです。でも彼女は遙々バンガロールから来てくれているので、彼女を中に連れて来てもいいですか？ 」スワミはお答えになりました。

「ダメです！ 彼女に帰宅するように言いなさい！ 」

スワミからのこのお返事は予想していませんでしたので、その婦人はなお一層スワミに迫りました。

「なぜですか、スワミ？ どうしてラニ マーは来ることができないのですか？ 」

その婦人はスワミと議論しようと試みました！ 私が知っているもう一人の外国人の婦人もその場に居合わせていて、スワミに尋ねました。

「彼女もあなたの帰依者です！ スワミ、どうしてラニマーにもダルシャンを与えてくださらないのですか？ どうか彼女も中に入れてください！ 」

しかし、スワミは断固としておっしゃいました。

「絶対にダメです！ 私はラニマーを中に入れたくありません！ 彼女に帰るように言いなさい！ 」

それゆえ、私がバジャンを教えていたその婦人は、とても悲しそうな面持ちで外に出てきました。婦人は私に言いました。

「ラニ マー、あなたは帰宅しなければなりません。私たちはあなたを中に入れてほしいとスワミにお願いしましたが、スワミはダメだとおっしゃいました。ですからあなたは帰宅しなければならないでしょう！ 」

そこから自宅まで、私は電車や他の交通手段を使って帰宅していました。私は帰宅の途につく電車の中で考えました。

「なぜスワミはこのようなことをなさるのだろう？ スワミに愛はないのだろうか？ 優しさはないのだろうか？ スワミはこんなことをすべきではない。結局のところ、私にダルシャンを与えたからといって、スワミが何を失うというのだろう？ 私はずっととても幸せだったのに、スワミは私を否定なさった。なぜスワミはこんなことをなさるのだろう？ 」

これは（私の）思いだけであり、電車には一人で乗っていましたので、他の誰にも（この思いを）伝えたわけではありません。しかし突然、次のような思いが起こりました。

「いや違う！ 私にはスワミに疑問を持つことなどできない。何と言ってもスワミは私のグルなのだから。スワミは自分のグルに疑問を持つべきではないとおっしゃった。だからスワミが何を言われようとも、私はそれを受け入れるべきなのだ」

このように言いながら、私は自分自身を慰めました。どうしてスワミが私を中に入れてくださらなかったか、本当に理解できなかったからです。

私がスワミに「理想的な帰依者」になりたいと話した際、スワミがこの出来事を持ち出されたときは信じられませんでした！ これは数か月前に起こった出来事だったのです！スワミはおっしゃいました。

「あなたは（ここに）来て、それから帰宅途中の電車の中で考えていましたね。『なぜスワミはこのようなことをなさるのだろう？ スワミに愛はないのだろうか？ スワミの愛はどこにあるのだろう？ まったく愛がない！ 』そのようにあなたは心の中で考えていました。これがあなたの最初の思いです。そして二番目の思いは、『ああ！ スワミは最善をご存知だ！ スワミはどうすればよいのかご存知だ。どうして私がスワミに疑問を持つことなどできるだろう？ 』そして、あなたは自分自身を慰めました。しかしながら、そこには理解がありませんでした！ あなたは理解することなく自分を慰めたので、悲しかったのです」

スワミは続けておっしゃいました。

「今日、私はあなたに伝えるために来ました。あなたは最初の思いを持つべきではありませんでした。あなたの二番目の思い、『スワミはすべてをご存知だ！』を、最初に思うべきでした。私に疑念を持ったあなたの最初の思い、『なぜスワミはこのようなことをなさるのだろう？ 』は取り消されるべきでした。私に疑念を持つことなど、誰にもできません。理想的な帰依

者は何も問うべきではありません。あなたの二番目の思い、『スワミはすべてをご存知だ！』が正しい思いです。それであなたの仕事は完結し、あなたは理想的な帰依者になります！ですから理想的な帰依者になるためには、グルに一切問うてはなりません！」

何年もここに通い続けていた帰依者が、どうして突然スワミのもとを離れるのか、このことが説明になるかもしれません。その人たちは全員教養のある、立派な地位にある人たちでした。しかし、その人たちはスワミを理解していなかったのです！ スワミは絶えずご講話の中で、そしてインタビューの中でも、言い続けてこられました。

「私を理解しようとしてはなりません！ それは役に立たない無駄な試みです！ 」

スワミを理解することがなぜ難しいのかを理解させるために、スワミが何年も前に示してくださった例え話を思い出します。スワミは、

「それはあたかも浜辺で砂粒を数えるようなものです！ 」とおっしゃいました。私たちは浜辺の砂粒を数えることができるでしょうか？ それは不可能な仕事です！ そして、それがスワミを決して理解できない理由なのです。なぜならそれは啓示であり、理解を伴うものではないからです。スワミが何者であるかは、決して知識、論法、尋問、読書、あるいはサーダナ（霊性修行）によって知ることはできません。何であれ、私たちをそこ（理解に達する段階）に連れていくことはできないのです！ スワミがあなたに満足され、喜ばれるときに、スワミはご自身をあなたに明らかになさるでしょう！ ですから、たとえ今、「スワミは至高の存在だ」と言ったとしても、覚えておいてください。私たちは後にそのことを忘れる傾向にあり、スワミの御教えにそぐわない多くのことを行ってしまうのです。このようにして、パラマートマ（至高の神）としてのスワミの期待を裏切るのです！ これは、スワミがここで強調されたことです。

“私は重要ではない。重要なのは私の教えである”ーババ

かつて、私の娘がスワミに尋ねたことがあります。

「スワミ、あなたは私たちの家族にとてもよくしてくださいました。私たちはいつも同じ祝福が欲しいのです。どうすればそれ（同じ祝福）を保持できるでしょうか？ 」

スワミは頻繁に私たちをインタビューに呼んでくださり、私たちの部屋にも来て話してくださっていました。それはとても特別なことでした。それで娘はスワミに尋ねたのです。

「スワミ、あなたが私たちにしてくださっているような接し方で、私たちは常にあなたの恩寵を受け取ることができるでしょうか？ 」 スワミはお答えになりました。

「わかっていると思いますが、あなた方はプッタパルティに来ることや、ダルシャンを受けることによって恩寵を得ているのではありません。そうではなく、あなた方が私の教えを

固く守り続けるなら、サムプールナ クリパー（完全な恩寵）を受け取るでしょう！ 私にしがみつくのではなく、私の教えにしがみつきなさい！ 」

私たちがスワミにしがみ続けると何が起こるでしょう？　私たちはスワミを所有しようとします！「スワミは私を見てくださらなくてはいけない！ 」これはスワミを所有するようなものなのです！ スワミにどうすべきかなど言えません！ スワミはおっしゃいました。 **「私は重要ではありません。重要なのは私の教えです」**
スワミはこれらすべてを、インタビューの中で私の娘にお話しになりました。

また別のインタビューでも、スワミは次のようにお話しになりました。
「もしプッタパルティに来ることでインスピレーション（霊感）が得られるなら、来るべきです。もしあなたの心が乱されてインスピレーションが得られないなら、来てはなりません！ なぜなら、この道には絶え間ないインスピレーションが必要だからです」

あなたが悲しみ、落胆し、腹を立てているなら、賢明にサーダナ（霊性修行）に最善を尽くすことはできません。スワミはおっしゃいました。
「あなたが何かを行うためには、常に快活で幸せな感情を保たなければなりません。そしてそれを行うためには、インスピレーションを得なければなりません。インスピレーションが得られれば、あなたは気分が良くなります。これは常に、とても必要なことです！ 」 しかし、『私が（プラシャーンティに）行かなければ人々はどう思うだろう？ 』といった思いは考慮するべきではありません。それらは主に気に留めることではありません。私たちは自分自身に言い聞かせなければなりません。
「私は（プラシャーンティに）行くようインスピレーションを得ているだろうか？ 」と。もし答えが「いいえ」であれば、来てはなりません！

サイの遍在を捜し求める

プラシャーンティ ニラヤムでの別のインタビューで、私は尋ねました。
「スワミ、チェンナイではサティヤ サイ セヴァ サミティ（センター）のために、私は何も仕事をしておりません。それは正しいことでしょうか？　間違っているでしょうか？　あなたの帰依者として、私はそこへ行って奉仕活動を捧げるべきでしょうか？ 」
スワミはお答えくださいました。
「サティヤ サイ！ サティヤ サイ！ ラニ マー、あなたは私のことを理解していなかったのですね！ 私はただのサティヤ サイではありません！ 全世界が私なのです！ 何であれ、あなたが善い仕事をするなら、それは私に届くのです！ あなたはもうそれを悟るべきときに来ています！ どうして私をサティヤ サイのみに限定するのですか？ あなたがそこに行きたいというインスピレーションを受けなければ、行ってはなりません！ **あなたがいたいと思う場所にいなさい！ ただし、善い仕事を行いなさい。どこに**

いようとも、誰のために善い仕事を行おうとも、ラーマ、クリシュナ、何のためであろうとも、それは少しも重要なことではありません！ それはすべて、ただ『私』のみに届くのです！ 」

ですから、これらはすべて非常に深遠な事柄なのです！ スワミが今、変革されようとしていることですが、人々はスワミを物理的な身体のみに限定しているのです。いいですか・・・だから私たちは「ああ！ スワミは私に話しかけてくださらなかった」と失望するのです。スワミは「神はアンタルヤーミ（内在者）であると理解している者は、真に賢明です」とおっしゃっています。スワミはおっしゃっています。「私は聞いています！ あなたはそれを信じないのですか？ 」あなたはスワミが言葉を返されるのを聞いていないかもしれませんが、神、アンタルヤーミ（内在者）は間違いなく聞いておられます！ スワミは『サイ ダルシャン』という本の中でおっしゃっています。あなたが神に対して（言葉を受け取る）用意があれば、神はあなたの内側から言葉を返すでしょう、と。

そして、多くの帰依者がこの体験を得てきました！ このような意識の段階にまで高めるかどうかはあなた次第です。

「絶対的に（疑うことなく）私に従いなさい。どんなときも、どこにいても、私の存在を意識しなさい。そうすれば、あなたは誰をも傷つけることはないでしょう。あなたが私の存在を意識すれば何が起こるでしょう？ 私があなたを通して仕事をし始め、あなたが正しいことを行うよう仕向けるのです」

仮に、私が誰かに対して無礼な態度を取りたいと思ったり、私の心が健全な状態でなかったりしても、実際に反応する前に、次の思いは「いいえ！ 余計な干渉をしてはなりません。何も発言してはなりません。沈黙を守りなさい！ 」となります。それは（自然に）やって来るでしょう。なぜならあなたはスワミの教えを絶えず実践し続けているからです。それはどんなときでも自発的に起こるとは限りませんが、時が来れば、自発的になるでしょう。そうならなければなりません！ それが神の法則です！

スワミはおっしゃいました。

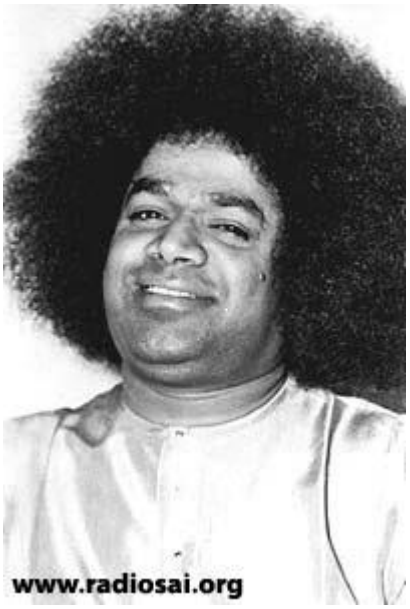
「あなたが私に（内側で、霊的に）近づけば近づくほど、物理的（身体的）に、私との距離は遠くなるでしょう！ 」それは神のサイン（印・合図）の一つです。ババ様はおっしゃいました。

「私が霊的に近づくとき、私は身体的にはあなたと非常に距離を置くでしょう。なぜなら、あなたは私の真の性質（本質）を認知したからです。そのために私は来たのです！ 私の主要な使命とは、内なるグルを目覚めさせることです。内なるグルは外側にはいません。外側のグルから始まりますが、その外側のグルが内なるグルへと導くのです」

それがスワミのご使命の目的です！（外側の身体を持った）グルでありながら、そこ（内側のグル）へ導くのがスワミのお仕事なのです。そうでなければ真のグルではありません！ スワミは俗世界のものを与えに来られたわけではないのです！ スワミはあなたから世俗的なものを取り除こうとなさっているのです！ スワミは世俗的なものもすべてお与えになるでしょう。なぜなら、あなたはまだスワミが本当にあなたに与えたいものを受け取る準備ができていないからです。徐々に、スワミはあなたを落胆させることをなさるでしょう。そしてあなたはうんざりするでしょう。スワミがそのような一切の経験をあなたにさせられると、あなたは言うでしょう。

「ああ！ 私はこのようなものは欲しくありません。私はそのような、外側にあるものからは何も得ていません」と。スワミはこのような心の状態を必ずもたらされます。スワミはこの世で、あなたにとって非常に困難なことをもたらされます。ですから、あなたがこの世を好きになることはないでしょう。あなたは思うでしょう。

「この一切のサムサーラ（世俗的な人生）から逃れたほうがましだ！ 」と。



それは、私たちにグニャーナ（英知）を教示する間接的な方法なのです！ この世（世俗）は私たちに何も与えることはできません！ 悲しみ、問題、失望のみです！ それなのになぜ私たちは存在するのでしょう？ これらの思いは内側から来なければなりません！ スワミは私たちが願うものは何でも与えてくださいますが、覚えておいてください。この世はあなた方に平安をもたらすことはできません。もしこの世が私たちに平安をもたらすことができると考えているなら、それは無知です！ この世は私たちに平安をもたらすことができないと考えるなら、それはグニャーナ（英知）です！ それは智慧です！あなたがそれを理解しているのなら、それで十分です。ですから、あなたはそのことに取り組み始めるべきです。

スワミは私のもとに来てお話しになりました。

「（書物を）多く読む必要はありません！ インスピレーションを得るのに必要なものは、何であれ読みなさい」スワミは私たちに多くの書物を読み過ぎることを禁じられました。その代りに、スワミはこうおっしゃいました。

「さまざまな著者間の矛盾はあなたを混乱させるだけです！ 偉大な哲学者や知的な討論は無意味です。あなたが読書をしたいのなら、聖者の生涯（伝記）を読みなさい。どんな聖者でもかまいません。キリスト教の聖者、イスラム教の聖者、ヒンドゥー教の聖者、彼らは（神に至る）道を辿りました。彼らは霊的な旅をしました。彼らの道は非常に明白であり、道中でわな（落し穴）や困難に遭遇することを知っていました。彼らの人生はすべての問題を示し、最終的にどのようにして善き手本となったかを示してく

れるでしょう」

以前、私は毎週一度ダルシャンに行っていましたが、今は月に二度だけです。このことに関してスワミはおっしゃいました。

「それで十分です！ あなたは（ダルシャンに）来て、私の祝福、私のオーラを受け取りなさい。あなた自身（真我）と共にいなさい。自分自身にこう言い聞かせなさい。『スワミ、あなたはどこにでもいらっしゃいます！ あなたは私の自宅にもおられます』そうすれば、私はあなたにその真実を見せましょう！ あなたはそれ（遍在の神と生きること）を実践しなければなりません。このホールの中や、あちこちの場所や、このバジャンホールの中でさえ、私をそこに限定すれば、私はそこに現れてあなたを幸せにしましょう。しかし、私を限定してしまえば、あなたは私のあまねく満ち亘る霊、パラブラフマンを体験することはできないでしょう」

ですから、スワミが私たちを絶え間なく、常に導いてくださっている間に、私たちはできる限り実践しなければなりません。しかしながら、私はこの道が困難であり、前途遼遠であることを実感しています。

第五部へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01JUL08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第五部

私はあるときプラシャーンティ ニラヤムで、ひとりの婦人と会話に興じていました。彼女は自分がプッタパルティに来る理由は健康でいるためだと言いました。ところが、彼女は自分が受け取ったものに対して大きな不満を抱いていました。私は言いました。

「あなたはここで受け取っているものが何かわかっていません！ スワミはあなたに健康、つまり霊的な健康を与えてくださっているのです！ 」
「どういう意味ですか？」と彼女は尋ねました。私は言いました。
「スワミはこの場所を『アシュラマ』とは呼ばれませんでした。『アシュラマ』は文字通り『シュラマ』、すなわち『努力』の要らない場所（ア・シュラマ）を意味しています。スワミは（この場所を）『プラシャーンティ ニラヤム』と名付けられました。なぜなら、ここは平安を受け取ることのできる神の住処だからです。スワミはすべての理解に勝る、神聖な愛の源に由来する「平安」を約束してくださいました。この平安はどのような状況にも動じることのない永続的な平安です。この平安は、誰かがあなたに優しくしてくれる時に幸せになり、そうでない時に不幸せになるといった類の一時的な平安ではありません。

同様の真実が、我々の古来の聖典に記されています。『バガヴァッド ギーター』の中でクリシュナ神は「対極を超越した者こそが私の真の帰依者である」とおっしゃいました。それは、善い待遇と悪い待遇、名誉と不名誉といった二元性によって影響されない人のことです。人はこれら（二元）のことに注意を払うべきではありません。それらは迷妄の領域に存在しているからです。スワミはおっしゃいます。
「あなた方は皆、眠っています。私はあなた方を目覚めさせるために来ました！」

かつて、スワミはおっしゃいました。
「ラニ マー、私に言わせれば問題など存在していません。問題とは認識の誤りです。あなたは非真実であるものを見ています。あなたは問題を超えたところに存在しているのですが、その事実に気づいていません。なぜなら、あなたはまだその意識の段階にまで達していないからです。そのためあなたは自分が身体であるという白日夢に耽っているのです。すべての体験はあなたの身体意識が唯一の原因です。あなたはすべての体験を身体のレベルで判断しています。スワミは身体意識に関する問題を抱えている者たちを助けるために降臨したのではありません。明日には何らかの病気や惨事が起こるかもしれません。しかし、それらはあなたの身体意識に属することです」

最も甘美な勝利

それは迷妄であり、サンスクリット語ではマーヤーやモーハと呼ばれています。スワミが暗示しておられるこの錯覚、あるいは執着とは何でしょうか？ それは妄想、無知以外の何ものでもありません。その（迷妄の）幸せや悲しみは身体に関係しています。スワミはこの無知を根絶するために降臨されました。スワミはアヴァターラ プルシャ（神の化身）であって、他のグル（霊性の師）たちのようなお方ではありません。

かつて、スワミは私を含む帰依者のあるグループにお話しになりました。

「プッタパルティに来れば、あなたがとても幸せになると考えてはなりません。むしろあなたの心は非常にかき乱されるでしょう。しかし、ここで勝利を手にすれば、世界中どこへ行ってもあなたを乱すものは決してないでしょう」

「プッタパルティはクルクシェートラの戦場です。クリシュナ神は戦場で『バガヴァッド ギーター』の不滅のメッセージを授けました。なぜなら人生は戦場だからです。戦場で勝利すれば何を得るでしょう？ 平安です！ 同様にあなたが本当は何者であるか、世界とは実は何なのか、という英知から得られる平等心によってここでの困難を超越するなら、あなたは私がそれを与えるために降臨した永続する平安を受け取るでしょう」

これが、スワミがここを「プラシャーンティ ニラヤム」、すなわち「永遠の平安の住処」と名づけられた理由です。

何年も前に、私の娘の義母（姑）はプラシャーンティ ニラヤムで安住することを望んでいました。彼女は私たちと出会ってから帰依者になりました。その後のスワミとのインタビューに彼女も偶然居合わせました。その折、彼女はプラシャーンティ ニラヤムに住みたいという自分の願いをスワミに伝えました。するとスワミはお尋ねになりました。

「なぜここに住みたいのですか？ あなたには息子が二人います。彼らと暮しなさい。ここでは誰があなたの面倒を見てくれるのですか？ 」　彼女は答えました。

「スワミ、私はここで平安を得られるのです」

しかし、スワミはおっしゃいました。

「いいえ、いいえ！ ここに平安はありません。平安はどこにあるかわかりますか？それは自分自身の内にあるのです。プラシャーンティ ニラヤムは、あなたがその平安に正しく到達するために苦闘するには役立つでしょう。苦闘することも同様にここでは必要です。一旦プラシャーンティ ニラヤムに来れば、あなたの人生の何もかもが自動的に解決するというわけではありません。英知を使って、あなた自身が努力し続けなければなりません。スワミはその英知を授けます。しかし、あなたは自分でそれを実践しなければなりません。学校や大学へ行けば教師はあなたに教えてくれますが、その教師があなたのために実践（勉強）しないのと同じことです」

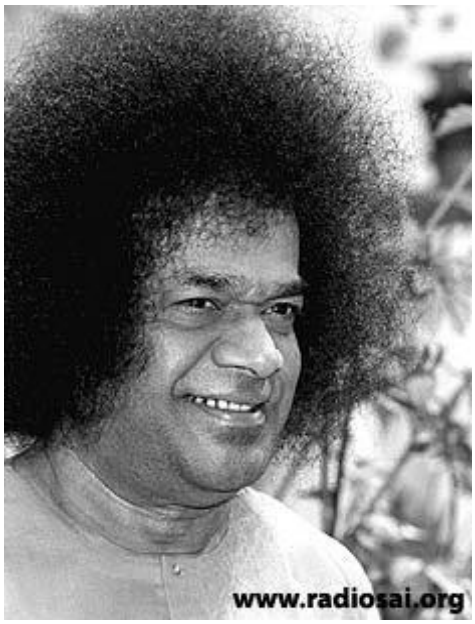
スワミは聖なる師であることを知ってください。スワミのご降臨の目的は、取るに足りないものを与えることではありません。私たちが何を欲しようとも、スワミはそれを与えてくださるでしょう。かつてスワミはおっしゃいました。

「ラニ マー、私はあなたが望むものは何でも与えましょう。ただし、それがあなたに平安をもたらすことはありません。もし平安を望むのであれば、平安そのものを願いなさい。他のことは私に任せなさい。『神様、私は永続的な平安が欲しいのです。他のものは何も欲しくありません』と言いなさい。それが全託です。真の全託とは、平安以外の何も望まないことです。あなたは非常に多くのものを追い求めてきました。お金、地位、権力などです。なぜなら、あなたはそれらが平安をもたらすと考えていたからです。しかし、それらを持っていてもあなたは不安になります。心はかき乱されます。これはグニャーナ（英知）が欠けているからです」

シュリ サティヤ サイ アシュラムではなく、プラシャーンティ ニラヤム

このような理由から、スワミはプッタパルティのアシュラムを「シュリ サティヤ サイ ババ アシュラム」ではなく「プラシャーンティ ニラヤム（至高の平安の住処）」と呼んでいるとおっしゃいます。努力、すなわちシュラマをしなければなりません。スワミは人生の浮き沈みに効果的に立ち向かうように助け、導くことができるだけです。しなければならないことは、スワミに導いてくださるようお願することだけです。スワミはかつて、これは困難なことになると言われ、私に警告され、付け加えられました。

「恐れてはなりません。私にこう祈りなさい。『スワミ、私は失敗するかもしれませんので、辛すぎるテスト（試練）は与えないでください！』」（どうしてスワミは私の最も深い内面の祈りをご存知なのでしょう？ 私はそのことを声に出して言葉で伝えてはいませんでした！）



「なぜあなたは苦闘をそんなに恐れているのですか？それは間違っています。私があなたに挑戦を与えるなら、私はその挑戦に立ち向かう強さと英知も与えています。あなたは言うべきです。『スワミ、あなたが望まれるように私をお試しください。しかしどうか私に勝利をお与えください』と。戦いに挑むとき、あなたは何を求めますか？ 銃や刀剣などが欲しいと言いますか？ あなたはただ『勝利が欲しい！』と言うでしょう！ ですからその平安を求めなさい」

プッタパルティにその平安を求めて来たのであれば、その平安を求めなさい。しかし世帯主（家長）や他の何かであることは、時おり私たちを悩ませます。そして、私たちはそれらの困難によってスワミに助けを求めるよう仕向けられるのです。時おりスワミはそれら（困難）を軽くするためにすぐに応えてくださいますが、応えてくださらないときもあります。

しかしながら、常にダルマや正義に適うものを求めなさい。ダルマに一致しないものを求めても、スワミはまったく応じてくださいません。ダルマの範囲内の要求でさえも、その要求が私たちを高めることか、そうでないかを見極めておられます。なぜなら、スワミはグル（霊性の師）だからです。

かつて、あるインタビューでスワミは「あなた方が願う良いものは何でも与えましょう」とおっしゃいました。しかし、スワミは私たちの願いを叶える適切な時を決められます。スワミは私たち各自にとって何が善いかをご存知であり、私たちの過去、未来、現在をご存知だからです。霊的な道において忍耐は主要な必要条件です。ですから私たちは、スワミが私たちの願いを叶えてくださるのを忍耐強く待つべきなのです。

これに関して、私には直接の体験があります。私の夫はプッタパルティに滞在することを大変嫌がっていました。夫はこの場所に親しみを感じることができず、アシュラムを去りたがっていました。ある訪問中、（プッタパルティを発つ前日）ぎりぎりの土壇場の夕方になって、私はプッタパルティを離れるつもりはない、もし夫が望むなら夫だけは出発して子供たちと一緒に暮らせば良い、と告げました。私は一晩中、夫がプッタパルティに滞在してスワミのオーラを吸収すれば素晴らしいことだろう、と祈り続けました。もしスワミが夫を引き留めたいのならスワミにはそれができるはずだ、と。私はその問題を完全にスワミに明け渡したのです。翌朝、まったく思いがけないことに、夫はプッタパルティに滞在するとことに決めたと言いました！　夫は最期の瞬間まで、このアシュラムに滞在しました。

神に結果を委ねる

『バガヴァッド ギーター』の中で、人間には結果ではなく行為（活動）に対する権利のみがある、と述べられています。結果は神の手の内にあり、私たちが結果をコントロールすることはできません。ですから正しい行いとは神に結果を委ねることです。そうすれば、神は適切な時にその行為の果実を与えてくださいます。

スワミが伝えられたメッセージはこうです。**「プッタパルティに来ると、あなたは多くの人に会うでしょう。幾人かは善い人で、他の人たちは悪い人でしょう。ある日は滞在するのに善い場所を得て、次の日には居心地の悪い場所を得るかもしれません。しかし、こういったすべてに影響されることがあってはなりません。あなたは内なる旅のためにアシュ**

ラムに来ました。（自分の）外側に平安を探してはなりません。それ（平安）はあなたの内に在ります。ですから内を見なさい。プッタパルティには自由に（惜しみなく）入手できる平安があると考えているのであれば、それはあなたがその趣旨を理解していなかったことを意味します。これはグニャーナ、あなたが知るべき英知です」

心（マインド）は時おり私たちをたぶらかしますが、英知を得るのに役立つこともあります。それゆえ、私たちは心（マインド）を訓練しなければなりません。これはカルマ ヨーガ（霊的な行動の道）の中で言及されていることです。心（マインド）を克服した後、人はグニャーナ ヨーガ（英知の道）へ、その後はバクティ ヨーガ（帰依の道）へと進むことができます。それまでは、私たちの帰依は完成されません。英知を修得するときのみ、帰依心は完結します。このことは『バガヴァッド ギーター』の中でも指摘されています。グニャーナ（英知）と共に、ディヤーナ（瞑想）を行わなければなりません。そしてディヤーナ（瞑想）と共に、パラ ティヤーガム（行為の果実の放棄）を育まなければなりません。

時折、私たちは善い行いをするかもしれませんが、それが好ましくない結果をもたらすこともあります。しかし、善くも悪くもその結果を受け入れるべきです。私たちは勝利を得るために仕事に従事しているわけではありません。勝利と敗北を超越するために働いているのです。神は、私たちが好ましくない結果を得て、悲しみに暮れて落胆するのを見たいとは望んでおられません。一方で神は私たちにテスト（試練）を受けるよう望んでおられますが、私たちが苦しむことは望んでおられないのです。

意識の目覚め

あるとき、ホワイトフィールドでスワミがおっしゃいました。

「ラニ マー、私は内なるグルを目覚めさせるために来ました。（自分の）外側のグルに頼ってはなりません。ですから私にこう祈りなさい。『スワミ、どうか私の内なるグルになってください。私が何をするべきか内側からご教示ください。私はその通りに行います』そうすれば、私はあなた自身の内側から必ずあなたを導きます」

そこには「私に」や「私の」があってはなりません。それは完全にスワミのものになるべきです。「私」や「私のもの」という感情が生じると、即座に無知の領域に入ってしまいます。

スワミはおっしゃいます。

「好き嫌いがあってはなりません。ラーガ ドゥウェーシャ（怒りと憎しみ）のデュオは超越すべきです。愛すべき人かどうかに関わりなく、すべての人を愛さなければなりません。その人は身体意識があるために無知から行動しているということを理解するべきです。それゆえアートマ（魂）の原理を理解していない人として、その相手を憐れみ

なさい。慈愛を持ち、そのような人々のために祈らなければなりません。スワミがすべての存在の内在者であることを理解するべきです。それゆえ何人も傷つけてはなりません。そうして初めて、人はスワミを理解していると言うことができます。それまでは、スワミを理解していると言うことはできません」

私たちは人々を比較して判断するべきではありません。そうすることで、私たちは悲しみを手に入れています。そのような道を辿っていれば、スワミでさえ助けてくださらないでしょう。間違った道を辿っているからです。かつて、私はスワミに言いました。

「スワミ、私は善い帰依者になりたいのです」　スワミはおっしゃいました。

「それはとてもシンプルなことです。必要なのは私に服従することだけです。あなたを救うことのできる書物や経典はありません。グルのみが、霊的な道を通してあなたを導くことができるのです」

グルへの服従は霊性求道者にとって非常に重要な特質です。これ（グルへの服従）は、人をとても（霊的に）高い境地へと導くことができます。それ（スワミへの服従）は、何らかの問題においてはスワミに服従し、その他の問題は自分自身で決断するといったものであってはなりません。スワミへの全託は完全なものでなければなりません。このような全託を実践すれば、スワミは解脱を約束してくださっています。解脱とは、私たちの身体意識と自我からの解放以外の何ものでもありません。「私」と「私のもの」という感覚は自我の性質です。

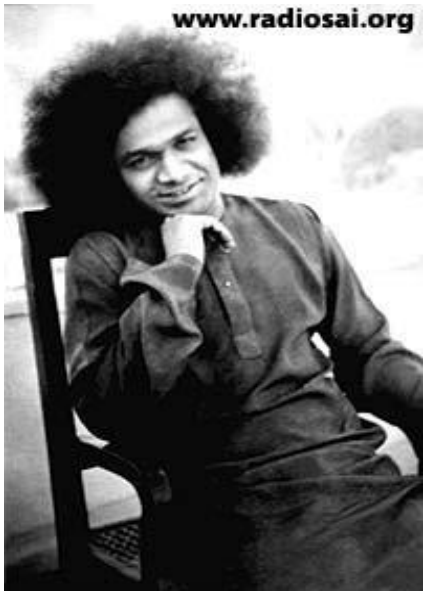
バジャン レッスン

スワミがプラシャーンティ ニラヤムに移られて 2 年後、私たちはまだ旧マンディールにいて、バジャンのためにプラシャーンティ ニラヤムに通っていました。ある行事のバジャンの最中、スワミは私たちが歌うのを止められました。私はスワミのごく間近に座っていました。スワミは私をごらんになり、お尋ねになりました。

「あなたが歌いますか？ 」　私は肯定的に返答し、カルナティック（南インドの古典音楽）は知らないのでヒンドゥースターニー（北インドの古典音楽）だけなら歌えます、と付け加えました。スワミはティヤーガラージャ キールタナ（カルナティック音楽が基盤）だけを好んでおられると思っていたからです。しかしスワミはおっしゃいました。

「そのようなことは関係ありません。あなたはバジャンを歌いなさい」

そこで、私はその瞬間、心に浮かんだバジャンを歌い始めました。そのときは気づきませんでしたが、後から思い返してみると、スワミは私にそのバジャンからある重要で深遠なレッスンを受け取ってほしかったのだと気づきました。そのバジャンの意味はスワミが私に示したかったアドワイタ（不二一元）の原理を強調していたのです。



翌日もバジャン会に行くと、スワミは再度、私に同じバジャンを歌うよう望まれました。三日目も変わることはありませんでした。私はそのバジャンの意味に注意を払っていなかったため、同じバジャンを歌うことに少しフラストレーション（不満）を感じていました。そこで、私は皆の前でスワミに尋ねました。

「スワミ、私は数多くのバジャンを知っています。何か他の曲を歌いましょうか？ 」

スワミはおっしゃいました。

「必要ありません！ 私はこのバジャンだけをあなたに歌ってほしいのです」

私たちは決して自分本位に（一方的に）スワミを理解することはできません。スワミご自身が自らの正体を私たちに顕さなければなりません。スワミを理解しようとすることは、砂浜で砂の粒を数えるようなものなのです。

数日後、スワミはご自分のお部屋の掃除をするよう、数人の婦人たちを上階に呼ばれました。私たち 5 人が上がって行き、私が掃除で忙しくしていると、スワミは「ラーマ ナーマ ジャパナーレ・・・」と、私が数日前にスワミから歌うように言われた同じバジャンを歌われていました。私は少し驚いて、独りごとを言い始めました。

「このバジャンはもう十分なのに…どうしてスワミは同じバジャンで私をうんざりさせられるの？ 」

私は振り返ってスワミを見ました。私の顔にはクエスチョン マーク「？」が付いていたのでしょう。スワミはおっしゃいました。

「あなたはなぜ私が同じバジャンを歌うのか不思議に思っていますね。そうでしょう？ 私はこのバジャンを何度も何度も歌います。このバジャンには英知の本質が含まれているからです。あなたがこの英知を消化できれば、それ以上のものは何も必要ありません。あなたは霊的ゴールに到達するでしょう」

私は、そのときまで自分がこのバジャンの意味に注意を払っていなかったことに気づきました。

私たちがティヤーガラージャ キールタナを歌う際には、ティヤーガラージャの心的状態に入り込まねばなりません。そうしてのみティヤーガラージャの価値がわかるのです。（バジャンの）意味はターラ（リズム）がどれほど善いかよりも重要です！ そのキールタナの意味はこのようなものです。

「ラーマの御名を常に唱えなさい、おお人よ！ あなたが呼吸をする限り、この家はあなたのものである！ ジャブ ラグ ヤハッ スワース タヌ ビータル、タブ ラグ ヤハ ジャグ アパナーレ あなたが呼吸をする限り、あなたは『私のお金』『私の家』と言うだろう。ひとたび呼吸が止まるなら、あなたのものは何もない！ 」

それからスワミはおっしゃいました。

「母、父、子供たち、親戚などは、単にあなた自身の想像、カルパナにすぎません。全ての創造物は単なる想像にすぎないのです。それは、実在しないあなたの心の単なる投影です。それは妄想です。すべての関係は存在していますが、絶対的に（他に比べるものがなく単独の価値基準で）存在しているのではなく、相対的に（他に比較するものがある価値基準で）存在しているだけです。あなた方はただ、ある役柄を演じているだけなのです」

カルパナとは、あなたがある役を想像し、その役を演じているという意味です。それは真実ではありません。その歌が先に進むと、

「あなたは親類縁者から離れなければならない。ジューティ ジャガット、カルパナ サーリー、アーキル ヤー ジャグ サプナー レーイ！ 結末は、それはただの夢にすぎない」となります。結末とは、死後に人がそれを悟るという意味ではありません。私はそのことを理解するのに時間を要しました。スワミはおっしゃいました。

「人生が夢であることを悟るとき、あなたは白昼夢から目覚めるでしょう」

夢は常に見られるものではありません。目覚めれば、夢はもはや存在しません。

同様に、私たちが自らの真我に目覚めれば、夢は存在することを止めます。スワミはおっしゃっています。

「あなたの真我を目覚めさせれば、あなたを悩ませている世俗（世界）は存在することを止めます」

この歌を私が完全に理解するには、かなりの時間を要しました。今はどこでも話すように頼まれれば、この歌を繰り返し暗唱します。これは、私がプッタパルティを訪れて 2、3 年後にスワミが教えてくださったことの神髄です。私は 1950 年にここへ来ました。ですから既に半世紀以上にもなります。1954 年かその頃に、私はこの歌を歌わなければなりませんでした。内に向かい、それを完全に真に理解するために、多くのサーダナ（霊的努力）を要しました。

私たちの問題の簡単な解決策

何年も前にインタビューでスワミはおっしゃいました。

「ラニ マー、あなたのレベルに下りて来て、あなたの問題を理解することは私にとって何の問題もありません。なぜなら私には問題はないからです。しかし、私にはあなたの問題はまったく理解できません。なぜなら、実際

に問題など存在していないからです！ 」

私は当時このことを全く理解していませんでした。それでスワミはこの歌（バジャン）を通して、本当の意味を授けてくださったのです。私の責務は何だったのでしょうか？それ（そのバジャンの意味）を深く考えることでした。スワミは私におっしゃいました。

「深く真剣に考えなさい。あなたはもうその本質（真髄）を得ています」私はそのバジャンの意味を深く考えておらず、問題について考え続けていました。ですからスワミはお手紙に書いて下さったのです。「ラニ マー、あなたは問題を得ています」と。

私からすれば問題ですが、スワミにとっては問題ではありません。覚えておきましょう。スワミに問題はありません！ 危機とは私たちが作り出しているものであり、私たちが自分で解決しなければなりません。『バガヴァッド ギーター』は記しています。

「問題の原因はあなたである。あなたは自分でそこから脱する方法を見つけねばならない。他の誰かが、グル（霊性の師）でさえも、それをしてくれるわけではない」

ですから、スワミはおっしゃいました。

「あなたは問題のことを考え続けています。だからこそ、私はあなたを助けることができないのです。問題のことを考えるのを止めれば、私はあなたを助けることができます。あなたが問題を忘れるとき、あなたの心をしっかりと私に固定しなさい。私の名前を絶え間なく唱え続け、私とコンタクトをとりなさい！ 神の御名は、あなたから神に向けて放たれた矢のようなものです。どのようにしてスワミとコンタクトをとるのでしょうか？ 神の名前を唱え続けることです」

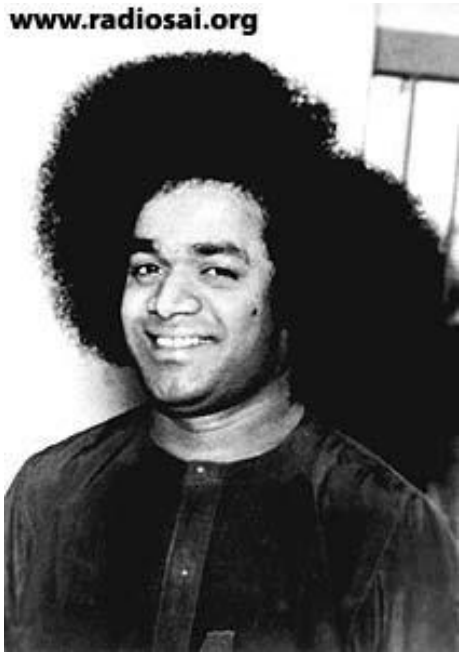
神のためだけに歌う

私はよくデリーに出かけて行き、休暇の間、姉のカマラ サーラティの家に滞在していました。姉はラーマクリシュナ・マート（僧団）の近くに住んでいました。最初の訪問後、スワミはサットサング（善い仲間）と共にいるようにとおっしゃいました。私たちはどのようにすれば良いかスワミに尋ねました。スワミはギーターの勉強会や同様の活動に参加するようにおっしゃいました。私たちはスワミにラーマクリシュナ・マートに参加し続けても良いかどうかを尋ねました。当時、スワミは偉大な人物だとは思っていましたが、スワミが神ご自身であるとはわからなかったのです。

ですから、私たちはスワミが承認してくださるかどうか確信がありませんでした。しかし、スワミはおっしゃいました。

「はい。そこはとても善い場所です。ラーマクリシュナ ミッションに行きなさい！行って、すべてのスタディーサークルと会合に参加しなさい」

そこには定例のギーターとウパニシャッドのクラスがあり、私たちは真摯に参加していました。ホーリーマザーやシュリ ラーマクリシュナの誕生祭のような行事の期間中、彼らは多数の聴衆を前にステージの上で歌う、善いバジャン シンガーを数人必要としていました。そこで姉が言いました。「ラニ マーがバジャンを知っているので、もし彼女に歌ってほしいようなら私が彼女に頼んでみましょう」



私はそのとき、偶然そこに居合わせました。私はこれらの行事の一つでミーラー、スーラダース等のバジャンを数曲歌いました。その後、お祭があるたびに歌ってほしいと定期的に招待されるようになりました。公的な儀式（催事）でしたので、人々は私の才能を知るようになりました。それで、彼らは様々なイベント、誕生祭などに私を呼び、そこで歌うように頼まれたのです。私は自分のハーモニウムを持参して、これらのイベントで歌っていました。私はこのことをとても純粋に行っていました。（姉の）カマラ サーラティが一人でプッタパルティを訪れた際、スワミはインタビューで姉にお尋ねになりました。

「ラニ マーに、自己実現（真我の悟り）か、あるいは名声と評判か、どちらが欲しいのかを尋ねなさい。もし神聖な真我を実現したいのであれば、彼女は公共の場で歌うことを止めて、自分のプージャ ルーム（祈りの部屋）で神のためだけに歌わなくてはなりません。私は彼女があらゆる所に行っているのを知っています」

スワミはデリーにいらっしゃらないのに、どうしてご存知なのでしょうか？　スワミは私たちに神の遍在を証明してくださっています。私たちの行動は何もかもご存知なのです！　私たちはスワミが遍在であることを知りませんでした。私たちが祈るときのみ、スワミは遍在であると思っていたのです！　スワミの遍在に対する私の理解は限定されたものでした。スワミが私の内なる真我であり、どんな想い、どんな言葉、どんな行いにも終日気づいておられることを知らなかったのです。スワミは私が何をしているかをご存知です。スワミに知られずして、私はどんなことも行うことはできません。

あなたがそのことに気づいていれば、とても慎重に注意深くなることでしょう。スワミがあなたの行う一切をご存じであるとわかれば、スワミが身体的にその場におられない時にしている多くのことを、あなたは行うでしょうか？　いいえ、しないでしょう。あなたといざこざのあった特定の人に対しても、あなたはとても丁寧に話すでしょう。「スワミがご覧になっている。礼儀正しくしよう」と思うでしょう。スワミが私たちに育んでほしいと望んでおられたのはこの「気づき」です。それを育まなければなりません。簡単なことではないでしょう。それは粉砕機を通す穀物のような拷問の（苦痛を与える）道です。それはヒマラヤ登山のようなものです。それゆえスワミはおっしゃった

のです。「彼女（ラニ マー）が何を欲しているのか尋ねなさい。名声と評判が欲しいのなら、どこへでも好きな場所に行って歌ってかまいません。しかし、真我を実現したいのなら、外出するのを止めて自宅の聖堂で神のためだけに歌うべきです」

このメッセージを受け取った後、私は外出するのを止めました。

ある日、マリーニ女史という人が電話をかけてきて、私に歌って欲しいと言いました。

私は言いました。

「すみません。私のグルの許可がありません」しかし、彼女は言いました。

「あなたは公衆の目前で歌うのではなく、尼僧たちのためだけに歌うのです」

私は歌うことができるかどうかわからないので、スワミに祈り、その件について考えなければならないと言いました。マリーニ女史は私が歌うべきだと強く主張しました。

私はそれについて考え、祈りました。何かが私に告げました。それが尼僧たちのためなら歌うことはできるが、その後はこれ以上歌ってはいけない、と。私はそれを明確にしなければなりませんでした。そこには尼僧たちが集まっており、スワミが私にラーマクリシュナ・マート（僧団）のサットサング（善い仲間）に出席し続けるようおっしゃっていたので、私はそこへ行きました。ラーマ クリシュナと、彼の妻、シャラダのマートは多くのことを授けてくれました。ですから私には彼らに恩を返す義務がありました。従って、そのような態度で、それが従順かどうかはわかりませんが、私は行きました。その決断はダルマに適っていると感じたのです。それは評判を得るためではありませんでした。名声や評判のためではありません。このイベントの後、私は完全に（公衆の目前で歌うことを）止めました。私の人気が廃れるまでは（私が忘れ去られるまでは）歌いませんでした。スワミは絶えず経過を見守っておられます。なぜなら、私たちはスワミに導きを求めているからです。

スワミはかつて、私におっしゃいました。

「私はすべての人を導いているわけではありません。それ（導き）を求める者だけを導いています。あなたの場合、どんなことでも、些細なことから大きなことに至るまで、私に導くよう願ったから導いています。〔私はスワミにこのマーヤー（迷妄）の世俗生活に関することさえ尋ねていました。あれこれを料理しましょうか…等〕それゆえ、私はどんなことにも干渉し、あなたを導いているのです」

私が歌うことをスワミが止めさせたられた理由に関して、私は少しの間傷ついていました。結局のところ、私は古典音楽さえ歌わずにバジャンだけを歌っていました。私は随分前に（神以外のために歌うことを）止めました。私は聖者ティヤーガラージャを思い出しました。歌うために王宮に招かれた際、ティヤーガラージャは（王のために歌うのを断り）自分は神のためだけに歌うと言いました。当時、私はスワミを理解していませんでした。別にラジオ番組のようなことをしているわけではないのに…と思っていました。しかし、それから深く考え、神のためだけに生きなければならないと悟りました。人は「私」や「私のもの」の領域に属しているものを放棄しなければならないのです。

「私」と「私のもの」を放棄すれば、人生はとても楽になる

私たちは旧マンディールにいました。宿舎の準備が整うと、スワミは彼のご使命の手伝いをしているすべての永住者たちに部屋を割り当てられました。しかし、私たちはまだ時おり訪れていた訪問者に過ぎませんでした。当時はスワミご自身が部屋を割り当てていらっしゃいました！　私たちが到着してスワミにご報告すると、スワミが利用可能な部屋を割り当てられるのです。特に行事（催し物）の期間中には利用可能な部屋はほとんどなく、幾つかの家族か、別の人たちと一緒に部屋を割り当てられました。

私たちは約 8 人から 10 人で（同室の）小さな部屋にいました。お互いに必要なものを提供し合い、すべてを分かち合って順応しなければなりませんでした。これらの部屋が利用できることよりも前に、そのこと（他の家族と順応すること）が、更に難しいことでした。スワミは順応することを学ばせるために、私たちに様々な段階を経験させられます。あなたは状況に応じて必要なものを制限することができますか？　これは霊的進化に要求されることなのです。私たちは決して不平を言いませんでした。なぜなら、スワミが私たちに強さ、受容、幸せを与えてくださったからです。内側ではまったく悲しむことはありませんでした。今、私は自分自身に問いかけています。「それらすべての困難を喜んで経験することを可能にしたものは、いったい何だったのだろう？」と。

ある行事の際、数日後に私たちはプッタパルティを発たなければなりませんでした。当時はいつ出発するかスワミにご報告しなければなりませんでした。それはダシャラー祭の期間中であり、スワミご自身が祝祭の企画進行に携わっておられたので、ダシャラー祭前の 1 か月間はすべてのインタビューを取り止めておられました。帰依者たちはお手伝いに立候補しましたが、すべてはスワミの直接の監督下にありました。ですからその時、スワミはインタビューを与えることができなかったのです。

私はダシャラー祭の前に発ちたかったので、スワミにお手紙を書いて伝えました。
「スワミ、私は発ちますのでご挨拶申し上げます」
私はカストゥーリ教授を通じてそれ（手紙）を送りました。その手紙を受けて、スワミは教授に伝えられました。
「ラニ マーに、彼女が発つ前に私は会わなければならないと伝えなさい。インタビュー ルームに呼ぶことはできません。他の人々が、私が彼女にインタビューを与えたと思うからです。ですから病院に来るように言いなさい。私が訪問で病院へ行きましょう」

当時はとても小規模だった総合病院（ジェネラル・ホスピタル）まで行かなければなりませんでした。スワミは「ラニ マーは妹と一緒に来ることができます」とおっしゃったので、私たち姉妹は約束の日に静かにその病院へ行き、スワミを待ちました。スワミはまっすぐ私たちのところに来られ、私たちを外科室へ連れて行かれました。その時の会話をすべて思い出すことはできませんが、これだけはとても鮮明に覚えています。私はずっと悩んでいたあることを、スワミに尋ねたのです。

「スワミ、あなたは皆に宿泊用のお部屋を割り当てられていますが、私はまだ自分の部屋を頂いていません。ここに来るたびに毎回、他の誰かと一緒に滞在するのは困難です。私にお部屋を割り当てて頂けませんか？ 」スワミはおっしゃいました。

「ダメです。私はここでの宿泊用の部屋をあなたに与えるつもりはありません！ あなたの部屋はありません」

もしかすると、私は何か過ちを犯していて、そのため部屋を与えられるに値しないのではないかと思いました。それからスワミはおっしゃいました。

「あなたは何を訓練しているかわかりますか？ それは『貴方』と『貴方のもの』という感覚です。私が仮にあなたに部屋を与えると、あなたはそれを『私の部屋』だと考え始めるでしょう。私はあなたに下落するのではなく、向上してほしいのです。ですからあなたに数多くの部屋を当てがいました。一度は小さな部屋に 4 人で滞在し、あなたは外まで水を汲みに行かなければなりませんでした。他の行事の最中には、チンチョーリー（旧藩王国）のマハーラーニ（藩王女）の部屋でとても快適でした。あなたは大きな部屋か小さな部屋かで不平を言うことは一度もありませんでした。あなたは幸せに滞在し、すべては神のものである、と自分自身に言い聞かせていました」

スワミは「すべての場所は神のものである」という考えを私の心に宿してくださいました。それゆえ私は不平を言わなかったのです。しかし、スワミが私にはっきりと約束してくださったことが一つありました。

「あなたがここに来る時はいつでも、ここでの滞在が外側のどんな問題によっても邪魔されることがないように私が取り計らいましょう」

一度、スワミは私たちにガレージ（車庫）に当てがわれました。スワミのお車の背後にシルディ ババのラタム（馬車）があり、ガレージには四隅のスペースだけしか残っていませんでした。その四隅の一角で調理をし、他のスペースで眠りました。

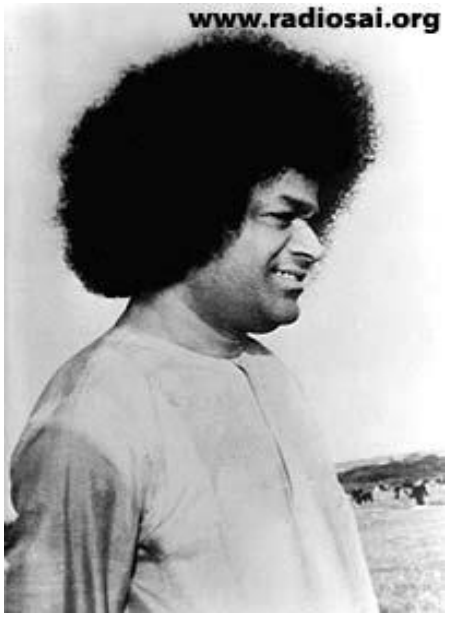
そのことで私たちが気分を害することはありませんでした。自らを惨めに思うこともなく、すべてうまくやり遂げました。これに関して、私はスワミに感謝しなければなりません。スワミは私たちに受容の力とその内にある喜びをくださいました。この受容の力は内側から生じなければならないことを実証し、スワミがこれを引き出す道具となってくださったのです。スワミは私たちに受容の力を与えてくださいました。なぜなら、私たちはスワミのためにそこへ行っており、スワミは私たちに平安を与えたいと望まれ

たからです。スワミは（自分の）外側の平安は与えてくださいませんでした。

私たちは遭遇した困難（苦境）のすべてに順応しましたが、スワミは溢れんばかりの内なる平安を与えてくだいました。今、当時のことを振り返りますと、それらの困難に遭遇した後でさえ、どれほど自分が幸せであったかを思い出します。スワミがなさったことはすべて、私のためであったと実感しています。あなたがスワミのために生きるのなら、スワミはあなたの思い、言葉、行動のすべての面倒を見てくださいます。仮に、それが困難であるとあなたが感じているのであれば、スワミに伝えてください。「スワミ、私はそれをとても困難に感じています」と。スワミは必ず助けてくださるでしょう。

沈黙という言語を話すこと

決して「私はこの仕事を成し遂げることができない」などと考えないでください。そのように考えれば、あなたは身体レベルまで落ちてしまいます。「私」という意識は自我（エゴ）です。「私」は存在しません。「神」のみが存在します。スワミが私たちの内側から（仕事を）なさいます。これは私の体験ですが、私が自分で問題を解決する必要があると考える時は、いつも、決してその問題は解決しませんでした。しかし、私がスワミに問題を委ね、「あなたが行為者です、私は単なる道具です」と言いますと、すべてがうまく働き始めるのです。私はまだ悟りの高い境地には達していません。



誰かがあなたを理由もなく非難しても、仕返しをするべきではありません。内側では傷ついて苦しまなければならなくても、外側では平静を保つべきです。「沈黙は霊的求道者の言語である」と言われます。私たちは全員が求道者です。帰依者とは「バクタ」のことです。スワミが私たちを「バクタ」と呼ばれないのはこの理由からです。かつてスワミは私たちに、この集会の中で誰一人として帰依者と呼ばれ得ないため、私たちに「アートマ スワループプラーラ」（神聖なるアートマの化身である皆さん）と呼びかけるのだとおっしゃいました。

「しかしながら、ここにいる皆さん各自はその真実を知らないかもしれませんが、アートマ スワルーパ（魂の化身、アートマの化身）なのです。帰依者と呼ばれることはできません。なぜなら『バガヴァッド ギーター』第 12 章に記されている帰依者の特質を身につけていないからです。その特質とは「対極の二元性を超越し、（一時的な）この世の真の性質を認識している者」です」

それゆえスワミは**「話をしてはいけません」**とおっしゃいます。私たちは他人についてさえ話すべきではありません。何年も前にスワミはおっしゃいました。

「あなたは自分自身に集中するためだけにここへ来たのです。他の誰かがどのような行動をしているかについて心配すべきではありません。彼らはすべて私の子供たちであり、一人ひとりが自分自身の巡礼の旅を始めているのです。幾人かは霊的に進歩しているでしょう。他の者たちは成長プロセスの中にいます。彼らはストレスを感じているために無礼であり、可哀想な者たちなのです！ 彼らは平静（落ち着き）を維持するために、全員もがき苦しんでいるのです」

ですから怒りの瞬間には彼らは無礼な態度をとるかもしれません。時おり、幾人かのボランティアたちは不親切な行動をとるかもしれません。彼らが穏やかに優しく話せば、誰も彼らの言うことを聞かないでしょう。だからそのように振る舞うのです。ですからこの場所で規律を維持するために、そのように振る舞うことが必要なのです。しかし、ある人がなぜ無礼な態度を取ったのかを気にするべきではありません。それはあなたが干渉することではありません。

神を愛しているなら、神のために生きるか、この世のために生きるか、決心せよ

すべては迷妄であることを明白にすべきです。「アサトーマー サッドガマヤー」、これはどういう意味でしょうか？　それは「非真より真実へ私たちをお導きください」という意味です。私たちはこのマントラを毎日唱えていますが、意味を理解しているでしょうか？　単に唱えるだけでは何の役にも立ちません。日常生活の中で応用しなければなりません。この吟唱の御教えを日常生活の中で実践するのは非常に困難です。少数の人によってしか実践されていません。誠実に、神以外のものは何も欲しない人たちだけが、唯一これらの御教えを日常生活の中で実践している人たちです。

グルの御教えを吸収するのは非常に難しいことですが、スワミはかつて、私たちにお話しくださいました。

「それがとても難しいと感じているなら、それはあなたが早く進歩しているということです」

グルは私たちをゴールに近づかせるため、非常に多くの試練を受けさせます。それは大海に近づいているようなものです。海に近づくにつれ、波のうなる音は段々と大きくなって聞こえてきます。ですからもしあなたが神を欲しているのなら、スワミがあなたに与えられる試練を受け入れなさい。さもなければ、もし世俗を楽しみたいのなら、正直になって、スワミにそのように言いなさい。

善良で、高潔な霊性求道者となり、その願望を達成しなさい。欲しいものは何であれ、あなたが十分満足のいくようにスワミが取り計らってくださるでしょう。あなたが神に願うものは何でも与えてくださるでしょう。『バガヴァッド ギーター』の中で、人には到達しなければならない四つの目的があると言われています。「ダルマ（正義）」「アルタ（富）」「カーマ（欲）」そして「モークシャ（解脱）」です。正直になって、神に伝えなさい。「あなたが私に課されたテストを受けることができません。私はあなたを愛しています。あなたに十分な信仰心を抱いています。でも私は世俗が欲しいのです。あなたのために生きることはできません」と。まず自分自身の真我に対して正直でありなさい。スワミはかつて、おっしゃいました。

「あなたがプッタパルティに来ることでインスピレーション（霊感）が得られないなら、ここに来てはなりません。バガヴァンはプッタパルティだけに限定されません。スワミは全宇宙の主です。インスピレーションが得られるところであればどこへでも、そこへ行きなさい」

サイ ラム。

第六部へ続く・・・
出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01AUG08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第６部

原初のお方、神ご自身からプラナヴァ（原初音であるオーム）を学ぶ

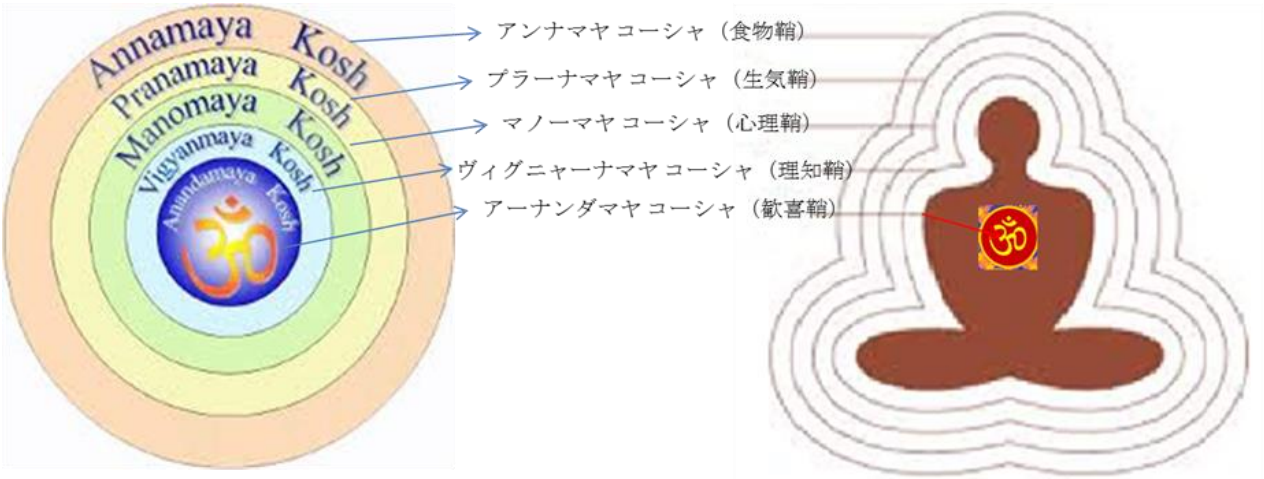
スワミは（プッタパルティ村の古いマンディールから移転された）プラシャーンティ ニラヤムに住み始められてから数年後、アシュラムに

おいて「オーム」吟唱の実践を導入されました。帰依者全員がバジャン ホールに集い、スワミは正しい唱え方を学ぶべきであると告げられました。こうして毎朝ブラフマ ムフールタ（神聖吉兆）の時間である午前３時３０分に、これらの「オーム カーラ セッション」が始まりました。（後にスワミはこれらのセッションの時間を変更なさったようです）

その実践が始まった数日後に、スワミは私たちの部屋に来られました。妹はコテージ（小家屋）を割り当てられていましたが、私には部屋を割り当てることをスワミは拒否なさいました！ いずれにせよスワミは部屋に入って来られて、私たち姉妹に床に座るようにおっしゃいました。スワミも同様に、私たち二人と向かい合わせに、床にしゃがんでお座りになりました。そしてスワミはお尋ねになりました。

「あなた方はオーム カーラ吟唱の目的を知っていますか？ 私がオーム カーラの意味と適切な唱え方を教えましょう。それは正しく行わなければなりません！ 」

スワミはオーム カーラのパワーについて説き始められ、それはアンタフカラナ、すなわちマナス、ブッディ、チッタ、アハンカーラ（心、知性、認識、自我）を浄化するのだとおっしゃいました。更に、それ（オームカーラ）はジーヴァートマ（個我）が覆われているアンナマヤ、プラーナマヤ、マノーマヤ、ヴィグニャーナマヤ、アーナンダマヤ（食物、生気、心、理知、歓喜）のすべてのコーシャ、すなわち鞘（層、覆い）を浄化するとおっしゃいました。「このような浄化を通じて、オーム カーラは人を自らの真我に近づけるのです」とスワミはおっしゃいました。



参考画像：http://www.thekundaliniyoga.org/vedanta/pancha_kosha_five_layers_of_human_existence.aspx

そしてその後、スワミは私たちのためにそれ（オーム カーラ）を唱えてくださり、スワミの後に続いて、私たちが同じように繰り返し唱えたものでした。当時はスワミご自身のお椅子はありませんでした！ スワミは敷物も敷かれていない床の上にそのまま座って唱えておられました。私たちはスワミの後に続いて唱え、真剣に学ぼうと必死でした。数日後、再度スワミは私たちを訪ねて来られ、おっしゃいました。

「あなた方がどれだけ上達したか、みるために来ました！ オーム カーラを唱えてごらんなさい！ 」
スワミは私たちが唱えるのを聞かれ、満足できるものだ（上出来だ）とおっしゃいました。そして毎日唱えるように、とご教示くださいました。

マントロパデーシャ

数日後、私たちは偶然スワミの御前に居合わせた際、スワミにお願いしました。
「スワミ、私たちにはマントラがありません。霊性の道においてマントラを唱えることは非常に重要なことだと聞きました。どうか私たちにウパデーシャ（霊的な教え）を与え、マントラを手ほどきしてください」　スワミはおっしゃいました。
「ダメです！ マントラは与えません」

私たちはスワミがおっしゃったことの真の意図を理解していませんでしたが、後になって考えてみると、スワミは純粋なアドワイタ（唯一無二、不二一元）であり、それこそがオーム カーラの意味であることを、そのとき明白にしてくださったのです。オーム カーラはまさしくパラブラフマン（普遍なる絶対者）を意味し、『バガヴァッド ギーター』では名前と姿を超越した唯一のお方として記述されています。当時、私たちはこの神聖な経典を読んでおらず、それが何を意味するのかという概念も持ち合わせていませんでした。まだそのとき、私たちには内なる深みの意味を受け取る用意ができていないことを、スワミはご存知だったのです。

当時、私たちは落胆してスワミに尋ねました。
「スワミ、ではどうすれば私たちのマントラを頂けるのでしょうか？ 」
スワミはマントラを授かるよう神に祈るように命じられ、私たちが必ずそれ（マントラ）を受け取ることができると保証してくださいました。スワミはおっしゃいました。
「しかし、それは適切な（ふさわしい）時にもたらされるでしょう。それまでは祈り続けなさい」

しかし、私たちはしつこく自分たちの要望を主張しました。
「マントラを頂けるまでは、何を唱えるべきでしょうか？ 」
スワミはおっしゃいました。
「各人にはそれぞれのイシュタデーヴァター、自分の好む特定の神の御姿があります。私が御姿を選択して指定することはありませんが、あなた方は自分で（祈る神の）御姿を選択しなさい。ラーマを好んでいれば、『オーム シュリ ラーマ』と唱えなさい。クリシュナを好んでいれば、『オーム シ

ュリ クリシュナ』と唱えなさい。あなたには二人のグル（導師）がいることを覚えておきなさい。一人はあなたのイシュタデーヴァター（神）であり、もう一人はあなたにウパデーシャ（霊的な教え）を授けるグルです」

そうして、スワミは一層くつろいだご様子で話を続けられました。

「あなたが私の名前を好んでいるのであれば、その名前（サティヤ サイ ババ）を唱えても構いません」

次に、スワミは私がどの御姿を好んでいるかお尋ねになりました。私はラーマよりもクリシュナのほうがより馴染みやすいため、クリシュナを好んでいることを認めました。

クリシュナが帰依者たちの間を歩き回ったこと、クリシュナの愛、等々が私をすっかり魅了していたのです。ラーマはすべてにおいて厳格過ぎ、厳し過ぎました！ 選択はあなた次第であり、どの神の御姿を選んでも相違ないのだからそれでよろしい、とスワミはおっしゃいました。このご指示は、スワミから私たち四人に授けられました。

この出来事の数か月後、各自が自分のプラーラブタ（過去の功徳）や好みに応じて、自分の夢の中でマントラを授かりました。

私はプッタパルティではマントロパデーシャ（マントラ・ウパデーシャ）を受け取りませんでしたが、その代わりに当時住んでいたナーグプルで授かりました。私がプッタパルティに到着すると、スワミはすぐさま私たちの部屋に来られました。私がマントラを受け取ったことをお伝えすると、スワミはおっしゃいました。

「それはとても善いことです。あなたがどんなマントラを受け取ったか話しなさい」

私がスワミに（どのマントラを受け取ったかを）打ち明けると、誰彼かまわず、あらゆる人にこのことを口外してはならない、と警告されました。しかしながら、スワミは私のグルですから、スワミにお話しすることは差支えないとおっしゃいました。私がスワミを訪問した初期の頃、スワミはそのことをご指導くださいました。スワミはパーダプージャー（御足への礼拝）をするようにおっしゃり、なぜそのプージャーを行うようにおっしゃったのか、理由を説いてくださいました。当時は、スワミが私たちのグルであることさえ自覚していなかったのです！

それでもまだ私を悩ませているものがありました。私はうっかり話してしまいました。

「スワミ、私はラーマのマントラを授かりましたが、私のイシュタデーヴァター（選択した神）はクリシュナです！ スワミはこれ（ラーマのマントラ）がふさわしいとお考えですか？ 」

スワミはおっしゃいました。

「あなたの質問は、ラーマとクリシュナが同じ神であるという事実を理解していないことを示しています。なぜ違いを見るのですか？ すべての姿は一つです。何らかの理由により、あなたはラーマのマントラを授かったのです。畏敬の念を持って受け取りなさい。あなたが姿の違いにとらわれ続けるなら、そのマントラの効果は減少するでしょう。ラーマをあなたのマントラにし、クリシュナをあなたのイシュタデーヴァターとし

なさい。しかし、その違いを意識することなく唱えなさい。そうすれば、あなたは確実にその神の意識（神性意識）に到達するでしょう。そのような善いマントラを授かったあなたは幸運なのです」　その日以来、私は授かったそのマントラを唱えています。

コダイカナルへの神のご招待

当時、スワミは私たちに夏の間、スワミを訪問するようにおっしゃいました。群衆も少なく、その場所は静かになるため、私たちと一緒に多くの時間を過ごすことができるからだとおっしゃいました。そしてこの（前述のスワミのご指示）後の夏に、ブラフマチャーリニー（禁欲主義の女性）の妹、９歳の娘と４歳の姪と共に、私はプッタパルティに到着しました。私たちが到着した際、スワミはプッタパルティにおられました。しかしながら、数日後に思いがけず、スワミは私たちに報せることなくお車でプッタパルティを発たれました。

私たちはカストゥーリ小父様のところに行き、スワミの行き先とお戻りになる予定日について尋ねました。小父様は、スワミがコダイカナル（スワミがかつて盛夏を過ごしていた南インドの高原避暑地）に行かれたことを教えて下さいました。私たちはがっかりして、カストゥーリ小父様に尋ねました。

「何があったのですか？　私たちはスワミと共に時を過ごすという唯一の目的のために、はるばるプッタパルティまで来たのです。でもスワミは私たちが発つことを許可してくださることもなく、いつお戻りになるかを報せてくださることもなく、私たちを置き去りにして発たれてしまわれました。私たちはどうすればよいのでしょうか？」

カストゥーリ小父様は、スワミにお手紙を書くようにおっしゃいました。

「スワミの許可なくしてあなた方がプッタパルティを発つことはできないことを、スワミにお話しなさい。スワミはいつあなた方が（プッタパルティを）発つべきか、日程を示してくださるでしょう。それはあなた方が従わなければならない礼儀です」

と、小父様は言われました。

そうして、私たちはカストゥーリ小父様が教えてくださった住所宛に、スワミへのお手紙を書きました。そのお手紙の内容は次のようなものでした。

「スワミ、私たちはあなたのためにここに来ました。しかし、あなたが私たちをここに置き去りされたので途方に暮れています。私たちはどうすればよいのでしょうか？　ここで、あなたの存在なくしてプッタパルティに留まる理由（目的）は何もありません。

帰宅いたしましょうか？ スワミは私たちにどのようにしてほしいですか？ 」
その後、私たちはスワミから電報を受け取りました。そこにはシンプルにこう書かれていました。「コダイカナルに来て、私と共に滞在しなさい」

私たちは幸せでした！ 私たちはチェンナイに行き、私たちの大切な友人でコダイカナルにいるご婦人に、宿泊施設のことで連絡をとりました。彼女はシュリ ラーマクリシュナの帰依者であり、コダイカナルに２軒のバンガロー（小別荘）を所有していました。そして、カマラ サーラティ（私の姉）の娘と、更に２人の友人も加わりました。私たちは５人の大人と（２人の）子供たちのチームで、その友人のバンガロー（小別荘）に滞在し、数か月間どうにかうまくやっていきました。唯一の問題は、その場所がスワミのお住まいから非常に遠かったことでした。しかし、当時はそれが唯一の使用できるバンガロー（小別荘）だったのです。

コダイカナルに到着した初日に、私たち５人と２人の子供たちはスワミのお住まいのある丘の頂上まで、長い道のりを歩いて上がって行きました。それはヴェンカタムニ氏の美しいバンガロー（小別荘）でした。私たちがスシーランマ（ヴェンカタムニ夫人）の家に近づくと、驚いたことにスワミが乗られた車が走り去るのを見えました！ スワミは数人の方々とご一緒でした。ラージャ レッディー氏が運転し、スワミが彼の隣にお座りになり、数人の紳士らが車の後部座席にいました。

スワミは私たちが来ているのをご覧になり、車を止めて声をかけて下さました。
「ラニ マー、ここに来なさい。心配してはなりません。私はコダイカナルを離れません。他の場所に出かけるのです。ここにいなさい。数日後には戻ります。私のとても愛する帰依者が重病なのです。彼は私のダルシャンを望んでいます」
それでスワミがお戻りになるまで、私たちにコダイカナルに滞在し、毎日スシーランマの家へ昼食に行くようにおっしゃいました。そしてスワミが戻られた後、私たちは外で朝食と夕食を摂りましたが、一日の大半をスシーランマの家でスワミと共に過ごし、昼食とお茶をごちそうになりました。

モークシャ（解脱）に関するレッスン

そのうちに、スワミは私たちを部屋に呼ばれておっしゃいました。
「霊性の道には３つの段階があります。あなたは２つの段階を渡りました。３つ目（の段階）を渡るのは非常に困難です。最初の２つの段階までは歩いて渡るように簡単です。しかしながら３番目の段階は跳躍が求められ、ごく少数の人しか渡ることができないために、人々がた

めらう段階です」

私は『バガヴァッド ギーター』を読んだ後、スワミが意図されている３番目の段階は、モークシャ（解脱）を意味しているのだと理解しました。モークシャ（解脱）に到達するのは非常に難しく、人は完全にエゴ（自我）を取り除き、どんなときも神聖な覚醒意識の中で、アルタ（富への願望）とカーマ（欲望）等のような心を曇らせるに違いない世俗的な欲望の痕跡がまったく残らない状態で生きなければなりません。これは、心（マインド）から解脱に至る最後の段階です。心はあなたがこの肉体であると考えさせます。それ（心）はあなたが誰かの息子であり、他の誰かの兄弟である等々・・・と語ります」

スワミは続けておっしゃいました。

「最後の段階に到達するのは非常に困難です。しかし、あなたはそこに到達しなければなりません。あなたが進む道に現れる試練は厳しいものになるでしょう。内側に向い、答えを求めなさい。スワミがどんな状況でも、どのように対処すればよいかをあなたに示します。あなたのエゴ（自我）を慎みなさい」

このウパニシャッド（指示）はすべて、私たちがどのようにして完全に「私」「私のもの」という感情を根絶しなければならないかを示していました。スワミがプッタパルティで私に住居を与えてくださらなかったのは、この理由からでした。スワミはおっしゃいました。

「あなたは『貴方（神様）』『貴方（神様）のもの』のために取り組んでいます。なぜ私があなたに部屋を与えなくてはならないのですか？ そうすれば（部屋を与えれば）、私はあなたを『私』『私のもの』のレベルに落としてしまうことになります。あなた方は皆、最後の跳躍を恐れて尻ごみをしています。そのようになってはなりません。淀んだ水は悪臭を放ちます。澄んだ川のように流れなければなりません。試練と苦難に立ち向かいなさい。それらは合格しなければならないテストなのです。ババはあなたに試験を受けさせ、あなたは自分の成績に基づいて合格するか不合格になるでしょう。恐れてはなりません。私はあなたと共にいます。一度に一歩進みなさい。更に更に放棄しなさい。たとえ誰かがあなたを傷つけたとしても、平静を保ちなさい。反応してはなりません。誰かが横柄な態度をとったとしても、落ち着いて平静を保ちなさい。あなたは限定されたエゴ（自我）のせいで反応するのです。飛躍しなさい。そうすれば私はあなたを救います。立ち止まってはなりません！ 」

夫のキャリア（経歴）ー 神による取り計らい

この訪問の前、夫についてスワミとお話していた際に、初めに私はスワミにお尋ねしました。

「スワミ、私の夫が困難に遭遇しています。夫

に値する昇格が見過ごされているため、夫は非常に落胆しているのです」
私の夫は保健局の局長の役職に昇格するはずでしたが、州首相は政治的な理由から夫を昇格させたくなかったのです。州首相は自分の甥を、私の夫よりも専門的には後輩であるにもかかわらず、その役職に任命したのです。

それから、私の夫は辞職の決断をするよう、ぎりぎりの状況に追い詰めたその彼から、（仕事の）指示を仰がねばなりませんでした。これはすべて、私がデリーで妹の出産の手伝いをしていた際に起こりました。夫は一人でひどく動揺し、スワミに会うためにプッタパルティに行きたいという強い衝動に駆り立てられました。夫は、自分に安心を与え、導くことのできる者はスワミ以外に誰もいない、と思ったのです。

夫はプッタパルティに行くことを私に報せませんでした。夫はインドールからひそかにアシュラムに到着し、カストゥーリ小父様のところに行きました。夫は自分が私（ラニ マー）の夫であることを自己紹介し、ババに会う機会を小父様に求めました。
カストゥーリ氏は言いました。
「ババはここにはいらっしゃいません！ ババに会うことはできません。あなたは帰らなければならないでしょう」
夫は非常にがっかりしてインドールに戻る決意をしました。間もなくババが車でお着きになりました！ ババはお部屋に直行され、カストゥーリ氏を呼んでおっしゃいました。
「ラニ マーの夫、スッブラマニアムがここに来ていますね？ 彼はいませんか？ すぐに彼を上階に来させなさい！ 」
夫はスワミのところに行き、心の内をさらけ出しました。夫はまたこの問題と同様に、プッタパルティへの訪問も私（ラニ マー）に秘密にしていることをスワミに伝えました。スワミは夫におっしゃいました。
「ラニ マーについては心配いりません！ 彼女は私のものです。私が彼女の面倒をみます」
夫は職場でこのような体験をしたので辞職したい、とスワミに話しました。スワミはおっしゃいました。
「ダメです。そのようなことはできません。（職場に）戻って留まりなさい。私があなたを救います。それには時間がかかりますが、私にすべてを委ねなさい」
その後、夫はカストゥーリ小父様としばらく過ごし、とても元気を取り戻して帰ってきました。

そして、これはその後しばらくしてから起こったことですが、ある日、コダイカナルでスワミが私一人だけをお部屋に呼ばれ、この夫の問題についてお話しになりました。スワミはおっしゃいました。
「私はスッブラマニアムに手紙を書きました」
スワミはラージャ レッディー氏にそれ（手紙）を書き取らせました。
それは英語の見事な肉筆（手書き）でした。スワミは私にその手紙を手渡され、読む

ようにおっしゃいました。その手紙には、人がどのように絶え間なくダルマ（正義）を遵守するべきか、そしてその他のことはスワミに委ねるべきかについて記されていました。その手紙は３－４ページあり、多くの霊的助言が記されていました。よく人は、部分的にダルマに従事し、部分的にアダルマ（不正）にふけっています。

その手紙の中でスワミはおっしゃっていました。

「すべては適切な時に起こるでしょう。ダルマを遵守し、その他のことはすべて私に委ねなさい」

私が手紙を読んだ後、スワミはお尋ねになりました。

「ラニ マー、この手紙で大丈夫ですか？ 」

私は言いました。

「スワミ、なぜそのような質問をされるのですか？ 私のような者がスワミによって書かれた手紙にコメントを述べられるでしょうか？ 」

スワミはおっしゃいました。

「そうではありません。私があなたの夫に何を語ったかを、あなたは知っていなければなりません。私が正しいアドバイスを提供したことで、あなたは幸せを感じなければなりません」

私は言いました。

「スワミ、あなたが手紙を書いてくださったのなら、そうであるに違いありません。私のような者が、それについて何か感想を述べられるでしょうか？」

そして、スワミはその手紙を郵送されました。数年後、夫は自分に対して不正を働いた政府の保険省次官を訴えました。インド高等行政官のヴァラダン氏はマディヤ プラデーシュ州政府の次官であり、私たちの親愛なる友人でした。氏はこのケースを取り上げ、政府の正義のために戦ってくださいました。ヴァラダン氏の主導力は、州首相と保険（厚生）大臣に、保健局の副局長の役職を設けるよう促しました。それは州の歴史上前例のないことであり、悪を正すために、そして私の夫をこの役職に就かせるためになされたことでした。ババの奇跡に注目してください！

この出来事の数か月後、州レベルの保健局の会議がインドールで開催され、州首相の甥の（夫の代わりに昇格した）局長が議長を務めました。マディヤ プラデーシュ州の様々な地域を代表する医師と局長たちが出席していました。会議が始まる際、数行の開会宣言を述べた後、その議長はステージ上で倒れました。彼の隣に座っていた私の夫は、彼が倒れるのを抱えました。彼はすぐ病院に運ばれましたが、（その後は）生存しませんでした。その後、夫が（代わって）局長に昇格し、一時的に与えられた副局長の役職は廃

止されました。この出来事は、スワミがおっしゃったことを立証しています。

「ダルマ（正義）を果たすなら、結果は適切なときに訪れます。それ（結果）は私に委ねなさい」

第 7 部へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01SEP08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第 7 部

何年も前のある日、スワミは私たち全員にアムリタ（神聖甘露）をお配りになりました。アムリタの意義について、具体的にスワミがおっしゃたことは思い出せません。ただそれを私たちが授かったことは、非常に幸運なことだとおっしゃいました。今、過去を思い起こしますと、私が理解したことは、私たちは常に身体意識のレベルで活動しているということです。「私は考える」「私は行う」「私は聞く」等々です。

スワミは何をなさろうとしているのでしょうか？ 私たちの心（意識）から身体意識を取り除き、アートマ スワルーパ（私たちの真の姿、即ち真我）を私たちに明らかにしようとなさっています。アムリタ（神聖甘露）は非常に重要なメッセージなのです。頻繁に吟唱される祈りがあります。「ムルッティヨールマー アムルタム ガマヤ」（「死を越えて不滅へと導きたまえ」）。

死は身体に限定されるものであり、魂に死はありません。スワミは私たちの身体意識を一掃し、私たちに、私たちのアートマ スワルーパ（真の姿、真我）を明らかにするために来られました。アートマとは何でしょうか？ それ（アートマ）にはルーパ（姿）はありませんが、無限のパワー（力）として身体に内在しています。だからこそ、スワミはおっしゃるのです。

「あなたの内にはすべてのパワーが宿っています。あなたは不滅なのです！ それゆえ、

どこに恐れや心配の余地などあるでしょうか？」と。

私たち姉妹（ラニ マーとその姉妹たち）は皆、誠に祝福されています！ 私たちは健康や富のような物質的な事柄をお願いするためにスワミのもとに来たのではありません。霊的な道を歩む上での助けのみを望んで来ました。その目的だけのために来たのです。スワミ自らが、私たちに健康上の身体的な問題があるのなら言いなさいと、何度も問いかけてくださいました。しかし、私たちの方からこのような（健康上の身体的な問題についての）話を始めたことは決してありませんでした。

無知を至福に変容させること！

スワミのご指示に従い、コダイカナル（スワミがかつて盛夏を過ごしていた南インドの高原避暑地）を訪れた際、友人のサロージャが私たちと共に滞在していました。彼女は毎日スワミのダルシャンから戻るたびに、慰めようもないほど泣いていました。私たちがなぜ泣いているのか訳を尋ねると、サロージャは言いました。

「スワミはずっと私のことを無視なさいます。スワミは決して私を見てくださることも、話しかけてくださることもありません」

このような（毎日ダルシャン後に泣いていた）ことが数日続いた後、彼女はその苦悩の原因を私たちの何人かに打ち明けてくれたのです。スワミは彼女自身の善のためにそうなさっていること、彼女はそれを受け入れることを学ばなくてはならないことを、私たちは可能な限りサロージャに説明しました。しかしサロージャは納得せず、スワミのなさること（振る舞い）の背後には深い意味があるに違いないと感じていました。

解決策がなくなったため、私たちは正しい説明をサロージャに与えてくださるようにスワミに熱心に祈りました。その祈りは応えられ、私はある夢を見ました。その夢の中でスワミはおっしゃいました。

「このメッセージをサロージャに伝えなさい。私は彼女が泣いているのを知っています。これは彼女を慰めるでしょう。一家の家長が客を招く際、彼（家長）は家族の者たちに関心を向けるでしょうか？ あるいは客に関心を向けるでしょうか？ 私に親密な者、私の家族は、決して私が無視しているなどと考えるべきではありません！ あなた方はゴーピー（クリシュナに熱烈に帰依したブリンダ―ヴァンの牧女）のようなものです。あなた方は私（スワミ）のために生きています。スワミを喜ばせるには何をすべきかを常に考えながら生きています。あなた方は家族なのです！ 」

朝、目覚めて私がサロージャにこのことを伝えると、彼女は大喜びしました。

先日のご講話中に、スワミはおっしゃいました。

「古い帰依者は何も期待せず、喜んで新しい帰依者に場所を譲りなさい。新しい帰依者はスワミによって教育され、導かれる機会を得るべきです」

スワミは個人的に、私にも同様のことをおっしゃいました。

「ラニ マー、あなたは非常に多くのことを受け取りました！ これ以上何が欲しいのですか？ 新しい者たちに場所を譲りなさい！ 満足し、幸せでいなさい。他人を羨んではなりません。彼らには私の導きが必要なのです。あなたは既にそれ（導き）を受け取っています。今、あなたはそれを生きなければなりません！ 」

私が最後にスワミのインタビューを受けたのは 1984 年のことです！

更なる自己修養、更なる恩寵

それは、スワミがおっしゃった他のことにも関連しています。

「私が最初に話したことを実践しないなら、私はあなたを無視するでしょう」

これは学校に通っている時に宿題をしなかったようなものです！ スワミが「すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい」とおっしゃっているのに、自宅に戻り、家族の皆と口論になり、機会があっても他人を助けないなら・・・等々、スワミのもとに戻って更なるウパデーシャ（助言）を求めても何の役に立つでしょうか？ 私たちが受け取った助言を実践するまでは、スワミが再び私たちに話しかけてくださることはないでしょう。

アートマ（真我）は私たちに英知の力と強さをもたらします。どの家族の中でも、私たちは優しい人をより愛し、冷淡な人をあまり愛さないでしょう。しかし、そのようなことをしてよいはずがありません！ スワミは「神の愛は無条件であり、人間の愛は条件付きである」とおっしゃっているのです。

「あなたはなぜ、他人がどうであるかについて悩むのですか？ あなたがどうであるかを気にかけなさい！ 私の恩寵が欲しいのなら、無条件の愛を培わなければなりません！ すべての人を平等に、無条件に愛しなさい」

善人でいることは自分の霊的成長には役立ちますが、他人にとってはさほど役に立ちません。学校のクラスで良い成績を取っても、それは他者が良い成績を取る助けにはなりません。各自が自分自身のために努力しなければなりません。善い成績を取りたいと望むなら、自らが実践しなければなりません。

真の英知の実践

ある手紙の中でスワミは「バガヴァンとの交わり」についてお話しになっています。スワミはおっしゃっています。**「あなたは常に私と話し続けていなければなりません」**

あなたがスワミと絶えず話すことを習慣にし、あなたの内に純粋意識としてスワミの存在を体験すること、これが瞑想になるのです！ 純粋意識とは何でしょうか？ それは、身体そのものには大きな重要性はなくとも、身体は純粋意識であるアートマ（真我）を包んでいるものであるという英知の認識です。

かつて、スワミのパーダナマスカール（御足に平伏する礼拝）を大声で騒ぎ立てて請い、常にスワミの後を追いかけていた古い帰依者たちに、スワミはおっしゃいました。

「あなた方はなぜ、パーダナマスカールのために私の身体の後を追うのですか？ あなた方のハートの内で私を常に視覚化し（思い描き）、何度でもナマスカール（平伏）することができます。そこから得られる恩恵は、霊的意識の中で行うのですから、身体意識の中で行うよりも、その結果は絶大です」

なぜ、私たちはスワミの身体的な御姿を追うのでしょうか？ これ（スワミの身体の御姿を追う）を行うことで、私たち自身を身体に限定するだけでなく、スワミご自身をもスワミの身体（御姿）に限定してしまうのです！ これにはグニャーナ（英知）がありません！ 無知です。バクティ（信愛、帰依、神への愛）は、グニャーナ（英知）と手を携えて進まなければならないとスワミがおっしゃっているのはこのような理由からです。ディヤーナ（瞑想）は、グニャーナ（英知）とバクティ（信愛、帰依、神への愛）に続いて生じます。ディヤーナ、もしくは瞑想とは何でしょうか？ それは座禅のポーズ（姿勢）で座ることではありません。内へと深く入って行き、あなた自身の真我と完全に波長を合わせることです。それまでは、ディヤーナ（瞑想）にはなりえません。

それは瞑想ではなく、せいぜい黙想になりえるだけです。何年間ものサーダナ、すなわち霊性修行を経て、ディヤーナ（瞑想）が訪れます。**スワミはおっしゃっています。「先ず、私の存在の中にいることを実践しなさい！ 」と。あなたのハートにおわすスワミと常に話をするなら、プッタパルティに行き、スワミとお話しするためにインタビューの機会を得る必要性がどこにあるでしょう？ スワミはあなたのマータ、ピタ、バンドゥ、サカ（母、父、伴侶、友人）であり、あなたのすべてなのです。ですから、スワミにハートを開き、すべてを分かち合ってください。スワミがあなたの内おられるという確信を培わなければなりません。**

何日もダルシャンに行くことなく、私は実に多くの体験（内なるスワミとの対話）をしました。今は月に 2、3 度（ダルシャンに）行く程度です。私は身体的（物理的）にはスワミと話しませんし、スワミにお手紙を渡すこともありません。あなたがグニャーナ（英知）を受け取る際には、スワミがあなたの内で、多くの素晴らしい特別な方法で、

あなたを助け、あなたに喜びを感じさせてくださいます。妹や私の場合、スワミは段階的に徐々に（内側から）教えてくださいました。初めの頃は、花々や樟脳や他の品々をお供えしていました。当時でさえ、スワミは私たちに最小限の本だけを読むように、とおっしゃいました。スワミはよくおっしゃったものでした。

「グルのウパデーシャ（助言）を伝える本やスワミの本は、あなたを助けるでしょう」スワミは適切なときに、あなたにメッセージを授けるスワミ独自の方法をお持ちです。スワミは本を通じてよくメッセージを授けられるのです。

最近では、私はどんな本も買いません。先日数冊の本が出版されましたが、それらは非常に有益で参考になります。少し例を挙げますと、『サイ ダルシャン』『サイコロジー』(※通常サイコロジーは psychology と綴り**サイ**コロジーと読み心理学を意味するが、この本はあえて **Sai**cology と綴り、サイの英知の学問を意味している)『サイ サンデーシュ』などです。『サイ サンデーシュ』は、ここ（プラシャーンティ・ニラヤム）の設立の意義を理解するために非常に役に立つ本です。著者はなぜプラシャーンティ・ニラヤムのアシュラムが設立されたか、それはどういうものなのかを解説しています。ある特定の個人や重要人物が、時折アシュラムで優遇されると、私たちの心はかき乱されます。

プラシャーンティ・ニラヤムで何が起こるかは、私たちが気に懸けることではありません。私たちは皆、それ（P.N.で何が起こるか）はスワミにお任せしなければなりません。スワミはおっしゃっています。

「あなたが自分の最善を尽すなら、それ以外のことは私が行います！ 」

スワミは私たちから非常に素晴らしいパフォーマンス（実演・実践）を期待されているのです。スワミはおっしゃいます。

「四分の三（3/4）は自己分析を行い、四分の一（1/4）はサーダナ（霊性修行）を行うべきです」

サーダナ（霊性修行）では、ジャパ（神の御名を繰り返し唱えること）、ディヤーナ（瞑想）、バジャン、読書、私は今日どのようは行いをしただろうかと（自分自身を振り返る）自己内観ができます。私は自宅の戸口に援助を求めて来た人を助けただろうか、あるいは追い返しただろうか？ 私はすべての人に優しく接しただろうか？ 私たちは自分の見解の相違を拭い去らなければなりません。アドワイタム（不二一元）は、ユニティー（一体性）以外の何ものでもありません。テロリストたちのためにさえも祈りなさい！

これは、霊的理解により一致（適合）することです。スワミはおっしゃっています。

「あなた方は皆、この世というステージの上である役柄を演じています。自分が演じているとき、他の人がどのように演じているかに集中しますか？ あなたは自分の役をどのようにうまく演じるかに集中しなければなりません！ あなたがステージで演じるのはほんのわずかな時間です。どんな役であってもうまく演じなければなりません。しかし、あなたが演じる何らかの役柄とあなた自身を同一視すれば、あなたは失望するでしょう。自分の内で何が起こっているかにのみ集中しなさい。外で起こっている出来事については心配してはなりません」

サイの慈愛を信じる

スワミの遍在を生き生きと実証した出来事についてお話ししましょう。私の息子が 8、9 歳頃のことでした。私たちはナーグプルに住んでいました。息子は大人用の自転車に乗る習慣がありました。息子はその自転車より小さなサイズの自転車を持っていたのですが、その小型の自転車を好んでいませんでした。ある日、息子は片手にフットボールを抱えながら大型（大人用）の自転車に乗って、友人たちと遊びにでかけました。

友人たちと遊んだ後、息子は帰宅の途中でした。息子はその自転車にきちんと座ってペダルに足が届くほどの身長はありませんでした。そこで、息子は自転車に立ったままペダルをこぎ、片手にフットボールを抱えてバランスをとっていました。そしてその後、息子は大きな排水溝の近くで、自転車のコントロールを失いました。

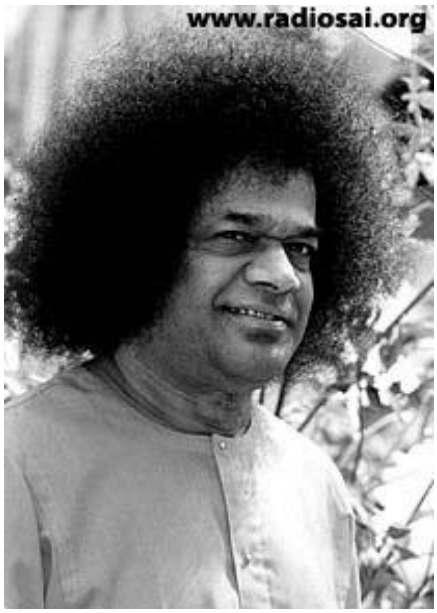
フットボールが息子の手から落ち、自転車の前にころがって（自転車と）ぶつかったため、自転車は息子の上にすさまじい音を立てて倒れてきました。息子は身体中を打撲し、泥まみれになりました。幸い、息子の骨はすべて無傷でした。彼らの遊んでいた友人宅からすぐ近い距離で、息子は自転車を押しながら帰宅しました。息子を見るなり、私はショックを受けて気が動転しました。

私はすぐさま医者を呼び、数時間後に医者が息子を診察するために到着しました。そのときまでに、息子は発熱していました。医者は、これ（息子の病）はすぐに処置をしなければ命取りになる「敗血症」かもしれないと言いました。医者は、一刻の猶予もなく薬を投与しなければならない、と忠告しました。

不幸にもそのとき、私の夫は遠方にいました。その医者は、この町ではストライキがあり薬を手に入れることはできない、その医者の病院にもこの薬の在庫はない、と告げました。医者は、私が何とかしてできる限り早急にその薬を入手しなければならないと言いました。私はとっさに思いました。「この子をひとりで残して、どうして行くことなどできるでしょう？ 」　私はスワミに助けを祈りました。その後まもなく、看護大学に通っていた友人のマーダヴィが、用事があって家にやってきました。私は彼女を信用し

て息子を任せ、彼女に深く感謝し、家の召使いを連れて車に乗り込み、薬局に向かいました。しかし薬局は閉店しており、薬剤師もその辺りにはいませんでした。私は薬剤師の自宅まで行きましたが、そこにも（薬剤師は）いませんでした。

スワミは常に、あなたがどれほど根気強いかをテストされます！ スワミの助けは、あなたが最善を尽くした後、常にぎりぎりの土壇場で訪れます！



私はその薬剤師の自宅で妻のバネルジー夫人に会い、彼女の夫（薬剤師）がいつ戻って来るのか尋ねました。バネルジー氏は薬局がある同じビルの最上階でホテルを経営しており、管理の仕事のために出かけていて午後８時頃までには帰宅するだろうとのことでした。私は座ってスワミに祈っていました。そしてちょうど午後９時前、ある紳士がやって来て、バネルジー氏の妻に、彼女の夫が薬局の鍵を必要としていると告げました。

他の誰かが緊急に薬を必要としていたのです。バネルジー夫人は、自転車で到着したその紳士に鍵を渡しました。私は薬局まで自家用車でその人の後からついて行くと告げました。そしてバネルジー氏に会い、薬を売ってもらうことができたのです。それから急いで自宅に戻り、息子にその薬を投与しました。息子は何の合併症もなく、数日後に回復しました。

この出来事から数か月後、デリーに住んでいる私の妹のプラティーマが、スワミのダルシャンに与るためにプッタパルティに行こうとしていました。妹はプッタパルティに向かう前に、ナーグプルの私たちの家に数日間立ち寄りました。後になって、私はプッタパルティで彼女に何が起こったかを知ることになりました。プラシャーンティ・ニラヤムに到着すると、スワミは妹を上階に呼ばれ、お尋ねになりました。

「ジャワーハル（ラニ マーの息子）はどうですか？ 彼は大丈夫ですか？ 」

妹はその質問に驚きました。妹は尋ねました。

「スワミ、なぜそのようなことをお尋ねになるのですか？ 」

スワミはおっしゃいました。

「知らないのですか？ 彼は最近、重大な事故に遭ったのです。ラニ マーはあなたに話しませんでしたか？ 」　妹は言いました。

「いいえ、スワミ！ 何が起こったのか私に話してください」

そうして、スワミは次のように妹にその事故の全容をお話になりました。

「彼は自転車に乗っていて転倒しました。彼は非常に深刻な頭の傷を受けました。しかし、ラニ マーが子供たちを守ってほしいと常に私に祈っていたので、そのように行う（子供たちを守る）ことが私の責務だったのです。私は彼がこの事故に遭ったことがわかり、すぐさま（彼の元に）行き、私の両腕に彼を抱えて、不慮の事故から救いました」

神との対話が瞑想

この出来事はスワミの遍在を証明しています。私がしていたこととは、どんなときも常にスワミと話し、スワミに私の子供たちを守ってくださるように祈ったことでした。これが、「スワミと話をすることが瞑想です！ 」とスワミがおっしゃった際に意図されたことです。アンタルヤーミ（私たちの内在者）としてスワミ（神）と対話し、常にスワミ（神）の導きやご加護を祈ることが瞑想なのです。瞑想とは何でしょう？ それは、私たちのハートの内に神の存在を安置し、この世のことは忘れることです！ それは、一日中どのような活動を行っていても、私たちが実践するべきことを導いてくださるよう祈ることです。それは、常にスワミに懇願し続け、スワミの導きを求めることです。あなたが霊的に成長するに従って、あなたの内なる声は何をするべきかを導きます。

私はもはや灯火や樟脳、その他の道具によって礼拝することはありません。スワミがあなたを導かれます。スワミはあなたを救い、歌や本や誰かを通じてメッセージを送って来られます。先ほど私が紹介した３冊の本、『サイ サンデーシュ』『サイ ダルシャン』『サイコロジー』は、誰かが私の自宅に持って来てくれました。自分で買いに行ったわけではありません。これらの本は私にとって霊的に多大な助けとなりました。

あなたが常に「スワミ、私の行うことが何であれ、あなたを喜ばせることができますように、私が霊的に成長するように助けてください」と祈り続けるなら、スワミは霊的にあなたを助けてくださいます。この次に紹介する歌は、スワミの学校で学んでいる孫娘から教わった歌です。

「ドゥニャー ネ チャーダーイェ プール トゥジェ クフド コー チャダーネ アイ フ」
（この世界はあなたに花を捧げました。
しかし、私はあなたに私自身を捧げるために来ました ）

このディヴォーショナル・ソング（帰依の歌）の各節は、純粋なアドワイタ（不二一元）です。この歌を歌うとき、私は高められる感じがします。

ある年長の女性が、身体中が痛みで疼くことを話してくれました。彼女の痛み止めは神について話すことだそうです。彼女が神の話をすると、何の痛みも感じなくなるのです！ それで彼女は常に神について話したがります。このことは彼女がその段階に（霊的に）進化し、誠実であることを示しています。スワミはおっしゃいます。

「簡素で誠実でありなさい。あなたに可能な限りの最善を尽くしなさい。そして、私があなたをどのように引き上げるかを見ていなさい！ 」

「私は彼らを失望させません！」ーババ

娘と私は、孫たちをババの学校で学ばせることを熱望していました。家族の中では、他のだれよりも私がそのことを熱望していました。しかしながら、私の義理の息子（娘の夫）は孫たちをプッタパルティに送ることを望んでいませんでした。孫たちがプッタパルティで教育を受けると、この世の実生活に適応しなくなるのではないか、また彼らの人生の取り組みや理解が非常に難しいものになるのではないか、と感じていたのです。それで彼（娘の夫）はスワミの学校に子供たちを送りたくなかったのです。彼らは私の孫たちではありますが、義理の息子（子供の父親）の意志に反して無理に決断させることはできませんでした。そこで、私はスワミに祈ることに決めました。私はひとりでプッタパルティに行き、部屋を確保し、スワミの近くで孫たちが勉強するという幸運な機会が得られるように、スワミに 40 日間祈りました。この後、私は娘に、再度彼女の夫に（孫たちのことを）尋ねるように言いました。娘が尋ねると、彼（義理の息子）は言いました。

「おそらくこれは善いことなのだろう。それ（子供たちがスワミの学校で学ぶこと）をやってみようじゃないか」

彼の意見が変わっていたのです！

私の娘は、孫の入学試験の申請を進めました。孫息子のドゥルヴァは 8 年生（日本の中学 2 年生)、二人の孫娘は 6 年生と 7 年生で、バンガロールのバリー スクールで学んでいました。娘はドゥルヴァが受ける入学試験と面接のための受験票を受け取るという知らせを受けました。入学試験日の 1 か月前に、娘は言いました。

「アンマー（お母さん)、私はバンガロールにいなければならないので、ドゥルヴァをプッタパルティに連れて行って、英語と一般教養と他の教科の指導をしてください」

そこで、孫息子と私は受験日の 1 か月前にプッタパルティに到着しました。スワミは私にサウス（南）ブロックの部屋を与えてくださいました。それは素晴らしい部屋で、とてもマンディールに近い部屋でした。

私たちはその部屋に落ち着きました。受験の数日前の午後 9 時頃でした。私たちが床に就こうとしていると、誰かがドアをノックしました。ドアを開けると彼は言いました。

「すぐに、あなたのお孫さんを寄こしてください。クトゥンバ・ラーオ氏がお孫さんと話したいとのことです」

私はなぜクトゥンバ・ラーオ氏（当時アシュラムの秘書担当）が私の孫息子と話したいのか不思議に思い、私も孫に付き添いたいと申し出ました。しかし、クトゥンバ・ラーオ氏はドゥルヴァ（孫息子）だけが来ることを望んでいる、と相手は主張しました。私は孫をその紳士と一緒に行かせました。孫が戻って来るとすぐさま、私はクトゥンバ・ラーオ氏と孫が何を話したのか、すべてを教えるように言いました。ドゥルヴァ（孫息子）は、クトゥンバ・ラーオ氏があらゆる質問をしたことを話してくれました。

試験日の前日、私たちはまだ（入学試験と面接のための）受験票を受け取っていませんでした！ 心配になった私は娘に確かめましたが、娘も受験票を受け取っていないと言いました。その日（受験前日）に私は（ダルシャンで）一列目に座っていました。そしてスワミが近づいて来られた際に、スワミにお尋ねしました。

「スワミ、あなたはドゥルヴァの入学を許可してくださいました。しかし、私たちは受験票を受け取っておりません。どうすれば孫は試験を受けられるのでしょうか？ 」

スワミはおっしゃいました。

「受験票がないのですか？ 受験票のことは心配しなくてよろしい！ 受験票がなくても彼を受験に行かせなさい」 私はしつこく言いました。

「スワミ、でも面倒なことになります！ 受験票がなければ追い出されてしまいます」

スワミはおっしゃいました。

「私はあなたに言いませんでしたか？ その件は私が面倒をみますと。彼を行かせて、試験を受けさせなさい」

次の朝、私は受験票がないまま孫息子を入学試験に行かせました。誰も孫を止める者はいませんでした。孫の名前を聞いた瞬間、孫を通してくれたのです。最終的に、孫はハッブ校長のところに行きました。校長は孫を招き入れてくださいました。孫は試験を受け、入学を許可されたのです！

私は何が起こったのかを後から知りました。ハッブ校長夫人は私の義理の娘の友人で、長年プッタパルティに住んでいます。ハッブ校長夫人は彼女（義理の娘）を訪問して、私たち家族がどれほど幸運であるかを話してくださいました！ そして何が起こったかをここでお話しします。**スワミは個人的に（直々に）、自家用車で学校に行かれ、ハッブ校におっしゃいました。**

「明日、ドゥルヴァ・スッバーヤ（ラニ マーの孫息子）が受験票なしで入学試験のために到着します。彼を入学させなさい。試験に合格しようと落ちようと、彼を入学させなければなりません！ なぜだかわかりますか？ この家族は私と非常に親密な関係にあるので、私は彼らのためにこれをしなくてはならないのです。彼らを失望させることはできないのです！」

バガヴァンと常に話をすることが、どれほど大切なことかわかりますか！ 私は受験票を受け取らなかったというだけで、引き返すことはありませんでした。信仰が何を成し

得るかわかりますか？ スワミの慈愛をご覧ください！ スワミ自らが、このひとりの生徒のために学校へ行ってくださったのです！ シーマ・デーワン女史によって書かれた本、『サイ ダルシャン』の中に、スワミの慈愛を受け取るためにスワミが定められた条件が記されています。それは有益で霊感を与える本です。それは私たちがスワミから最大限の恩寵を受け取るために、私たちが何をしなければならないかを説いています。スワミが定められた条件に合うことは非常に難しいことです。しかし、あなたがこれらの条件を満たしていれば、スワミは常にあなたの面倒をみてくださるでしょう！ あなたは 24 時間、1 週間（絶え間なく）スワミのご加護を受けるでしょう！ これは直接的で確実なスワミご自身からの約束です！ 本を読むだけでは充分ではありません。それ（本に記されたこと）を実践に移し、これらの条件に沿って生きることによって、私たちはスワミの恩寵を得るのです。

第８部へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01OCT08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第８部

1950 年代の荘厳なるダシャラー祭

1950 年代と 60 年代のダシャラー祭では、かなり異なっていました。私たちは当時、パタ マンディラム（旧マンディール）に滞在していました。これは（マンディールが）プラシャーンティ ニラヤムに移転する以前のことです。祝賀祭は、現在私たちが目にしているようなものではありませんでした。スワミが（お祭りの）行列に加わっておられました。スワミは 4 人の男性に担がれた輿で運ばれていました。当然ながら、スワミは私たちよりも高い場所におられました。私たち帰依者は後ろに下がって、スワミに向ってバジャンを歌っていました。

きちんと舗装された道路もなく、行列は非常に夜遅く始まりました。私たちは石につまずいたり、棘を踏んだりしましたが、そういったことすべてに気を取られることはありませんでした。私たちはただスワミ見ていました。そのことが私たちに大変多くの喜びをもたらしました。各自、帰依者にはスワミが異なって見えていたのです。何人かの人たちにはスワミが母なる神として、そして他の人たちには、彼らのイシュタ デーヴァター（個人が信じている神）として見えていました。各自がスワミのことを、自分が好んだ観方で見ていました。それはとても個人的なことだったのです。

当時、スワミの衣服は豪華でした。今日、人々にはそれは信じがたいかもしれません。スワミの衣服はブロケード（金らん豪華な錦織）で、ザリ（装飾用枠の模様）で装飾されていました。帰依者がそのように（スワミに豪華な衣服を身につけて頂くことを）望んだからです。ダシャラー祭の期間中、スワミは聖なる母の化身であられるのです。それ故に、スワミはオークル色（黄土色、オレンジ系色）を見につけることができませんでした。帰依者はスワミを素晴らしい衣服で着飾り、スワミもそのことを許可されていました。

ザリの一例　（参考映像：http://www.shutterstock.com/s/%22decorative+borders%22/search.html）

このようにして、行列はプッタパルティ中を歩いていました。しかし当時のプッタパルティはとても小さな場所で、1 本か 2 本の道路しかありませんでした。土地全体が森のようで、家々も道路もなく、人口も約 300 人ほどでした。

行列は夜中の 12 時か 1 時に終了していましたが、私たちを疲れさせるものは何もありませんでした。それ（ダシャラー祭の行列）は、私たちが強く願ったことでした。いいですか。私たちはほとんど眠ることもなく、当時は適当なお店もありませんでしたので、ほんのわずかなものしか食べませんでした。とても質の悪い米、平豆や、他には長い時間の調理が必要なものを売っている店が 1 軒だけありました。

それで私たちは食用油と他の食物を（自宅からプッタパルティまで）持参し、2 つのトランクは荷物でいっぱいになっていました。またお料理も調理のための槇があるかどうか次第でしたので、早く調理することはできませんでした。台所はありませんでしたので、野外で調理していました。これが 1950 年代当時の様子でした。

歓喜のジューラ ダルシャン

その後、ジューラ ダルシャン（スワミがブランコにお乗りになるダルシャン）がプラシャーンティ ニラヤムで取り入れられました。ダシャラー祭の最終日、ヴィジャヤ ダシャミーの日、スワミはいくつもの花輪で装飾された美しいジューラ（ブランコ）にお座りになっていました。

スワミもまた、とても豪華に着飾っておられました。帰依者は歌を歌い、ジューラを優しく押しました。これはヴィジャヤ ダシャミーの日の夜に行われました。これはジューラ プログラムと呼ばれ、夕食後のみ、午後 8 時 30 分に始まりました。

その頃は、皆が形式張らずにブランコの周りにただ座っていました。当時は規則も何もありませんでした。早く行きますと場所が確保できます。その後、物事が徐々に変わっていきました。スワミの御降誕の日に、私たちは皆スワミのもとに行き、花輪を捧げてナマスカーラム（平伏）しました。すべての人が中に入らせて頂き、どんな人にもスワミは機会を与えられました。スワミは椅子に腰かけておられました。母なるイーシュワランマ様がスワミに聖油を塗られていました。

スワミの御降誕の日には、彼女（イーシュワランマ様）が聖油を塗られた後に、一列に並んでスワミのもとに行って花輪を捧げました。今日では、もちろん多くのことが変更され、お祝いも完全に変わりました。私たちは日に 2 度、毎日パーダナマスカール（スワミの蓮華の御足に平伏し触れ、礼拝する）を行っていました。ほんのわずかだけ、身体的に触れることが可能でした。今日、このようなことは人間的レベルでは不可能です。

願望の成就

現在は娘が所持している小さな黄色のポーチの出来事について、皆さんと分かち合いたいと思います。

初期の頃、1950 年代から 1960 年代の頃、ニューデリーの帰依者たちはとても幸運でした。時折、ダシャラー祭やスワミの御降誕際のようなお祭りの際は、プッタパルティに行くことができない帰依者のために、行事の参加していた者がプラサーダムを持ち帰っていました。

しかしながら、私はさほど幸運ではありませんでした。当時はインドールに住んでいて、そこには帰依者は誰もいなかったからです。一方、私の 2 人の姉妹はニューデリーに住んでいました。私はよく彼女たちのプッタパルティへの旅に合流して一緒に行っていましたが、時折行けないこともありました。私はプラサーダムを頂く好機を逃したことについて、**自己憐憫に浸り、悲しんでいました。**

ある日の午後、私たちと同居しているコックがドアのベルを鳴らしました。私は彼のためにドアを開けに（玄関に）行きました。そしてドアの前の床の上に小さな黄色のポーチを見つけました。それは布のポーチでした。私はそのポーチがコックのものだと勘違いして、彼のものではないかと尋ねました。「いいえ、アンマー」と、彼は言いました。好奇心から、私はそのポーチを開いてみることにしました。

びっくりしたことに、そのポーチの中はヴィブーティとクムクムの小袋でいっぱいでした。スワミが遍在であることを私は真に悟りました。わかりますか！　プラサーダムを受け取る好機がないことを私が嘆き悲しんでいたので、バガヴァンが私の家の玄関先まで届けてくださったのです！　これはバガヴァンのクリパー（慈愛）です。この貴重なポーチは私の娘に譲りました。

あなたは家長かもしれませんが、あなたが真に神を愛し、神のためだけに生きていることを自分自身が知っているのであれば、神は聞いておられます。

神はすべての祈りを聞いておられる

スワミはすべてをご存知です。私たちはサドゥース（苦行者）ではなく、単にサドゥージャナス、無害な人々にすぎません。私たちは祈りますが、ただそれだけです。瞑想や苦行を課したわけではありません。しかし、スワミからのお呼び出しがあり、最初にプッタパルティを訪れた際に、スワミは私たちを変革なさいました！

どのようにしてでしょうか？　両親が子供たちのために祈るとき、スワミはお聞きになるとスワミはおっしゃいます。（両親は）自分の子供が善い地位に就き、多くのお給料を稼げるようにと祈り、スワミはお聞きになっていますが、その祈りはスワミを喜ばせる祈りではありません。しかしながら、自分の子供たちが全身全霊で神を愛し、神に奉仕することを私たちが祈ると、スワミは大変喜ばれることでしょう。スワミはこのよう

な祈りを叶えられます。私の母もそのように祈っていたと思います。なぜなら、今私たち姉妹はスワミと共にいるからです！　スワミはかつて、私たちの母がとても信心深い女性だったとお話しくださいました。彼女は若くして亡くなりました。

しかし、母の願いは、娘たちが神にしっかりとしがみついていることでした。スワミはかつておっしゃいました。

「母の祈りが、あなた方 3 人姉妹をここに導いたのです」

どのようにしてスワミは私の母について知られたのでしょうか？　スワミは私の母に一度も会われたことがないのです！　この考えは、スワミが本当に私たちの心からの誠実な祈りを聞いておられるという信念を強固なものにしました。ここで加えてお話ししたいのは、私の祖母も大変神に対して信心深かったことです。そして祖母も同じように祈っていたことでしょう。

神の任務を授かる

仕事の都合で、私の夫はボーパールに移転しました。ご存知かもしれませんが、ボーパールはインドのマディヤ プラデーシュ州の首都です。そこは、私が初めてプッタパルティを訪れた頃に住んでいた場所です。ボーパールから（プッタパルティ）を訪問した際の出来事が思い出されます。ある日の夕刻、プッタパルティでスワミは上階に来るように私を呼ばれ、お尋ねになりました。

「あなたは今、マディヤ プラデーシュ州に住んでいますね？ 」

私は言いました。

「はい、スワミ。私はボーパールから参りました」

私たちは頻繁に住まいを移転していましたので、スワミはよくどこから来たのか、お尋ねになりました。そしてスワミはおっしゃいました。

「ボーパールには、サティヤ サイ サミティ（センター）がありません。そこであなたがサティヤ サイ サミティ（センター）を始めなさい」

そしてスワミはプラサーダムとしてリンゴを私にくださいました。

私はサミティ（センター）を開始する方法は知りませんでしたが、できないと申し上げることもできませんでした。私はとても不安になりました。私はスワミに何も話しませんでしたが、内心とても不安でした。私は祈りました。

「スワミ、そこで私が知っている人は誰もいません。どのように人々と連絡をとればよいのでしょうか？ どのようにスタートすればよいのでしょうか？ 私は何も経験がありません」その後、私はボーパールに戻りました。

スワミがその仕事のために私を選ばれたのなら、何らかの形で私にスタートさせてくださるだろうと考えていました。スワミは常にそこにいてくださいました！　私は様々

な友人を通して、いくつかのグループにシュリ サティヤ サイ ババについて知っているか問い合わせ始めました。あるご婦人が、工場労働者のグループを知っていて、そこには接客係、事務員、日雇い労働者などが含まれており、毎週木曜日にサイ バジャン会が開催されていると教えてくださいました。

私はその小麦工場に行きました。その場所は非常に広く、どの扉をノックすればよいかわかりませんでした。労働者のためのたくさんのアパートがありました。私は祈りました。

「スワミ、どうか正しい扉に私を導いてください」

私は 2 階（英国やインドでは 1 階）に行き、ある扉をノックしました。ひとりの紳士が扉を開けてくれました。私はその紳士にサイの帰依者を知っているかどうか尋ねました。

彼自身がサイの帰依者だと言い、私を部屋の中に招いてくれました。彼のアパートの部屋にはスワミのお写真がありました。その紳士は言いました。

「私たちはあなたのために何ができますか？ なぜ私たちのところに来られたのですか？ 」

私は彼にプッタパルティからのご命令について話し、彼に助けてくれるように頼みました。彼は言いました。

「わかりました。マー（お母さん)、どのような助けが必要ですか？ 」

私は定例バジャン会や、子供たちやご婦人方のためにスワミの御言葉を広めるための授業（教室）が開催でき、またバジャンを教えることのできる部屋がないか、彼に尋ねました。彼は言いました。

「はい、問題ありませんよ。あなたに提供できる祈りのホールがあります」

授業を始めなければなりませんでしたので、私は彼に一緒に手伝ってくれるようにお願いしました。

「問題ありません」と、彼は再度言いました。

「私はあなたのお手伝いをします」

娘は当時私と一緒に暮らしていました。ですから娘にも手伝うように頼みました。私は婦人部を組織し、バルヴィカスの授業を実施しました。しかしながら、私はバル ヴィカスのコースのカリキュラム（教育課程）を知りませんでしたので、独自のカリキュラムを創りました。

一度、共通の友人を通じて婦人クラブの秘書に連絡をとり、クラブを訪問して、スワミについてご婦人の方々にお話ししたいと伝えました。そのために秘書の許可をとり、その秘書と共通の友人ともうひとりの私の友人と私は、そのクラブに行きました。私がそこで見たのは部屋でビリヤードをしている女性たちでした。他の部屋ではカードをして遊び、他の部屋ではその他のゲームに興じていました。クラブのメンバーは事前に私

の訪問と目的が伝えられていることを教えてくれましたが、多くの人は興味を持っていなかったのです。3、4 人ほどのご婦人が座っているだけでした。そのことで私が悩むことはありませんでした。私は灯をともしましたが、スワミのお写真を掲示しませんでした。その代りに、テーブルの上に私が持参したサルヴァ ダルマのシンボルマークを置きました。

ご婦人方は懐疑的でした。彼女たちは、私が彼女たちをサイの帰依者に改宗させるためにそこに行ったと思っていたのです。私はスワミがすべての宗教のもの（神）であり、私には彼女たちを改宗させる意図はまったくないことを伝えました。すると彼女たちはリラックスしたようでした。そして私はトゥラスィーダース（ラーマーヤナの語り手であり、著名な詩人）のバジャンを歌い始めました。私は目を閉じて、そのようなバジャンを 2、3 曲歌いました。目を開くと、驚いたことに 20 人から 25 人ほどのご婦人方でその場所はいっぱいになっていました！　彼女たちは是非参加したいと言ってくれました！

その後、私は広大なバーラト重電機（インドの国営総合電機機器製造会社）のキャンパスを訪れました。そこは実際小さな行政区でした。私は会長に面会し、私の目的とシュリ サティヤ サイ セヴァ サミティ（センター）について説明しました。充分に説明した後、彼は喜んでホールを提供してくださいました。私はそこにサルヴァ ダルマのシンボルマークを設置しました。BHEL（バーラト重電機）ホールでは、製粉工場で活動に加わってくださった多くの友人たちが、なぜスワミのお写真を設置しないのかと尋ねました。

サルヴァダルマ

そうする（スワミのお写真を置く）ことで、会合に興味を持っている人々が遠のくかもしれないからと、私は告げました。加えて、そうする（スワミのお写真を置く）ことが目的ではないからです。スワミは私が正しいことを行ったとおっしゃいました。スワミご自身が、60 歳の御降誕際のご講話の中でこれについてはっきりと述べておられます。「あなたが何かを始める際に、私の写真を持って行ってはなりません。それはオーガニゼーションの方針に反することです。私は単にこのサティヤ サイ ルーパ（姿）だけに留まりません。私は普遍です。ですから私のシンボル（サルヴァ ダルマ）のみを設置しなさい」

多くの困難を乗り越える

私は 4 か所の工場から、約 8 人から 10 人の労働者を含む会員による委員会を組織しま

した。その委員会は、決してシュリ サティヤ サイ サミティ（センター）として承認されることはありませんでした。プッタパルティを訪問する予定のひとりの紳士がいました。そこで、私はスワミに私の手紙を届けてくれるように渡し、彼に言いました。

「最前列に座り、スワミに手渡して、『これはラニ マーからの手紙です』と言ってください」

この委員会をスワミが祝福してくださるよう、スワミにお願いして欲しかったのです。

スワミはその手紙をお受け取りになりました。その手紙にはそれほど多くのことは書かれていませんでした。その手紙には委員会が形成されたこと、委員会の会長、書記や他のメンバーの名前が記されていました。しかし、私の名前はそのリストには記載しませんでした。スワミはその手紙をご覧になると、差し戻しておっしゃいました。

「私はこの委員会の承認にサインすることを拒否します。それ（手紙）を持って帰りなさい。ラニ マーにこれは正しい委員会ではない、と伝えなさい。これでは機能できません。それ（手紙）を彼女に戻しなさい。祝福はありません」

その人は戻って来ると、バガヴァンが何をおっしゃったかを私に話してくれました。「スワミは、『それ（委員会）はすべて不適切で、正式な委員会ではありません』と、おっしゃいました。変更しなければなりません」と彼は言いました。私は座り、祈りました。スワミに、私は誰も著名人を知りません、と申し上げました。

友人を通じて、私は州知事であるレッディー夫人に会いました。友人がこの尊敬されているご婦人とのアポイント（約束）をとりつけてくれました。最初に、レッディー夫人は私に訪問の理由を尋ねました。私は夫人に、ボーパールでシュリ サティヤ サイ サミティ（センター）を始めたいことを話しました。彼女は素っ気なく言いました。

「私はサティヤ サイと関わりを持つことをお断りします。私はサティヤ サイのことを信じていません。私から何らかの援助を期待しないでください」

私はショックを受けました！　彼女はとても不愛想だったのです。私は数秒間、目を閉じてどうすればよいかを祈りました。

内なる声は私に、諦めてはいけないと言いました。

「求めなければなりません。諦めてはなりません！　」

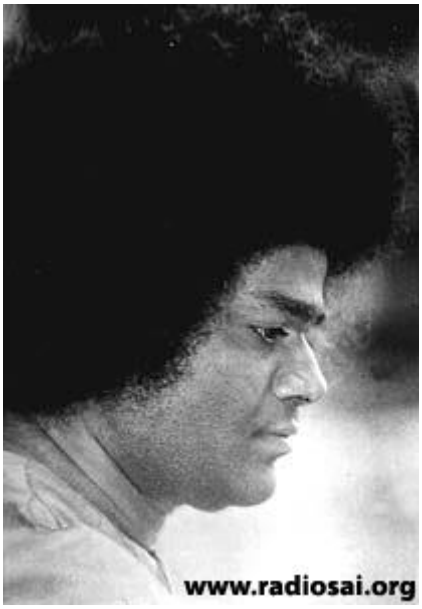
夫人は素っ気なく私に帰るように言いましたが、私は帰りませんでした。なぜ夫人が信じることができないのか理由を尋ねると、彼女はこのように話しました。

「私は 2 度、プッタパルティに行きました。サティヤ サイ ババに会うためにマドゥライ

から私の友人も連れて行きました。その友人はマドゥライ工場のトップ経営者で大変お金持ちです。私は友人と彼の家族に同行してババのアシュラムに行きました。友人には18歳ぐらいの重病の息子がいました。医者は望みを捨て、息子はそう長くは生きられないと告げました。それで私は友人にサイ ババについて話しました。友人は私に、一緒に同行してスワミに祝福を頂いて、息子を治してもらえるよう頼んでもらえないかと私に頼みました。プッタパルティでその工場のオーナー（所有者）はババからインタビューを授かりました。彼はババに息子を治すことができるかどうか尋ねました。サイ ババは、その少年は大丈夫です、とおっしゃいましたが、その少年は亡くなりました。なぜスワミは嘘を言ったのですか？ スワミが神でありえますか？ 私を納得させてくれるのなら、あなたのお手伝いをしましょう」

私はその理由を彼女に説得しようと努めました。
「いいですか、レッディー夫人、私たちには主原因はわからないのです。何よりも先ず、霊性が理解されなければなりません。そのことは『バガヴァッド ギーター』にも記述されています。それは英知です。私たちの霊的人生（生活）が英知です。人はやみくもに宗教に固執することはできません。あなたは失望し、動転し、不幸になるでしょう」

「私にとって、全ジャガット（世界）が非真実（偽り）です」ーババ



もうひとつの出来事が思い出されます。この点をはっきりとさせるために、簡潔にお話ししましょう。ひとりのご婦人と彼女の娘がプッタパルティを訪れました。娘は結婚をしてまだ2、3年ほどでしたが、医者は娘を癌と診断しました。お母さんは取り乱しました。スワミはそこで奉仕をしている私の妹をお呼びになり、2 人の母娘の面倒をみるようにおっしゃいました。スワミはお母さんには、すべては大丈夫です、とおっしゃいました。しかしながら、数日後にその娘は亡くなりました。

私の妹はスワミに駆け寄り、スワミがなさった約束について尋ねました。スワミはお応えになりました。
「私はマンガラ スワルーパ（吉兆の化身）です。どうして私がマンガラ（吉兆）ではないことを話すことができますか？ 私は真実を語るだけです。嘘が真実に相対するものとして存在していないように、嘘と真実の間には何の相違もありません。あなた方、人々が体験していることは妄想なのです」

スワミは私の妹におっしゃいました。
「仮にあの女性に『あなたの娘が 5 日、あるいは 5 か月で死ぬだろう』と伝えれば、彼

女はそれ（亡くなる）までの間、昼夜苦しむことになるでしょう。彼女の娘も絶えず苦しむことになります。彼女たちは眠れなくなるでしょう。とても不幸になるでしょう。既に彼女たちは嘆き苦しんでいます。不安にさせ、悲しみを創造するために私は来たのでしょうか？ あるいは平安を与えるために来たのでしょうか？ 私はあなた方人々と、真実の神のレベルで話し合うことはできません。あなた方には理解できないからです。それは非真実（偽り）ではありません。私にとっては、全ジャガット（世界）が非真実（偽り）です。それがあなたの問題であっても他人の問題であっても、それらは非真実（偽り）なのです」

スワミは単なる盲目的な信仰はまったく役に立たないことをおっしゃっているのです。バクティ（信愛、帰依心）がなければなりません。

私が彼女（レッディー夫人）にこのことをすべてお話しすると、レッディー夫人に完全な変容が起こりました。彼女はラジ バヴァン（州知事のお屋敷）の全従業員が授業に参加することを許可してくださいました。私はまた彼女に、委員会の会長に就任して頂くようにお願いしました。加えて、私はどのような地位も望んでいないことを申し上げました。私の目的は、ただスワミに従うことだけでした。

しかしながら、多くの議論の後、私は共同の書記になることに応じました。次に、私は副会長を必要としていました。私はダタール シング卿を知っていました。彼は大変著名な方で、英国のナイト爵を授けられていました。私がシング卿のことを知っていたのは、彼の娘さんたちがアーナンダモーイー マーの帰依者で、私が彼女と非常に親密な関係だったからです。私はダタール シング卿に電話をしました。彼はシーク教徒であり、このオーガニゼーションはヒンズー教の団体なので、そのポストを引き受けることを辞退したいと言いました。

「あなたがシーク教徒であるのでしたら、なお更、（サイ オーガニゼーションの）副会長に就任する理由があります」と、私は言いました。

彼は理解を示してくれませんでした。私は彼にコンセプト（基本理念）について説明しました。

「私たちの間には何の違いもなく、カルト儀式や教派もなく、特定の宗教もありませんが、唯一の愛の宗教があります。理念とは世界をひとつにすることです」

私は彼に言いました。

「小父様、あなたはグル ナーナクに祈ります。私たちはあなたにババに祈るように言っているのではありません。しかし、あなたのお名前を与えて頂き、スワミのご使命を受け入れてください。あなたはただスワミのご使命を受け入れなければならないだけです。スワミご自身を受け入れる必要はないのです！ 」

彼は賛同してくれました。

その委員会は、会長に州知事の妻であるレッディー夫人、副会長にダタール シング卿、

そして他の委員メンバーが就任して結成されました。役員のメンバーは全員年長者で、社会において権威のある地位に就いている方々でした。

その後、しばらくして他のもうひとつのグループがプッタパルティに行き、スワミに新しく書き直した委員のメンバーリストをお見せしました。スワミはおっしゃいました。

「大変善い委員会です。ラニ マーに、私はとてもハッピーですと伝えなさい。この委員は適任です」

後にスワミは私におっしゃいました。

「わかりますか、これらの普通の人々が他人のために何ができるでしょう？　彼ら自身がさほど裕福ではありません。尊敬される人々は公共施設を開設することができます。彼らは大学などを開設できます」

スワミがなさることにはすべて理由があるのです。スワミは正しい適任の人々が、適切なときに、適切な場所で、適確なことを行うのを願っておられます。貧しい人々が病院や大学を開設できるでしょうか？

スワミがボーパールのシュリ サティヤ サイ セヴァ サミティ（センター）を開設された方法はまさに奇跡でした。会員になる可能性のある人たちは、最初は現れませんでしたが、スワミは他の人に話して納得させるために、スワミの要望を満たすためのブッディ（考え、英知）を私に与えてくださいました。ここで中核になる理念とは、神の仕事において人はエゴをいっさい持ってはいけないということです。あなたがババに従いたいのなら、エゴの余地はまったくありません。あなた自身を神に委ねなさい。トワメーヴァ サルヴァム。そうすればスワミはあなたの人生に介入されます。

神による神聖な手術の助手

私はまたとない（唯一の）出来事を分かち合いたいと思います。それは私の娘、シーラに関わることです。彼女は当時 9 歳ぐらいでした。その頃、バジャンの時間帯は完全にスワミの決定次第でした。ある日、私がバジャン ホールにいる間、カストゥーリ氏が入って来られ、スワミが私の娘に上階に来るようにおっしゃっていると言いました。それはスワミのお望みでしたので、私はシーラにカストゥーリ氏と一緒に上階に行くように言いました。シーラは他の子供とスワミが一緒にいる部屋の中に通されました。その子供は幼い少女で、深刻な咽頭の難病に苦しんでいました。

スワミは手術をなさるおつもりで、そのお手伝いができるかどうかシーラにお尋ねになりました。

「私がハサミ、コットンや他のもの等を要求した際には、私に渡しなさい。わかりましたか？ 」

娘はスワミが要求なさっていることを充分に理解していたわけではありませんが、そ

れでも（スワミの手術を手伝うことに）同意しました。スワミは手術に必須の道具や薬品を物質化され、苦しんでいる少女の喉の手術を実施なさいました。

手術後、シーラは階下のバジャンホールに降りて来ました。
「なぜスワミはあなたをお呼びになったの？ 」と、私は彼女に尋ねました。
「アンマー（お母さん）、わかりません。スワミは幼い少女の手術をなさいました。私はスワミに、ハサミ、コットン等、スワミがおっしゃったものは何でも手渡しました」信じられますか？　私は茫然としました。申すまでもなく、その幼い少女は完治しました！

神のみが唯一正しい処方箋をご存知である

もうひとつの出来事を分かち合わせてください。私たちがナーグプルに暮らしていたころ、シーラは 10 歳ぐらいでした。突然、何の前触れもなく、シーラは華氏 100 度（摂氏 37.8 度）の高熱に見舞われました。地域の何人かの名医に診て頂きましたが、どの医者も原因を特定することはできませんでした。医者たちは結核症が原因なのではないかと考えていました。検査が行われましたが、どの検査結果も完全な健康状態を示しました。一体どこに問題があるのでしょうか？

当時、私の夫の友人がデリーから帰省していました。彼は医者で、シーラを検査することに同意してくださいました。彼は、娘はそれほど深刻な病ではなく、子供によっては新陳代謝率が遅いので、そのことが原因でこのような症状になったのではないかと言いました。しかしながら高熱が下がる様子はまったくありませんでした。このような症状が 2、3 か月続きました。私は医者への信頼を失いました。私は夫にプッタパルティに行く許しを願いました。
「そこ（プッタパルティ）には医者はいないではないか」と夫は言いました。しかし、私は断固として娘を一緒に連れて行き、スワミに会いたいと言い張りました。

私はバガヴァンにお会いしました。そのとき宿泊施設は満室でしたので、スワミはガレージの一部に滞在するようにおっしゃいました。それで、私の娘、（一緒にそこにいた）、妹と私はガレージに宿泊しました。スワミは私におっしゃいました。
「私はなぜあなたがシーラを連れて来たかわかっています。彼女は熱が出ています。そうですね？ 心配してはなりません。彼女は大丈夫です。しかしあなた方は 1 か月ここに滞在しなければなりません」

スワミはシーラに午前 9 時以降の外出を禁じられました。
「彼女を太陽にさらしてはなりません」スワミはおっしゃいました。
「あなたはとても気を配らなければなりません。あなたが洗濯のため外出する際は、彼女が部屋の中にいるように鍵をかけなさい。私も彼女の面倒をみます」

1 か月後、スワミは私たちに外出を許可してくださいました。1 か月間、スワミはシーラの熱を測ることもなく、何も治療はなさいませんでしたし、私も何もしませんでした。私たちがナーグプルに到着後、夫が娘の熱を測ってみると平熱でした。私は人々に、スワミの行為の理由を説明することができません。

第 9 部（最終回）へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01NOV08/14-h2h_special.htm

ラニ マー女史へのインタビューより

第 9 部

危険と遭遇

1974 年、私は姻戚を訪問するためにチェンナイに行きました。3 日程彼らと一緒に滞在しました。バンガロールに帰宅する日の朝、私は息子に朝 6 時に迎えに来るように頼みました。できるだけ早く出発したかったからです。その日の前夜、息子は従兄と一緒にいて、夜遅くまで起きていました。しかしながら、彼は車で私を乗せるために急いで到着しました。出発前に、私は 3 歳になる孫のドゥルヴァを伴い、聖堂にお祈りに行きました。私は孫に善い習慣を教え込みたかったのです。

私たち二人（ラニ マーと孫のドゥルヴァ）は唱えました。
「トワメーヴァ マーター チャ ピター トワメーヴァ・・・
（おお主よ！ あなたは私たちの母、父・・・）」
そしてナマスカール（平伏して礼拝）を行いました。私たちはこうして車に乗り込みました。私の孫息子、娘の義理の母のラージャムと私が乗車していました。夫も私たちと共に乗車していましたが、道中、夫はデリーに行く便に乗るために飛行場で車を降りました。

それは早朝のことで、路上は（障害物がなく視界は）はっきりとしていました。ごくわずかな乗り物にしか遭遇しませんでした。私たちがコラールに近づくにつれて、息子は運転中に眠気を催しました！　ところが私はヴィシュヌ サハスラ ナーマム（1008 のヴィシュヌ神の御名）を唱えるのに夢中になっていました。その日まで数日間、唱え損じていたからです。そのため、私は息子が運転中、うたた寝していることに気づきませんでした。何の前触れもなく、私はけたたましい音を聞き、車が大木に激突したことに気づきました。

ドアが飛び開きました。トランクの中には、息子が自分の勤務していた工場に運んでいた重い鋼鉄がいくつかありました。衝突の衝撃が原因で、それらの鋼鉄が後部座席を突き破り、私の背中を一撃しました。スワミのお写真とヴィブーティの入った私のバッグは、私の手元を離れて道路に飛び散りました。

大木には衝突せずに、道路から逸れて排水溝かあるいは峡谷に衝突することもできましたが、その場合は致命的な大惨事となっていたことでしょう！ 息子は足のつま先の傷以外に怪我はありませんでした！ 彼は狂乱状態でうろたえ、何が起こったのかわからず、混乱していました。息子はただ繰りかえし言いました。「僕は何てことをしてしまったのか？ 」孫息子もまた無傷でしたが、意気消沈して震えて、何が起こったのか尋ね続けました。孫息子をなだめるのは大変なことでした。

しかしながら、私は重傷を負いました。前額部に深い傷を負い、鼻からひどい出血をして、身体内部の損傷、筋肉の断裂、歯は折れ、身体中を打撲し、背中も重い鋼鉄部分が一撃した影響で、激痛に苦しみました。私は真っ直ぐに立つことができず、激しく痛みました。ラージャム（娘の義理の母）は助手席から落ちて意識がありませんでした。私の息子は最悪の事態を恐れていました。ラージャムに生きている兆候が見られなかったからです。

思い出しますと、最初に私が息子に頼んだことは、私のハンドバッグからスワミのお写真とヴィブーティを取り出してもらうことでした。息子は車を降りて、財布と道路に散乱した中のものを拾い集めました。私は、息子、孫、ラージャム（娘の義理の母）と私自身にヴィブーティを塗りました。そしてラージャムを揺すって、ずっとスワミの導きを祈っていると、彼女は意識を取り戻しました。そのことについて今思い返しますと、最大の奇跡は、事故の全過程を通して、私が完全に落ち着いていたことです。車は完全にグシャグシャに破壊されていましたが、これらすべてのことにも関わらず、スワミは

私の息子を守ってくださいましたので、息子は私たちの世話をすることができました。後になって、ラージャム（娘の義理の母）があご骨と歯の多発性骨折に耐えていたことが判りましたが、他は無傷でした。

私は誰か助けを送ってくださるようにスワミに祈りました。まもなく、大きなトラックが私たちに近づいてくるのが見えました。息子はまだショックを受けていました。しかしスワミの恩寵により、私は完全に落ち着いていて、そのトラックに手を振ることができました。私は運転手に最も近い医療センターに私たちを乗せて行ってくれるよう頼みました。運転手は同意しましたが、私たちがトラックに乗るために、階段をのぼることができないのではないかと心配しました。その瞬間、アンバサダー（インドの国産車種）の車が到着しました。彼らはティルパティー（寺院）での巡礼から帰るところでした。運転していた紳士が車を止めて、援助を申し出てくださいました。私は最も近い医療センターに乗せて行ってくださるようお願いしました。その車の中は既に満席でしたが、紳士は車に乗っていた客人たち全員に降りるよう頼んでくださり、私たちを乗せて一番近い医療センターに連れて行ってくださいました。

その時、私は息子に、バンガロールにいる娘と妹に連絡してこの事故のことを知らせ、何台かの車で医療センターに来て、バンガロールに戻るために私たちを運んでほしいとお願いするよう頼みました。またバンガロールの病院に私たちが入院できる手配をしてくれるように頼みました。息子は公衆電話ボックスを見つけて、彼女たちと連絡を取り、話しました。

そうこうしている内に、医療センターの医者がサイの帰依者であることが判りました！ その医者もまた、私たちの額にヴィブーティが塗られているのを見て、私たちがサイの帰依者なのかと尋ねてきました。しかしながら、私の外傷は外科医に縫ってもらう必要があり、彼のところにはその傷に対処する設備がないので、私を治療することができないと言いました。その医者は単に応急処置ができるだけでした。しかし救助が到着するまで私たちは医療センターで休むことができる、と言いました。彼は私たちにそれ以上何もできないことを申し訳なく感じていました。私は彼に心配しないように告げ、なんとか痛みに耐えることができました。

私の義理の息子、娘、妹が、約 3 時間後にバンガロールから到着しました。私の妹の息子は医者をしており、バンガロールのセント マーサズ病院の病棟外科医でした。妹は私の目が黒目（目の周りの青あざ）になっているのを見ました。彼女は泣き始めました。妹の最初のコメントは、

「ディディ（お姉さん）！ あなたは生涯病人になるかもしれません！ 」

私はスワミが私の面倒をみてくださると言って妹をなだめました。私たちは車に乗り込み、病院に向かいました。

私の夫は、天然痘の根絶のため、デリーからラクナウ（インド北部の都市）に WHO（世界保健機関）の任務で行っていました。夫はラクナウのラーマクリシュナ・マート（僧団）に滞在していました。事故の知らせを聞いて、夫は大急ぎで次の日にバンガロールにかけつけました。しかしながら、私は病院に入院してからひどいめまいと見当識障害に苦しみ始めました。床が天井扇風機のように回転しているのを感じ、とても悪い状態でした！ その翌日、医者は私のめまいを治療できないので、NIMHNS（国立精神神経保険研究所）の専門名医の治療が必要だと告げました。

それで、NIMHANS（国立精神神経保険研究所）の所長であり、夫の友人であるマニ医師が私を診るために来ました。マニ医師の診断では、私には脳手術が必要とのことでした。ここで私は平静を失い、とても恐ろしくなりました。私はマニ医師に手術を受けたくないと告げました。先ず経口薬を試して、仮にその薬が効かない場合はそれが神のご意志と認めて手術を受けるけれども、それまでは手術は受けたくないと伝えました。夫は私が名医の意見に反することに悩みました。

しかし、夫はチェンナイ在住の一流の神経科医である義理の兄弟にアドバイスをもらうため電話をしました。彼は偶然、マニ医師の大学の教授でした。義理の兄弟は言いました。

「彼女（ラニ マー）の言う通りにしなさい。マニ医師に手術するのを待って、薬物治療をするようにと告げなさい」

それで、彼らは日に 3 度、私に薬草製剤を投与しましたが、手術という手段を使う前に 24 時間だけ待つと言ってくれました。

私は熱心に、スワミに手術から私を救ってくださるように祈りました。その翌日、目を覚ますとめまいがなくなっていたのです！ マニ医師がいらしたときに、そのことを報告しました。

「それは素晴らしい！ 手術は必要ありませんが、更に一か月は薬物治療を続ける必要があります」

私は喜んで応じました。他の軽傷の治療のために 3 週間を要し、その後、私は退院しました。

この間、チャンナイから私を見舞うために来てくれた義理の父、義理の母を含むすべての人が、私以上にこの事故について心配してくれました。私の方が彼らをなだめなければならなかったのです！　ラージャム（娘の義理の母）はあごの骨折以外は何も怪我はなく、彼女も完全に回復（完治）しました。

しかしながら、孫息子は私に尋ねました。

「おばあさん、どうして神様はおばあさんが祈っていたのに守ってくださらなかったのですか？ 」　私は孫息子に言いました。

「ドゥルヴァ、あなたには理解できないでしょう！ 神様はお優しいのです。だからこそ、あなたの痛みのすべてを私に与えてくださったのです。もしあなたが負傷していたなら、私はひどく辛くなるからです。あなたが無傷だから、私はこの痛みを喜んで耐えることができるのです」

驚くべき恩寵！

事故後の数か月間、私は筋肉痛に苦しみました。楽な姿勢で座り、瞑想することができませんでした。私はスワミに祈りました。痛みは気にしませんでしたが、楽な姿勢で座り、瞑想できるよう私を祝福してくださいとスワミにお願いしました。

この後、私は夢を見ました。スワミがホーマ クンダ（護摩壇）を挟んで、僧侶と反対側にお座りになっていました。僧侶とスワミの両者はマントラを唱えながら、炎の中に供物を注ぎ込んでおられました。

スワミご自身がなぜホーマ（護摩焚きの儀式）を執り行っておられるのか不思議に思いました。スワミは私をご覧になり、おっしゃいました。

「私はあなたのために、ムルッテュンジャヤー ホーマ（死から人を守るための犠牲の護摩焚き）を行っているのです！ 」

スワミの恩寵がなければ、私が死んでいたであろうことは明白でした。6 か月後、私は楽に座り、瞑想ができるようになりました。

ここでのレッスンとは、スワミの恩寵はどんな人でも得られるということです。しかし、（その恩寵は）正しく生き、スワミの御教えを実践することによって獲得しなければなりません。そうしてのみスワミはあなたに神のクリパー（恩寵）を授けてくださいます。私が事故に遭うことはわかりませんでしたが、神の恩寵によって他の誰も傷つくことはありませんでした！ 彼らが負傷したなら悲惨なことになっていたでしょう。彼らの面倒をみてくださったのは誰なのでしょうか？　私の息子は当時、まだ結婚もしていませんでした。

スワミの圧倒的な遍在！

初期の段階では、私たちはスワミが神ご自身だということに疑いを持っていました。スワミはすべての人の最も深い部分の想いをご存知であると共に、私たちが不安を抱いていることもご存知でした。スワミは私たちにおっしゃいました。

「あなた方は疑いを持っていますね。それなら、私の遍在をテストしなければなりません。そうしてのみ私が何者であるか納得することでしょう。神のみが遍在でありえるのです」

ここに、かつて私たち全員に神の遍在を証明した出来事があります。私は子供を出産する予定の妹を助けるために、列車でデリーからカルカッタに旅をしていました。私は一人だったので、婦人車両を選んで乗車していました。列車に乗り込むと、婦人車両に乗車しているのは私一人だけでした！ そのことは気になりませんでした。しかし間もなく車掌が来ると、私が（婦人車両に）独りでいるのを見つけ、車両の両扉をボルトで締めるよう忠告しました。なぜなら群盗団が列車の婦人車両を襲うことで知られているムガールサライのような何か所かの危険な地域を列車が通過するからでした。

その車両には２つの重い鉄製の扉があり、それぞれに３つの掛け金が掛けられていました。１つ目の扉の３つの掛け金をすべて掛けて締めました。しかし困ったことに、２つ目の重い鉄の扉の掛け金の配列がずれていて掛けられなくなっており、動きが取れない状態でした。私は蹴ったり、押したり、できることはすべてし尽くしましたが、扉はびくともしませんでした。ですから、きちんと掛け金が掛かる可能性はありませんでした。

そして、私は神の遍在をテストするというスワミのご指示を思い出しました。私は車両に座り、目を閉じて、スワミに私の苦しい思いを示し、マントラを唱え始めました。少しすると、ドスンという鈍いドアの音に続いて、柔らかいヒューッと鳴る音を聞きました！　これはスワミが私の祈りに応えてくださっているに違いないと自分自身に言い聞かせました！ 私が扉の方に歩いて行くと、驚いたことに、先ほどまで配列がずれていた同じ扉の掛け金が一直線になり、完全な場所に掛けられていたのです！

この体験に私は茫然とし、同時に身に染みて感動しました。スワミのお身体がおわすところから遠く離れた場所で、スワミの遍在の充分な証拠を受け取りました。私は一晩中眠ることができませんでした。私はデリー駅のプラットフォームで友人や姉妹に会うと、すぐに自分の体験を止めどもなく話し出しました！

私は毎日、数回、スワミの遍在を感じる出来事があります。

ヴィブーティ ― パワフルな万能薬

私には偉大なるシヴァ神の帰依者であるヒマット ラーオというコック（料理人）がおり、幸運でした。ヒマット ラーオは 40 歳で、彼の妻は 30 歳代でしたが、この夫婦には子供がいませんでした。夫婦はあらゆる薬を服用し、寺院、医者と彼らが（子供が授かるように）思いつくことはどんなことでも試みていましたが、成功せず苦しんでいました。ヒマット ラーオは私に助けを求めました。私の夫が医者であったため、私は彼の妻を検診するように手配しましたが、夫婦には何も悪いところはみつかりませんでした。彼（ヒマット ラーオ）は、私がスワミに祈るのを見て、スワミが私のグルであることを知っていました。しかし、彼はそれまで身体的にババを見たことはありませんでした。

ラーオに対する私の助言は、彼の妻が毎朝、毎晩、グラスに 1 杯、ヴィブーティ入りの水を飲み、夫婦共々、子供ができるようスワミに祈ることでした。私はまた彼らに、この願いが叶うためにどれだけの時間が要しようとも信じることを諦めてはいけない、そして忍耐を持って祈り続けなければならない、ということを助言しました。数か月後、彼女は妊娠し、男の赤ちゃんが誕生しました！ この子供の後で、2 年の間を置いて更に 5 人の男の子を授かりました！ 言うまでもなく、夫婦は大喜びでした。

ヒマット ラーオは私に、スワミに会うことができるようにプッタパルティに連れて行ってほしいと懇願しました。スワミの恩寵がそれ（彼の願い）を叶えてくださったようで、私の夫がチェンナイまで出張しなければならなくなり、夫はヒマット ラーオをバンガロールまで車で送ってくれました。当時、私は偶然いくつかの仕事のためにバンガロールに滞在していたのです。私はヒマット ラーオをプッタパルティに連れて行き、スワミの豊富な恩寵を体験した後で、遂にババのダルシャンという幸運を授かりました。

ここにヴィブーティのパワーを示すもう一つの事例があります。私には 20 代後半の若いメイドの使用人がいました。彼女の夫は 10 年程前に失踪していました。ある日、彼は帰宅せず、（その後の）彼の手掛かりはありませんでした。メイドはこのことで非常に悩んで、私に助けと求めました。私は彼女に、スワミのヴィブーティ入りの水を毎日飲んで、彼女の夫が戻ってくるように、祝福してくださるように祈ることを助言しました。メイドは数か月間、祈り続けました。ある日、誰かが彼女の部屋のドアをノックしました。彼女がドアを開けると、そこには長年失踪していた夫がいたのです！ 彼は妻を置き去りにして大変悪いことをしたこと、そして永遠に戻ってきたことを話しました。私も彼女のために祈っていましたが、この出来事には唖然としました！ これは、スワミに不可能なことは何もないことを証明したもうひとつの出来事です。

ヴィブーティは、信仰によって定期的に服用することで、単に身体的にだけではなく、精神疾患など、まさにあらゆる病を治療します。私が若いころ、スワミが私にヴィブーティを服用するよう助言された、いくつかの問題（病）がありました。これ（ヴィブーティ）は私を治療してくれました。今日まで、日常のちょっとした病の私の万能薬としてヴィブーティ水を１瓶、常に持ち続けています。

私が記憶しているヴィブーティのパワーを体験したもうひとつの出来事があります。チェンナイで、私には 20 代後半の若い隣人がいました。彼女とは当時、ただの知り合い程度のお付き合いでした。ある日、彼女は私に家に来てほしいと頼んできました。私は彼女のことをほとんど知らなかったので驚きましたが、いずれにせよ彼女の家に行きました。彼女は私に言いました。

「私はシルティ ババの帰依者です。あなたがサティヤ サイババの帰依者だということは理解しています。彼ら（シルディ ババとサティヤ サイババ）は、同じだと聞きました。私にあなたの体験を話して頂けますか？ 」

私は１時間彼女と過ごして、私の幾つかの体験を話しました。

数日後、私は自宅の玄関にその隣人を見つけて驚きました。祈りの最中に、（内なる）声が私と話すように指示したと彼女は言いました。その隣人はまた、私の夕方の祈りに加わることはできないか尋ねてきました。私は通常祈りは一人で行ないますので、そのような（他の人と一緒に祈る）ことはしませんと、言いました。しかし、彼女は私に（一緒に祈るように）頼むよう導かれていたので、私のほうが同意しないと自分勝手なことになります。そのときから毎日、雨の日も、晴れの日も、定時になると隣人は私の自宅を訪れました。

彼女は質問をして、私はバガヴァッド ギーターとスワミの御教えをもとに、それらの質問に答えました。後に、彼女がチェンナイの警察監査官の妻で、彼女の夫が数年前に心臓発作で亡くなっていたことを知りました。彼女には 3 人の幼い子供たちがいて、とても悩み苦しんでいました。彼女は夜眠ることができず、医者は彼女に睡眠薬を処方していました。私は彼女に、薬物中毒になるかもしれないから、睡眠薬を服用するのは止めるように助言しました。おそらく、これがスワミの御慈悲により、彼女が私に会いに会うように促した理由だったのでしょう。

私は彼女に、毎晩ヴィブーティ水を飲み、睡眠薬を服用することなく眠ることができるように恩寵を与えてくださいとスワミに祈るよう助言しました。それが何週間、何か月かかろうとも、断固として睡眠薬を服用することを止めることに、忍耐強くなるようお願いしました。

「肯定的になり、あなたのマントラを唱え続けてください。『あなたが私に眠って欲しくないのでしたら、私は喜んであなたの御名を唱えることに時間を費やします』と、スワミに言いなさい！」

数か月の内に彼女は睡眠薬がなくても眠れるようになり、今日までそのような状態を維持し続けています。彼女は今 60 歳以上です。彼女は毎月私に電話をかけてきますが、その体験をまだ覚えています。

肯定的に考え、信仰を持たなければなりません。信仰はとてもパワフルです。スワミは助けてくださいますが、スワミへの信仰を持たなければなりません。

私は（次のマントラの）吟唱と共に（私のお話を）終えさせて頂きます。

オーム マンガラム、オームカーラ マンガラム、グル マンガラム、グルパーラ マンガラム

(オーム、原初音は吉兆、グルは吉兆、神の御足は吉兆)

ラーム ナーム ジャパ ナーリー

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

ラーマ ナーマ ジャパ ナーリー　(3)

（ラーマ神の御名を繰り返し唱えましょう）

ジャブ タブ シュワス ラヘー タヌー ビータール (2)

（あなたの身体において呼吸がある限り）

タブ タク ヤハー ジャガ アパナーレ

（それまで、この世はあなたのもの）

ラーマ ナーマ ジャパ ナーリー (2)

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

マーター ピター スター バンダヴァ ナーリー (2)

（すべての親族、親戚、母、父、友人は）

ジョーティ ジャガット カルパナ サーリー　(2)

（すべて非真なり；それらはすべて単なる想像）

アーキール ヤハー ジャガ サパナーレ (2)

（この世はしょせん夢）

ラーム ナーム ジャパ ナーリー　(2)

（ラーマ神の御名を唱えましょう）

シュリ ラーマ ジャヤ ラーム、ジャヤ　ジャヤ　ジャヤ ラーム (2)

（主なるラーマ神の勝利、ラーマの御名を唱えましょう）

オーム シュリ ラーム、ジャヤ ラーム、ジャヤ サイ ラーム

（サイの御名を唱え、神の御名を唱えましょう）

オーム シャーンティ シャーンティ シャーンティ

（平安でありなさい！ 平安でありなさい！ 平安でありなさい！）

出典： http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01DEC08/14-h2h_special.htm